

「2008年輸血業務・輸血製剤年間使用量に関する総合的調査報告書」の概要
—平成17年度血液製剤使用実態調査と2008年輸血業務・血液製剤年間使用量調査との比較—：概要

- I. 2008年輸血業務・血液製剤年間使用量の全国調査を行った。全国7857施設に配布し、3208施設(40.83%)から回答が得られ、その内容を、平成17年度血液製剤使用実態調査結果と比較した(図1)。
- II. 血液製剤使用実態調査関係(平成17年度との比較を含む)
 1. 血液製剤使用量
 - ① 血液製剤ごとの施設規模別使用量について(図2)
 - 各血液製剤とも施設規模が大きくなるにつれて使用量は増加していた。赤血球製剤と免疫グロブリン製剤は平成17年度とほぼ同量使用されていた。血小板製剤の使用は平成17年度の2.7倍に増加していた。特に500床以上の大規模病院においては3倍に増加していた。逆に新鮮凍結血漿とアルブミン製剤の使用は減少しており、新鮮凍結血漿は半分以下に、アルブミン製剤は16.8%の減少がみられた(図2b)。
 - ② 都道府県別血液製剤使用実態：1病床数あたりの血液使用量(単位)
 - 赤血球製剤(図3)

千葉県が最も多く(6.9単位)、東京都、沖縄県の順で、千葉県は平均(4.2単位)の1.65倍であった。平成17年度と比較して使用量が最も増えているのは山梨県であり、26都道府県は減少していた。
 - 新鮮凍結血漿(図4)

新鮮凍結血漿も千葉県が最も使用量が多く(4.9単位)、沖縄県、東京都の順番で、最も少ないのは佐賀県であり(1.06単位)、その比は4.6倍であった。使用量の増減では、山梨県、大分県、栃木県で増加しており、逆に宮城県、秋田県、香川県では減少していた。
 - 血小板製剤(図5)

平成17年度と同じく広島県で使用量が多く、最も少ない高知県の9倍にも達していた。使用量の増減では、新潟県、茨城県、熊本県で増加しており、秋田県、岩手県、宮城県では減少していた。
 - アルブミン製剤(図6)

熊本県で最も使用量が多く(50.9g)、最も少ない岩手県(9.45g)の5.4倍であった。平成17年度と比較して使用量が増加している県は7県のみであった(徳島県、島根県、長崎県、栃木県、茨城県、大分県、高知県)。
 - 免疫グロブリン製剤(図7)

免疫グロブリン製剤は新潟県と沖縄県で使用が多く、高知県と大分県で

少なかった。増減でみても、新潟県と沖縄県で増加していた。

Ⅲ.医療機関の輸血管理体制（病床規模別）

1. 輸血業務の一元管理（図 8）
 - 全施設の 74.3%において輸血業務の一元管理がなされており、平成 17 年度の 47.2%と比較して、大きく増加していた。500 床以上の大規模施設では 95.7%に達していた。
2. アルブミン製剤の使用状況の把握（図 9）
 - 輸血管理料の条件にアルブミン製剤の使用状況を輸血部門が把握していることが挙げられたために、大きく増加し、平成 17 年度の 2 倍以上の 67.3%に達していた。この傾向はすべての規模の施設でみられた。
3. 輸血責任医師の任命状況（図 10）
 - 専任の輸血責任医師の任命施設は、大規模病院では 30%以上(34.4%)で見られるが、兼任の責任医師の任命施設が多く、中規模以上の施設において著明であった。小規模施設では専任および兼任の輸血責任医師を任命している施設はほぼ半数(53.2%)であった
4. 輸血責任臨床検査技師の配置（図 11）
 - 輸血責任臨床検査技師の配置された施設は大きく増加し、中規模施設以上では 95%以上に達していた。小規模施設では 77.6%で配置されていた。
5. 輸血検査の 24 時間体制（図 12）
 - 臨床検査技師による輸血検査の 24 時間体制は全体の 82.6%の施設で実施されており、平成 17 年度と比較して約 20 ポイントも上昇している。しかし、小規模施設では、ほとんどが検査技師によるオンコール体制であり、日当直体制がとれているのは 9.7%であった。
6. 輸血療法委員会の設置（図 13）
 - 輸血療法委員会は中規模施設以上では、ほとんどの施設で設置されていたが、小規模施設では 65.0%であった。全体では平成 17 年度の 49.9%から 73.0%に増加していた。
7. 適正輸血への取り組み（図 14）
 - 適正輸血について輸血療法委員会で検討し、病院全体で取り組んでいる施設は 44.3%であった。特に小規模施設で少なかった(36.7%)。
8. 輸血の「指針」の遵守体制（図 15）
9. 輸血後感染症検査（図 16）
 - 指針の遵守と輸血後感染症検査の実施施設は、平成 17 年度の 21.7%から 28.3%に増加していた。

2008年輸血業務・輸血製剤年間使用量に関する総合的調査報告書

平成17年度と2008年輸血業務・血液製剤年間使用量調査比較報告書

データ集 ①

日本輸血・細胞治療学会

図1 病床数ごとの回答施設数

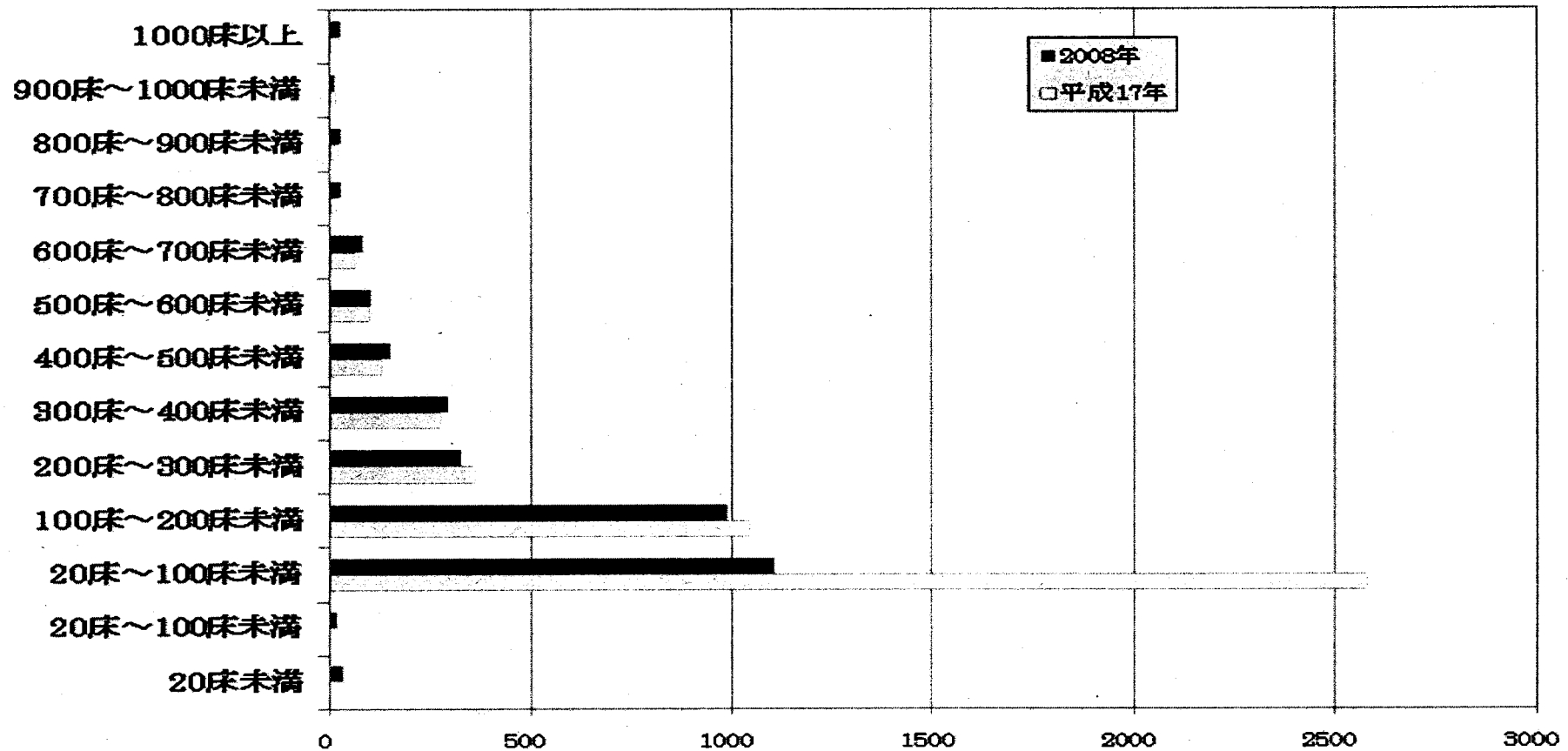
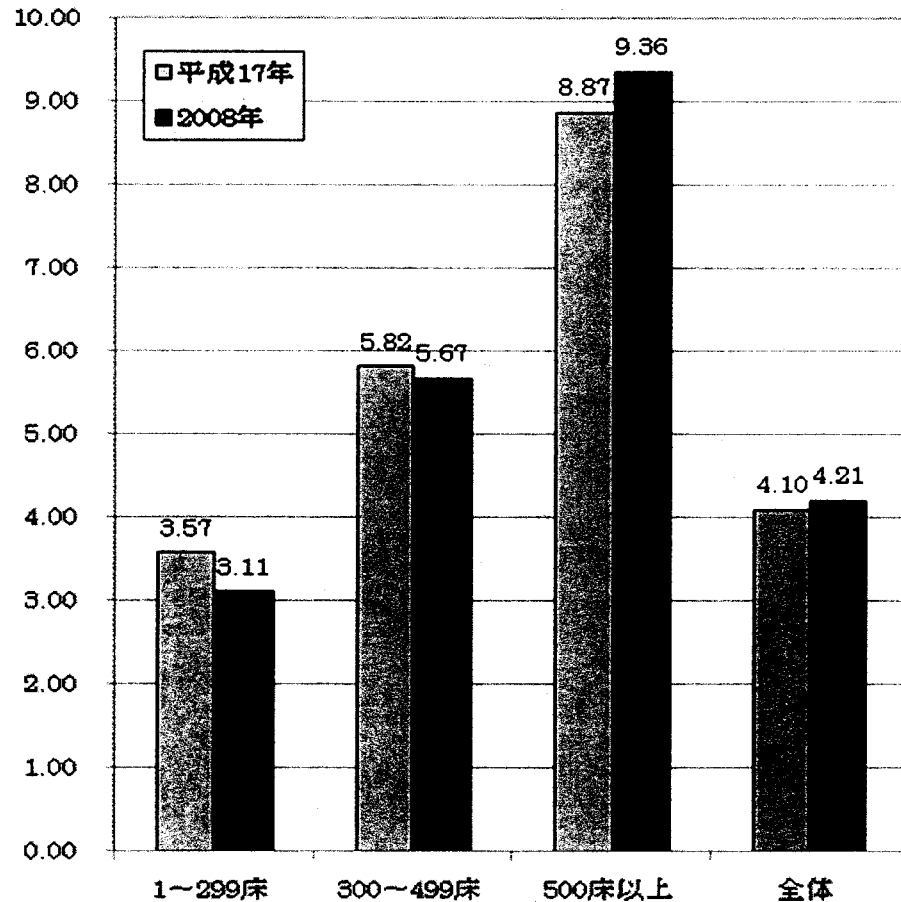


図2a 病床数あたりの血液製剤使用量

赤血球製剤



血小板製剤

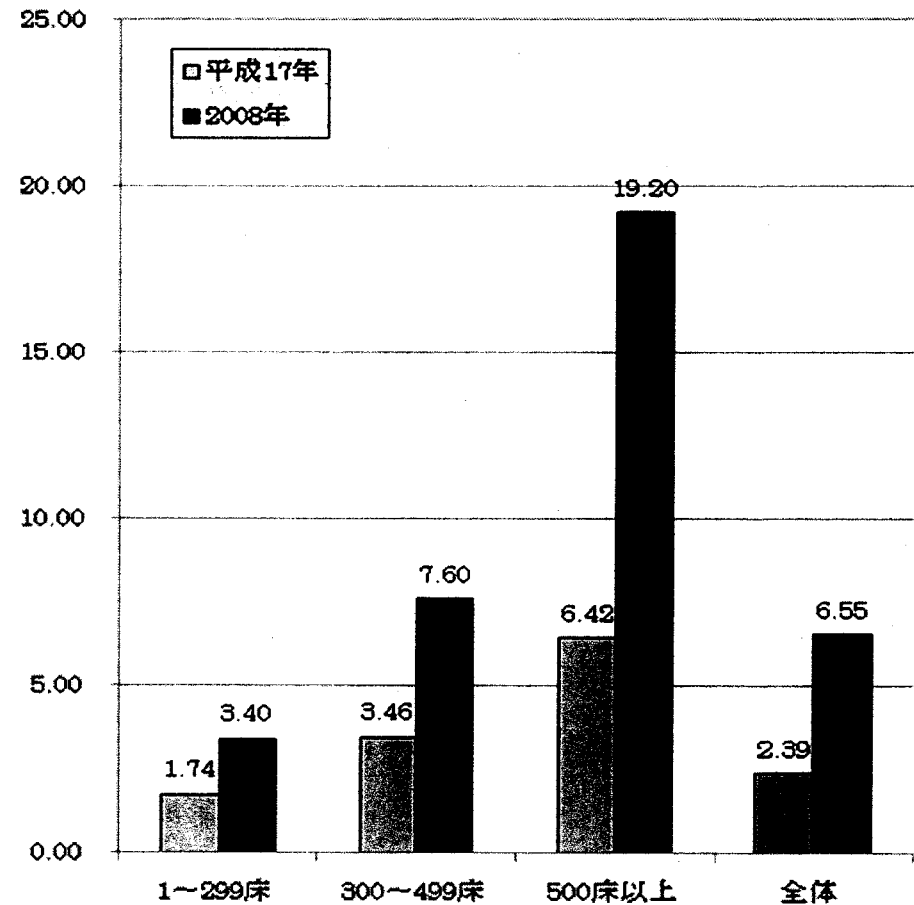
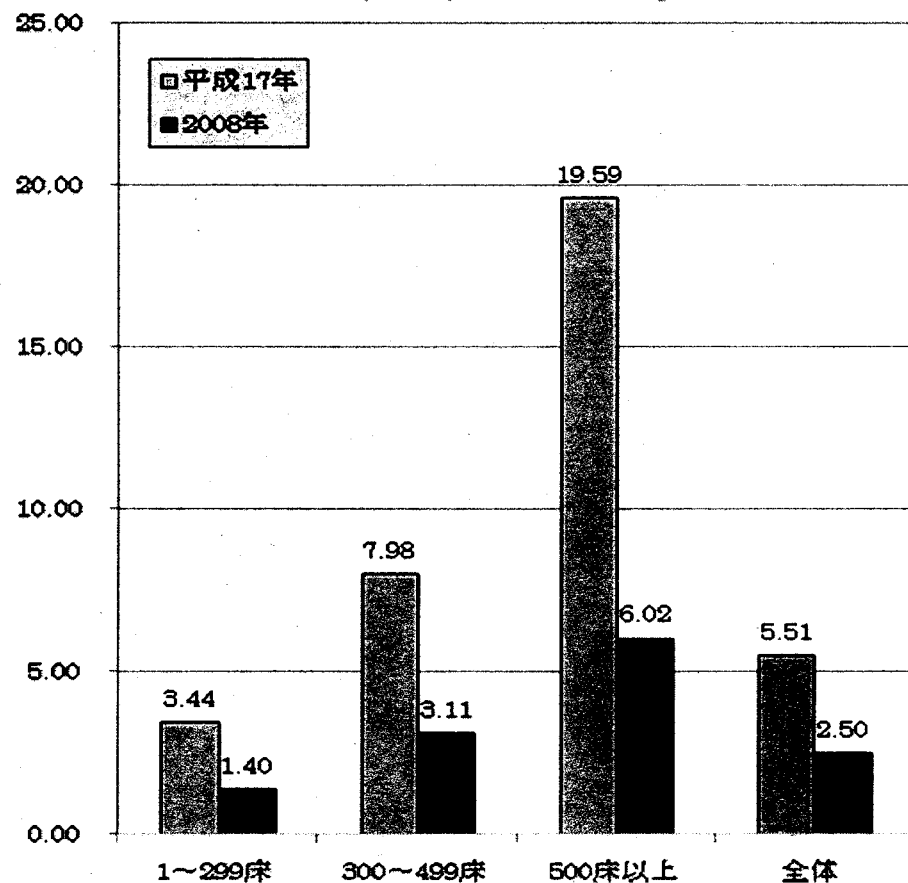


図2b 病床数あたりの血液製剤使用量

新鮮凍結血漿



アルブミン製剤

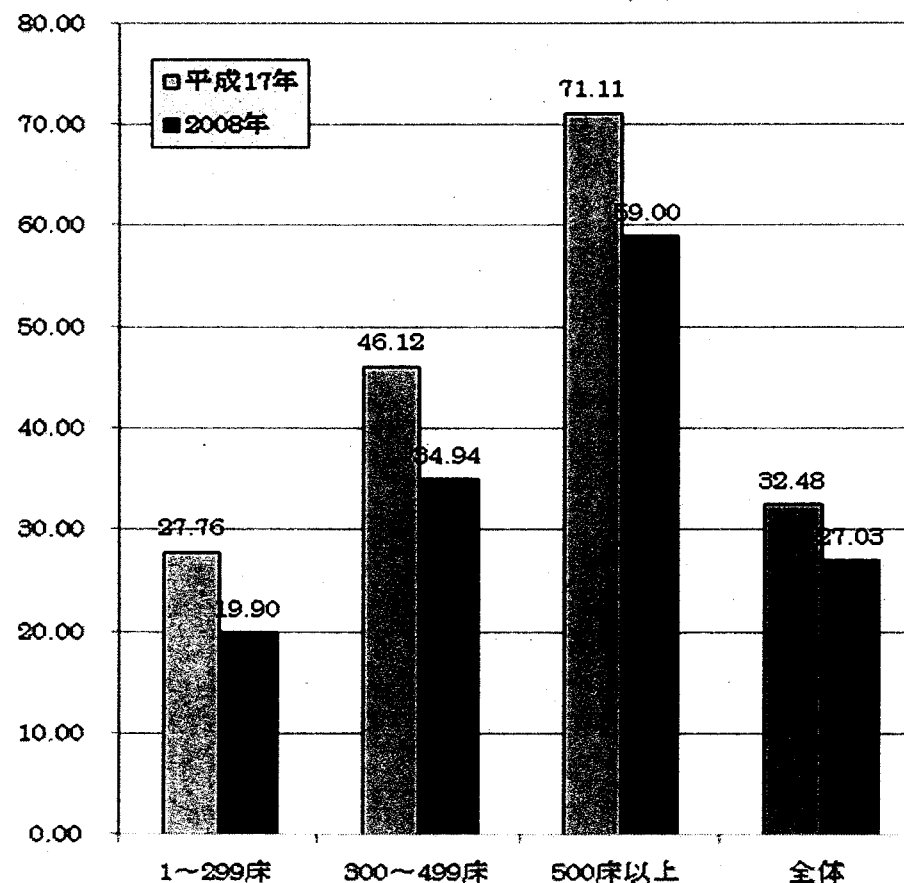


図2c 病床数あたりの血液製剤使用量

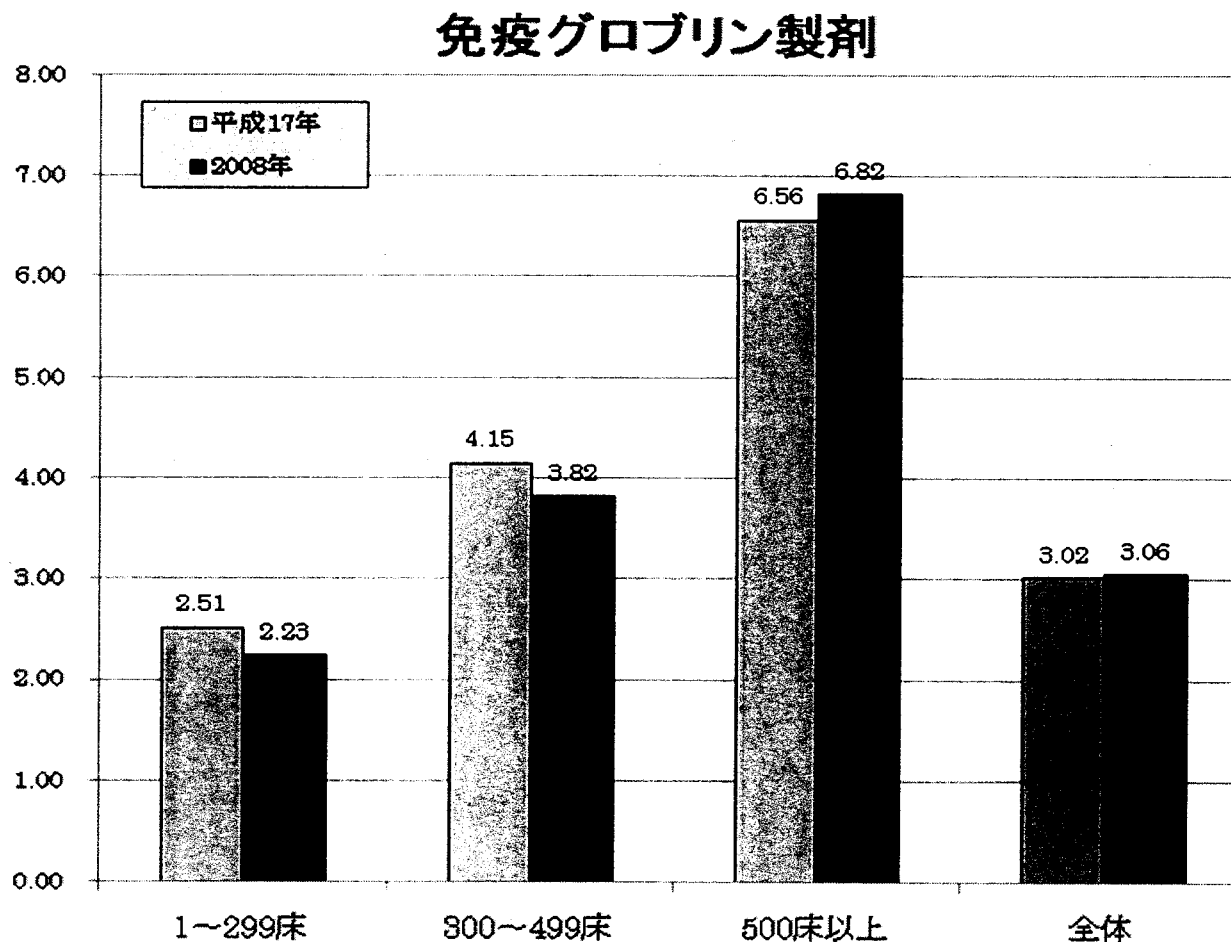


図3a 都道府県別濃厚赤血球使用量(1床当たりの単位数)

平成17年 濃厚赤血球使用量の多い順

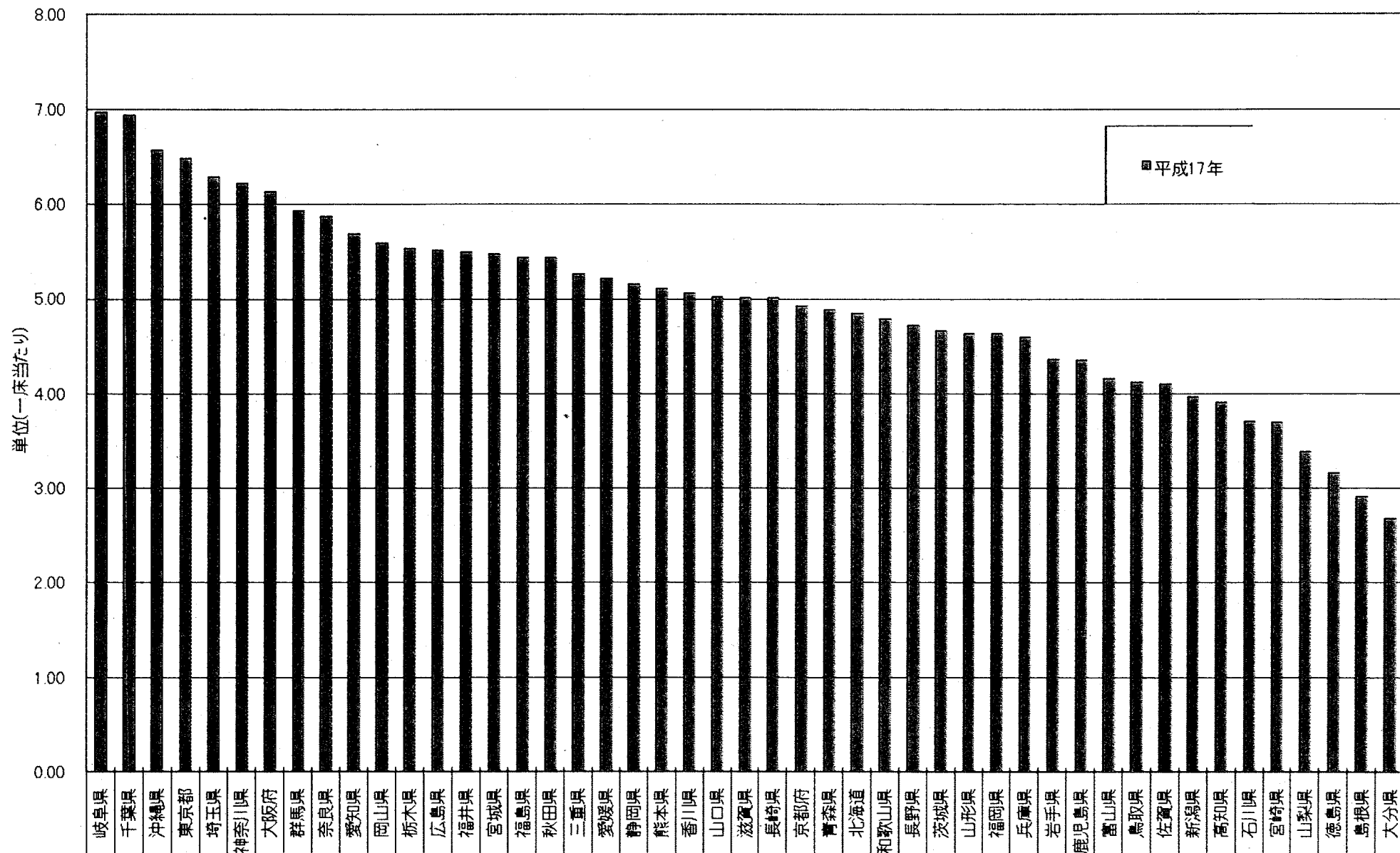


図3b 都道府県別濃厚赤血球使用量(1床当たりの単位数)

2008年 濃厚赤血球使用量の多い順

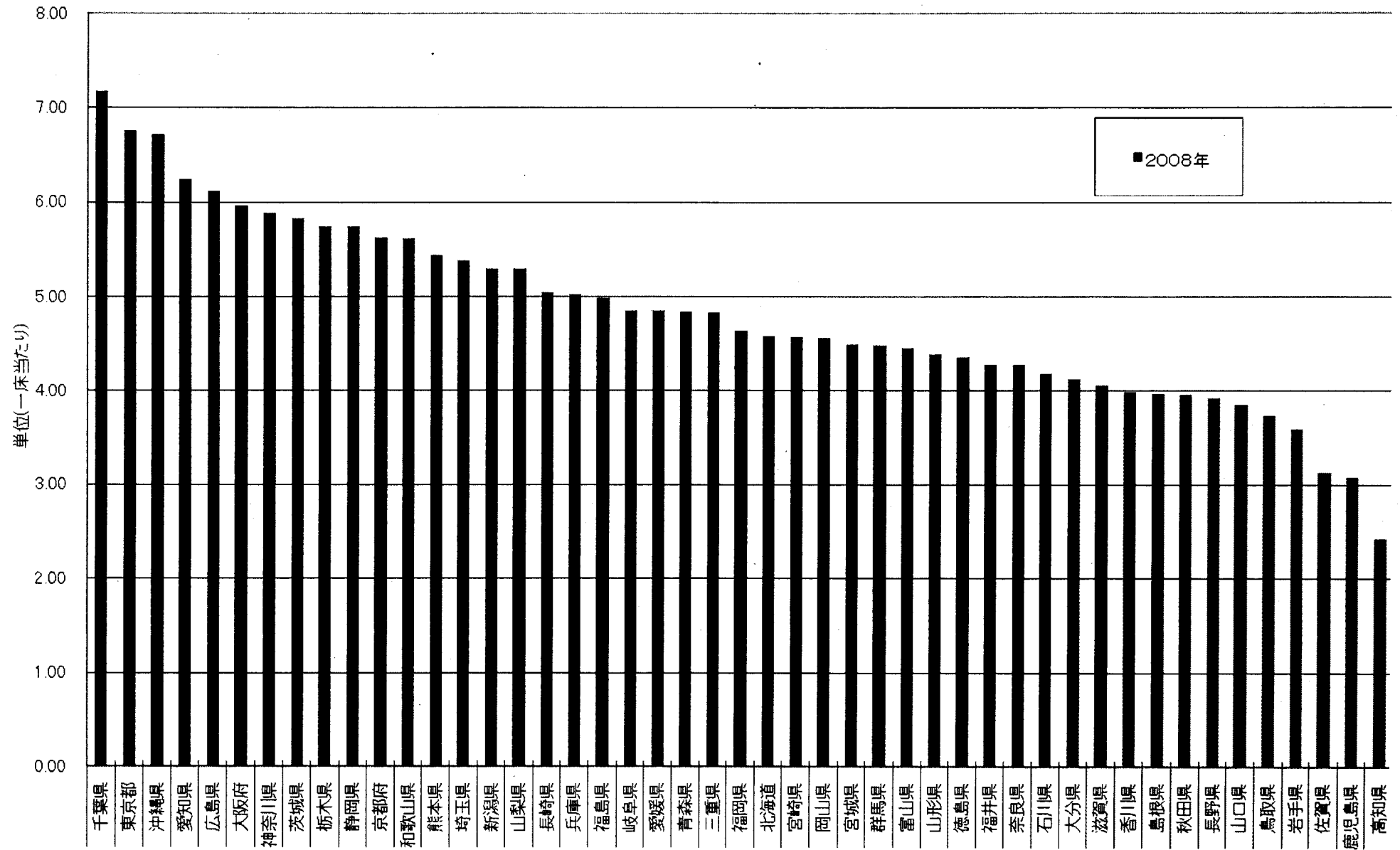


図3c 都道府県別濃厚赤血球使用量(1床当たりの単位数)

濃厚赤血球使用量 年度比較-増減

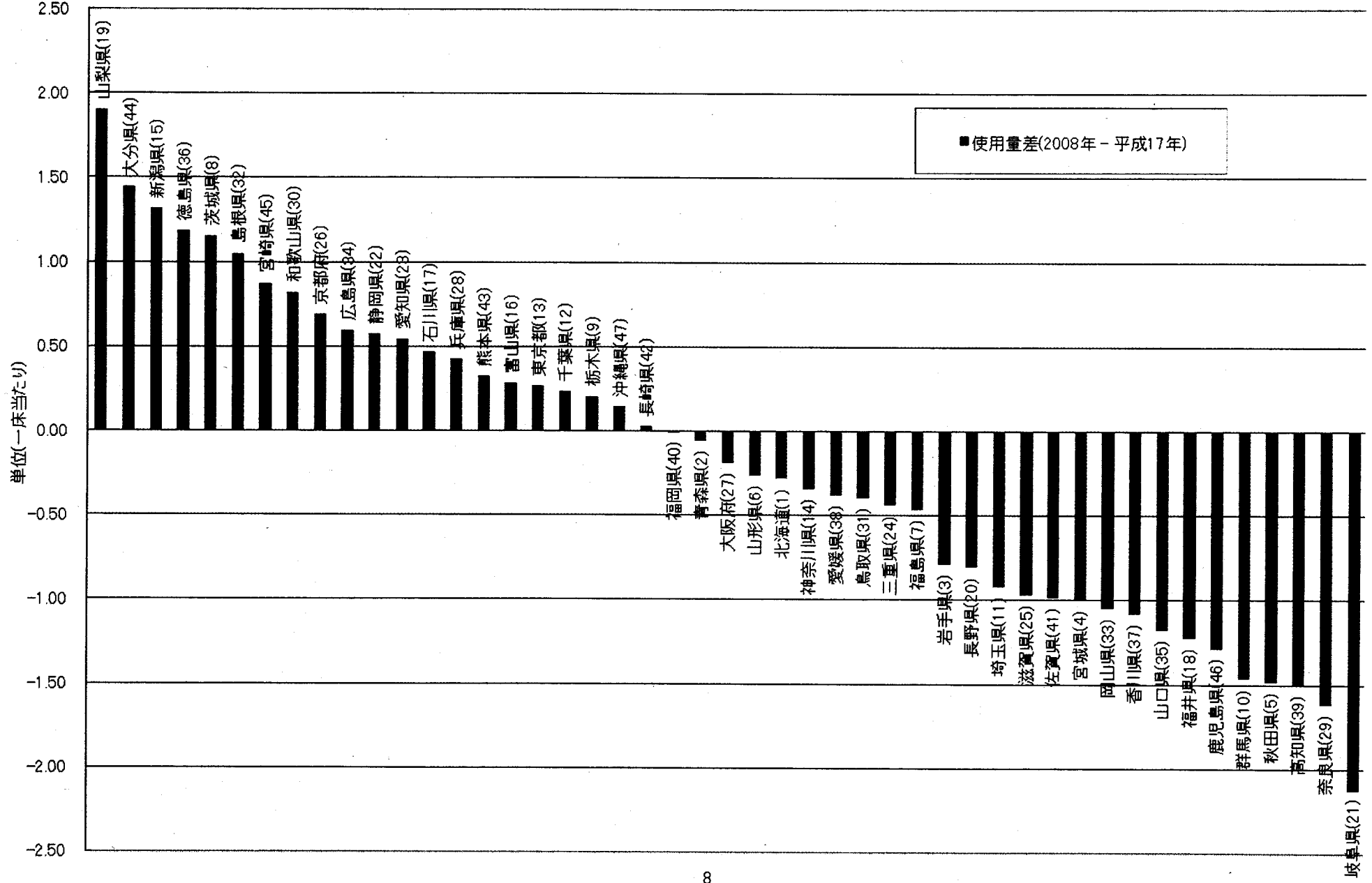


図3d 都道府県別濃厚赤血球使用量(1床当たりの単位数)

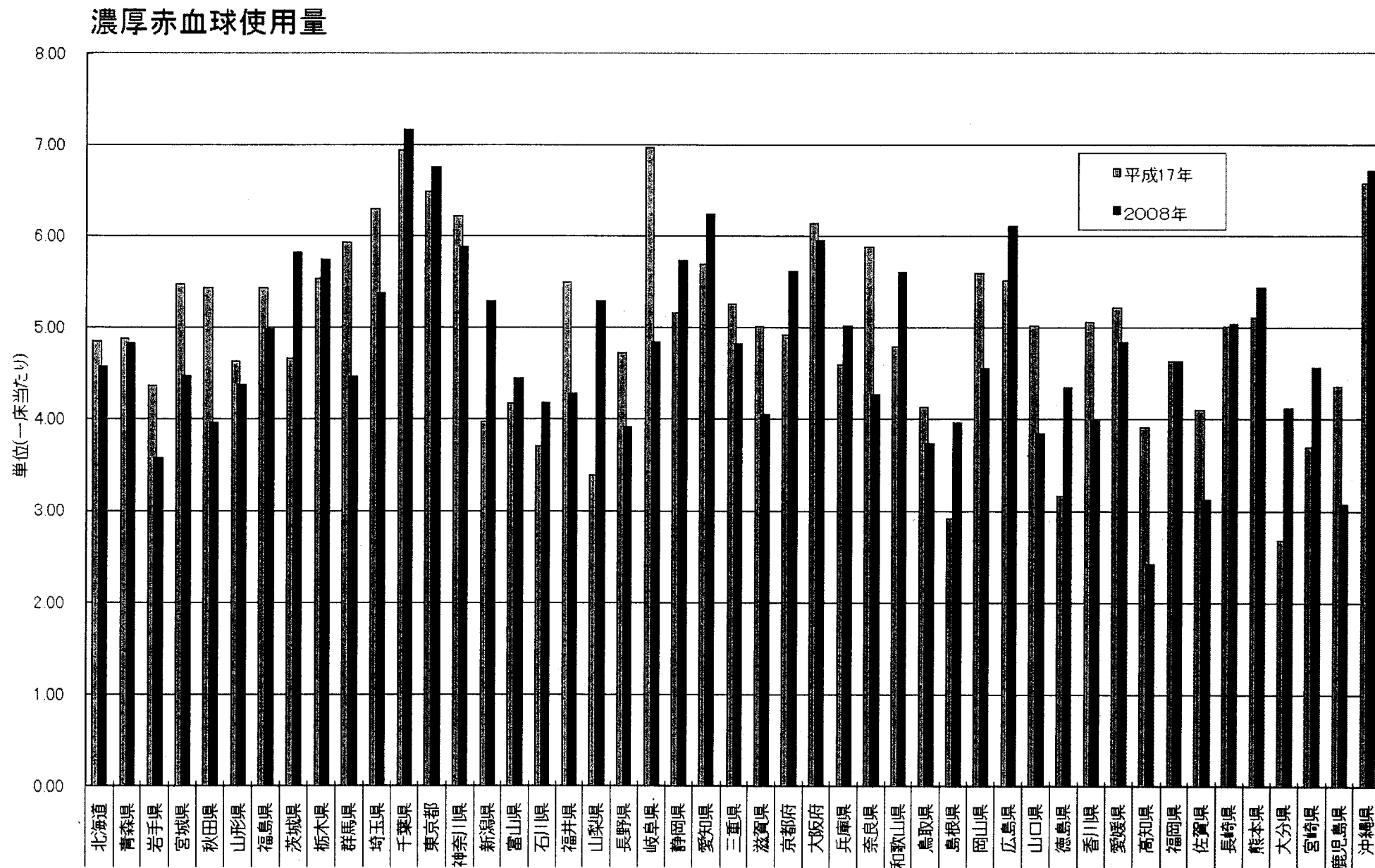


図 4a 都道府県別新鮮凍結血漿使用量(1床当たりの単位数)

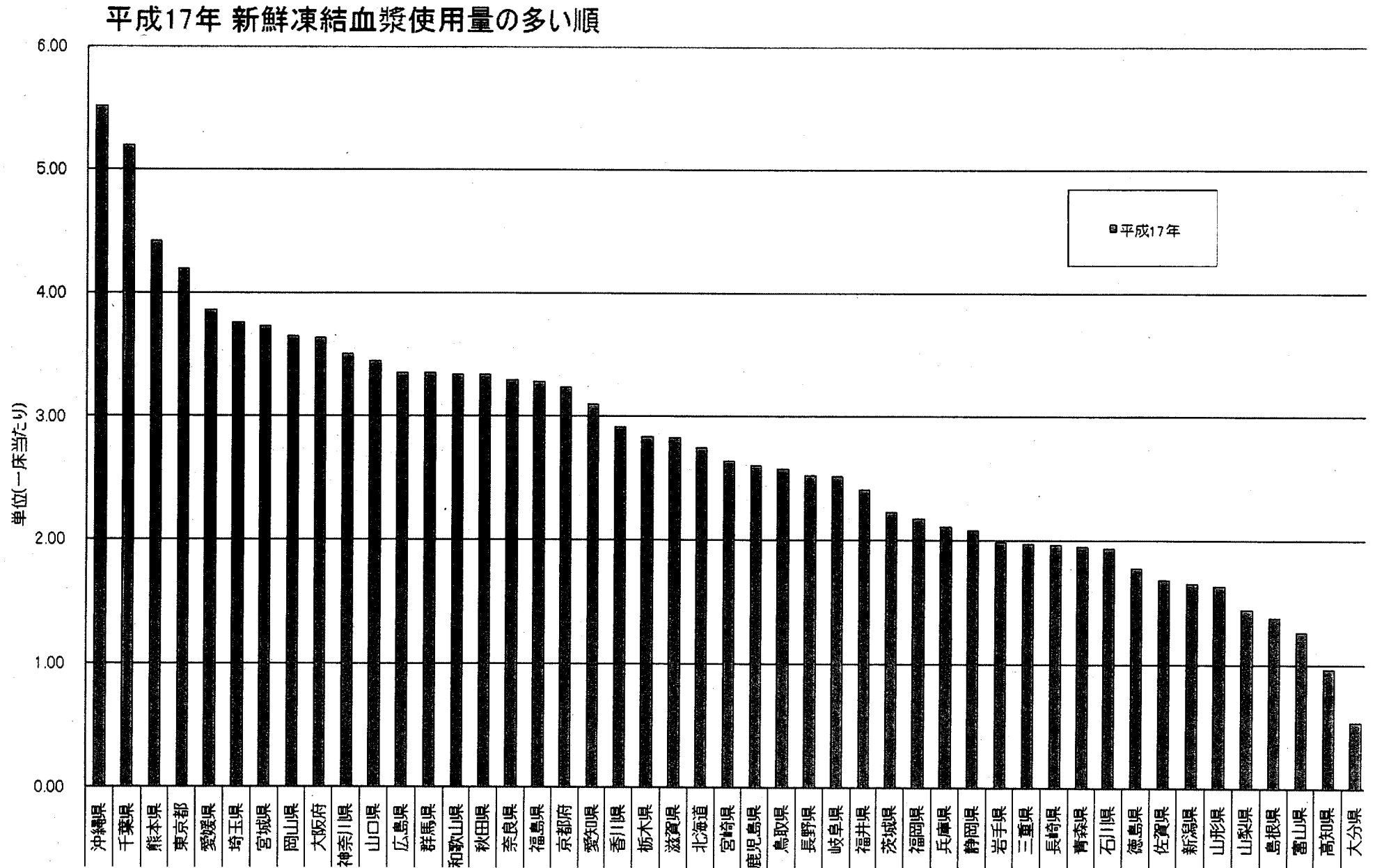


図 4b 都道府県別新鮮凍結血漿使用量(1床当たりの単位数)

2008年 新鮮凍結血漿使用量の多い順

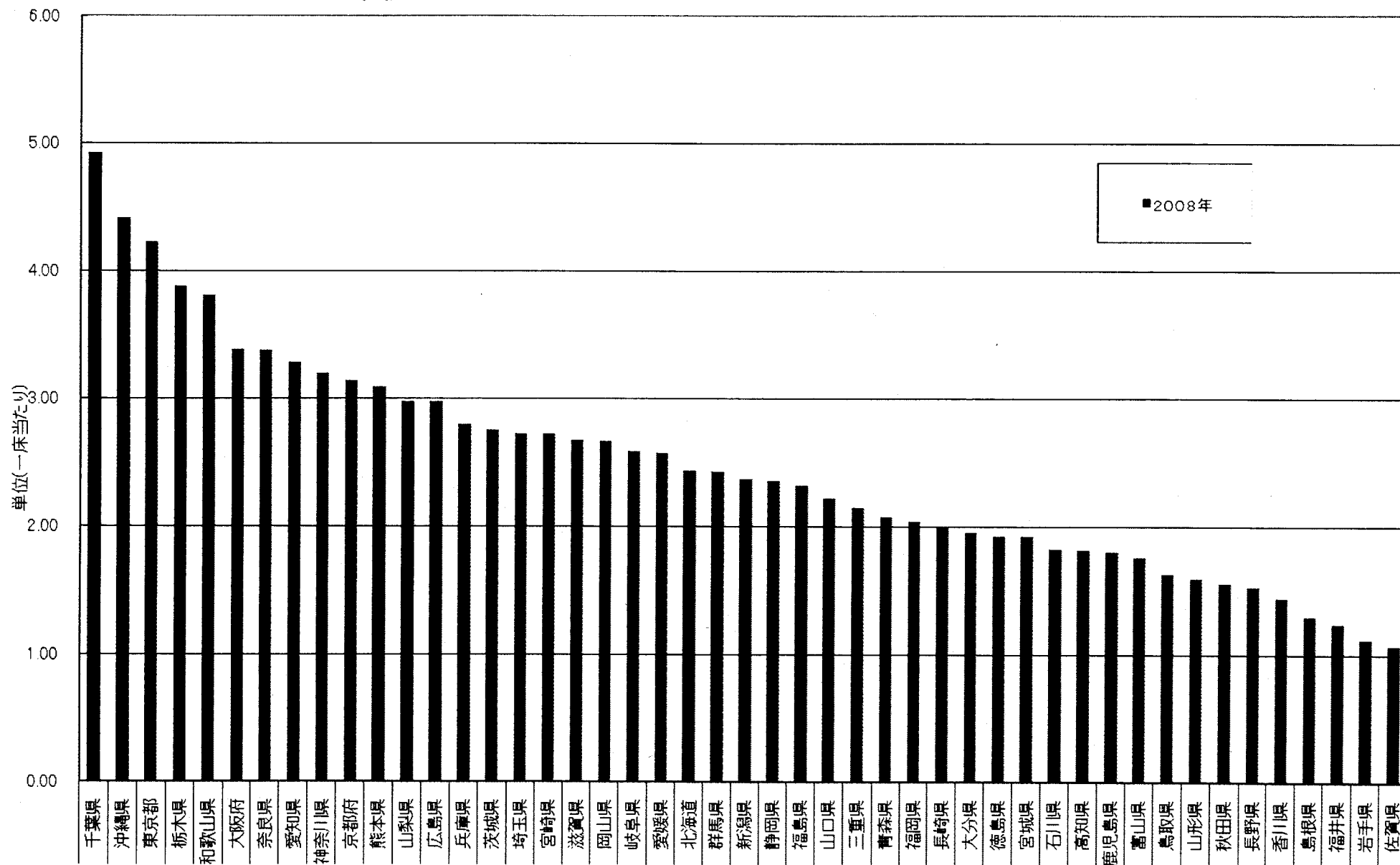


図 4c 都道府県別新鮮凍結血漿使用量(1床当たりの単位数)

新鮮凍結血漿使用量 年度比較-増減

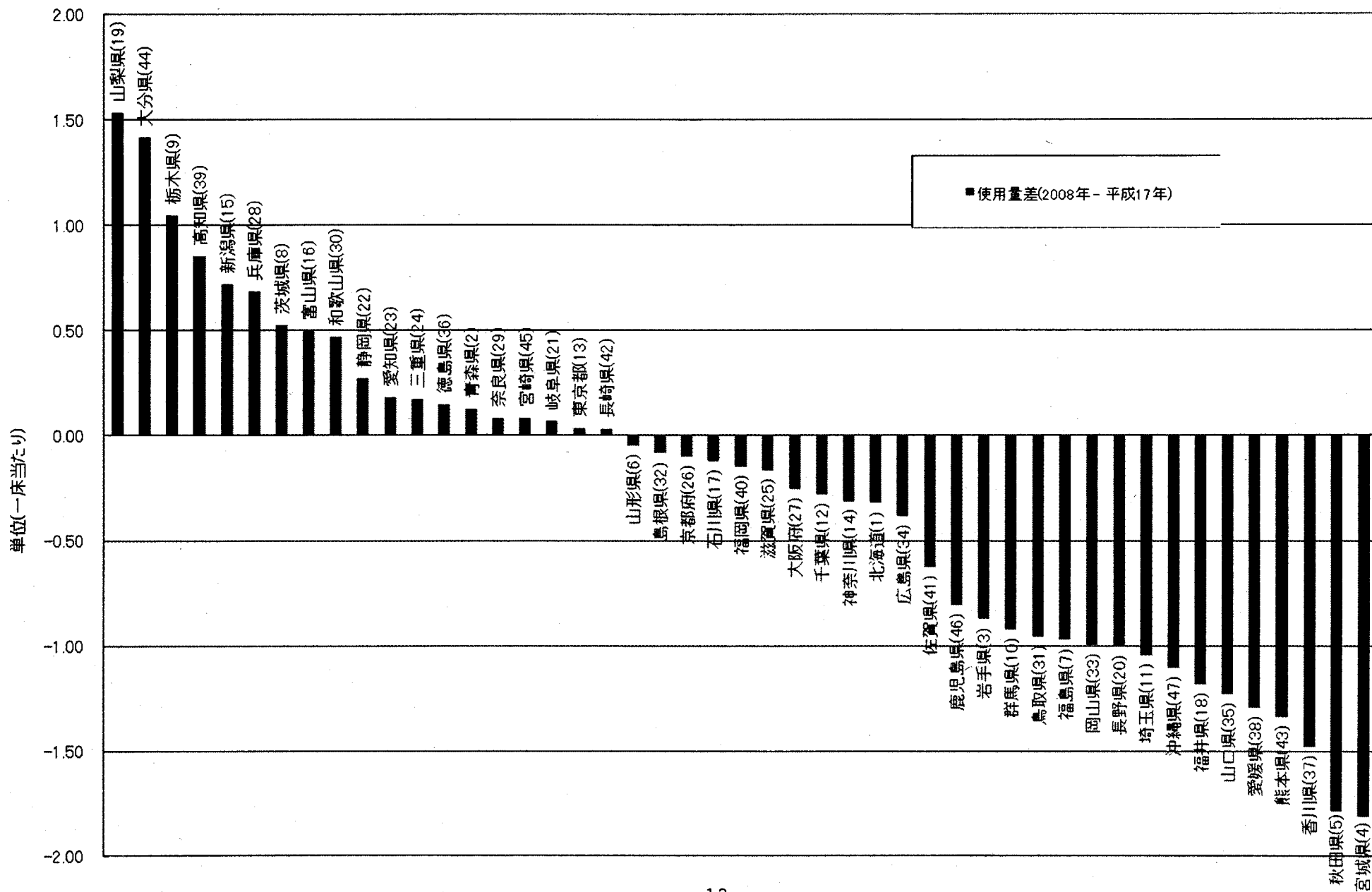


図 4d 都道府県別新鮮凍結血漿使用量(1床当たりの単位数)

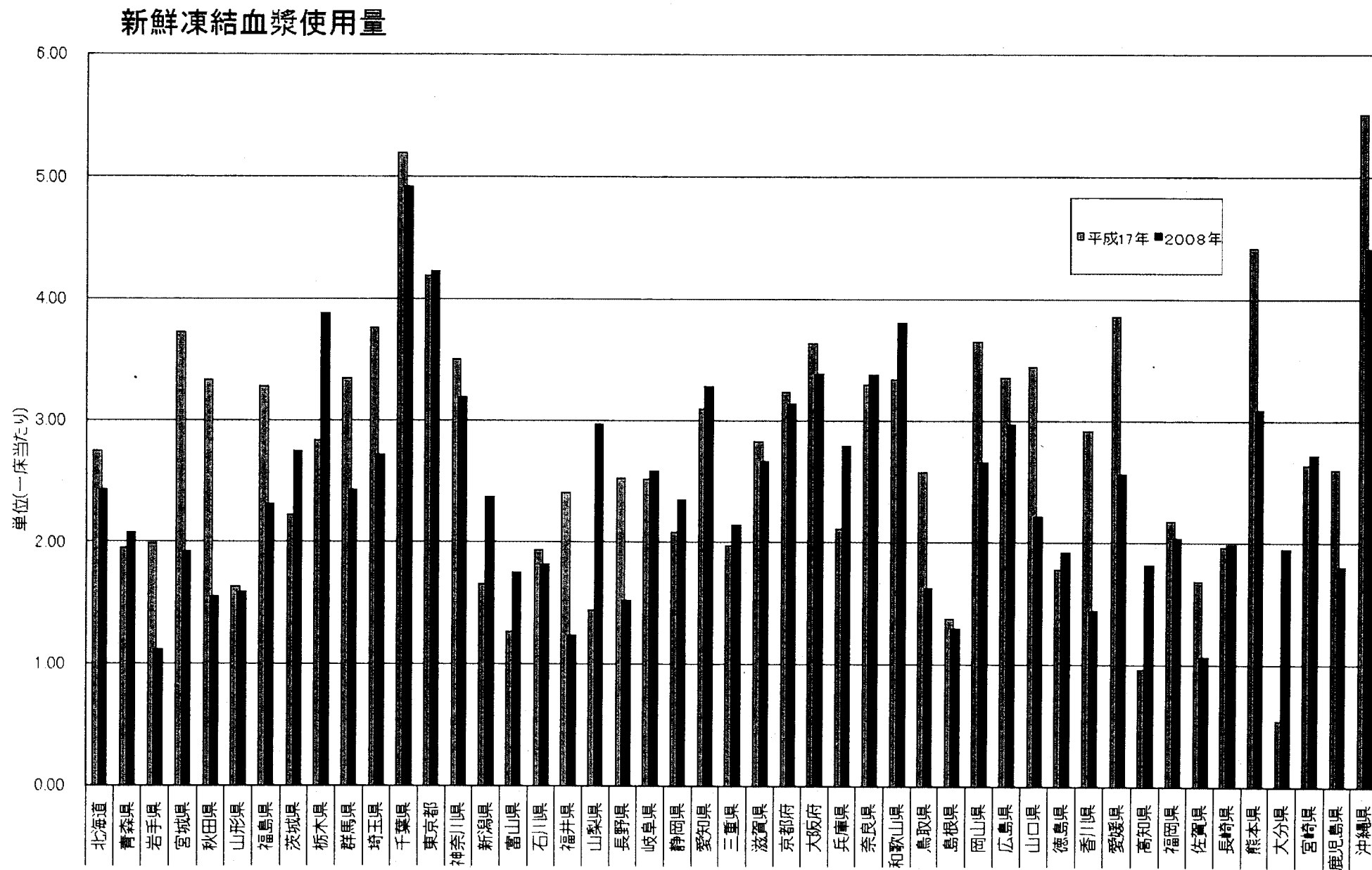


図 5a 都道府県別血小板製剤使用量(1床当たりの単位数)

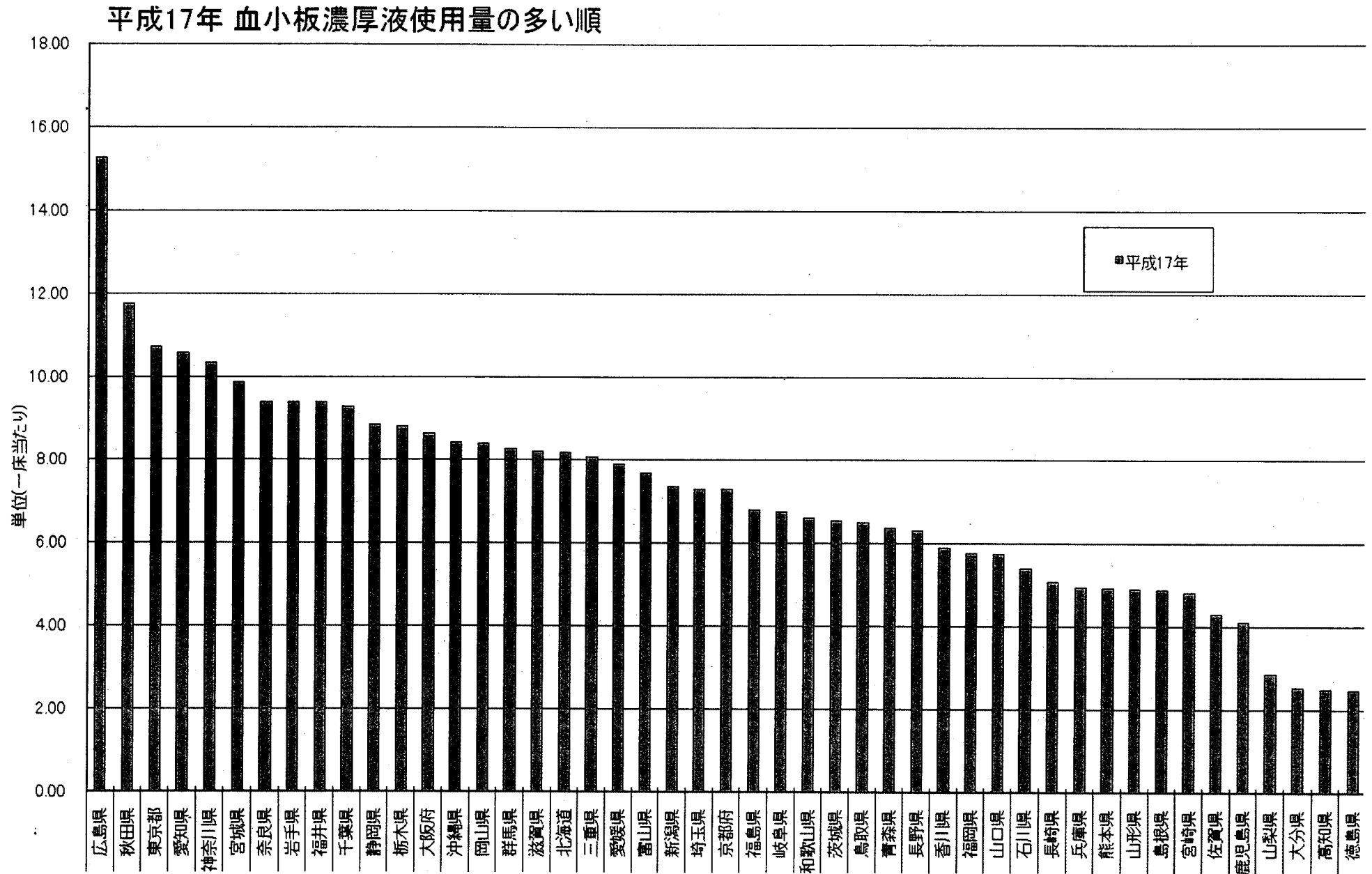


図 5b 都道府県別血小板製剤使用量(1床当たりの単位数)

2008年 血小板濃厚液使用量の多い順

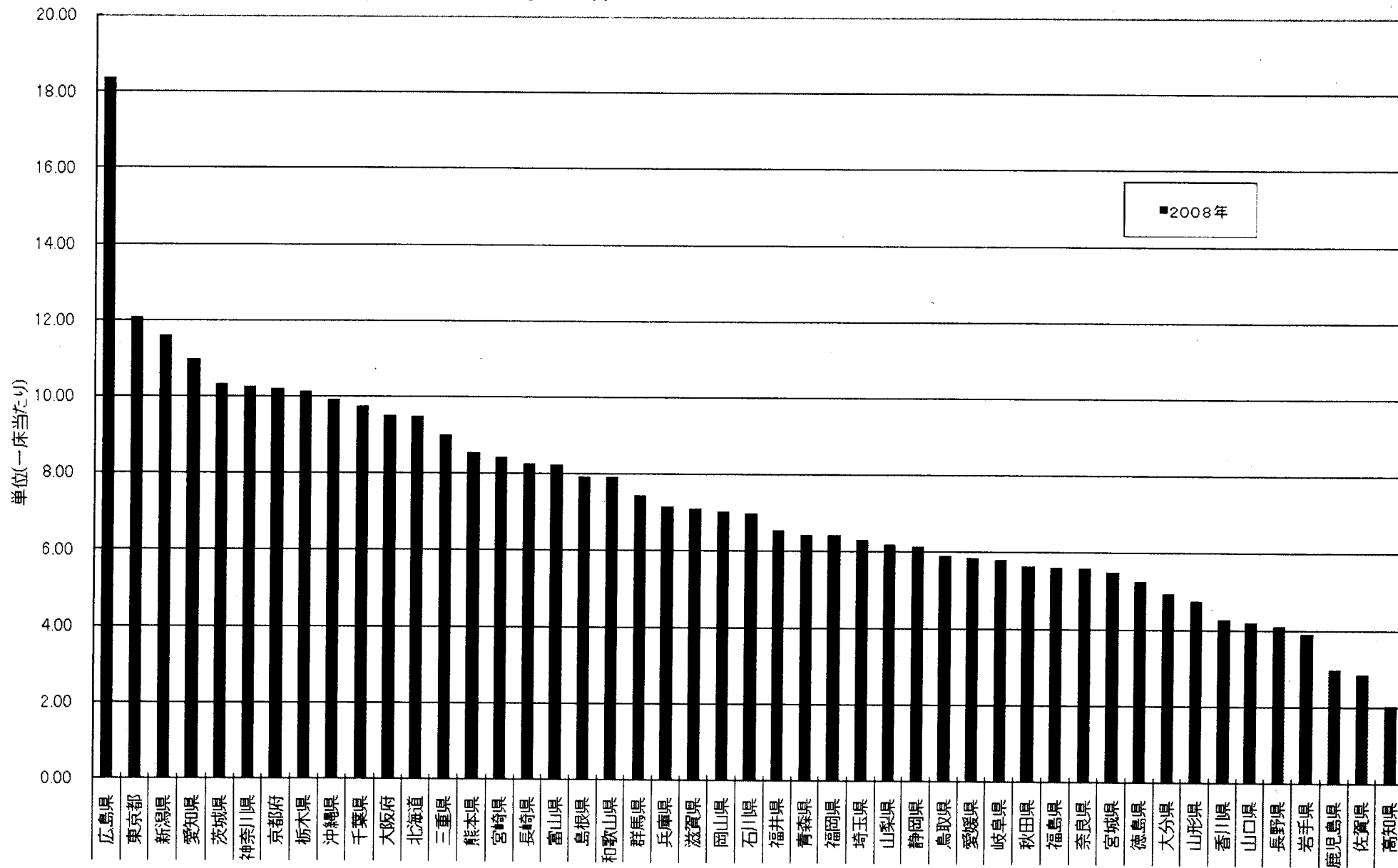


図 5c 都道府県別血小板製剤使用量(1床当たりの単位数)

血小板濃厚液使用量 年度比較-増減

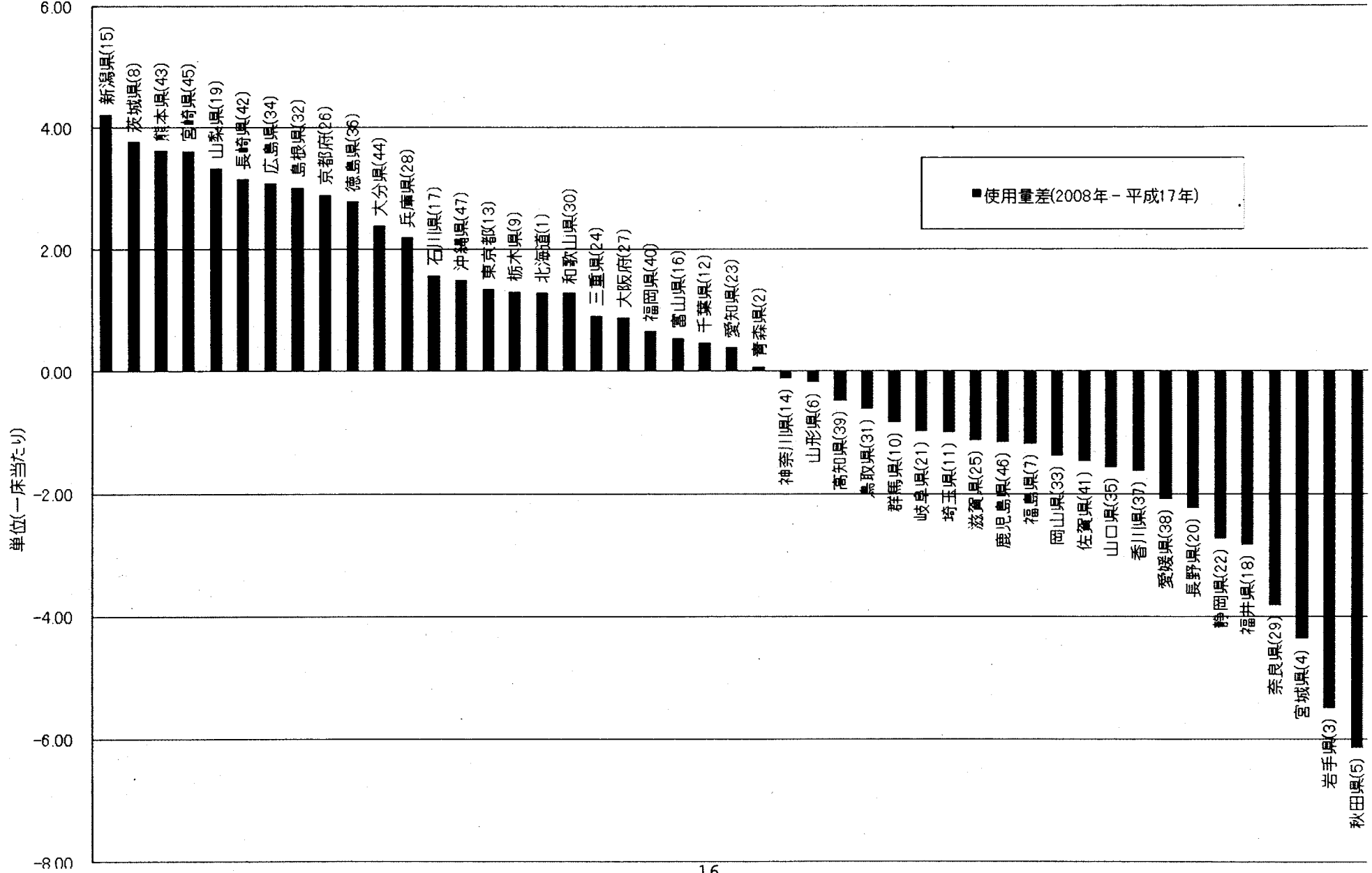


図 5d 都道府県別血小板製剤使用量(1床当たりの単位数)

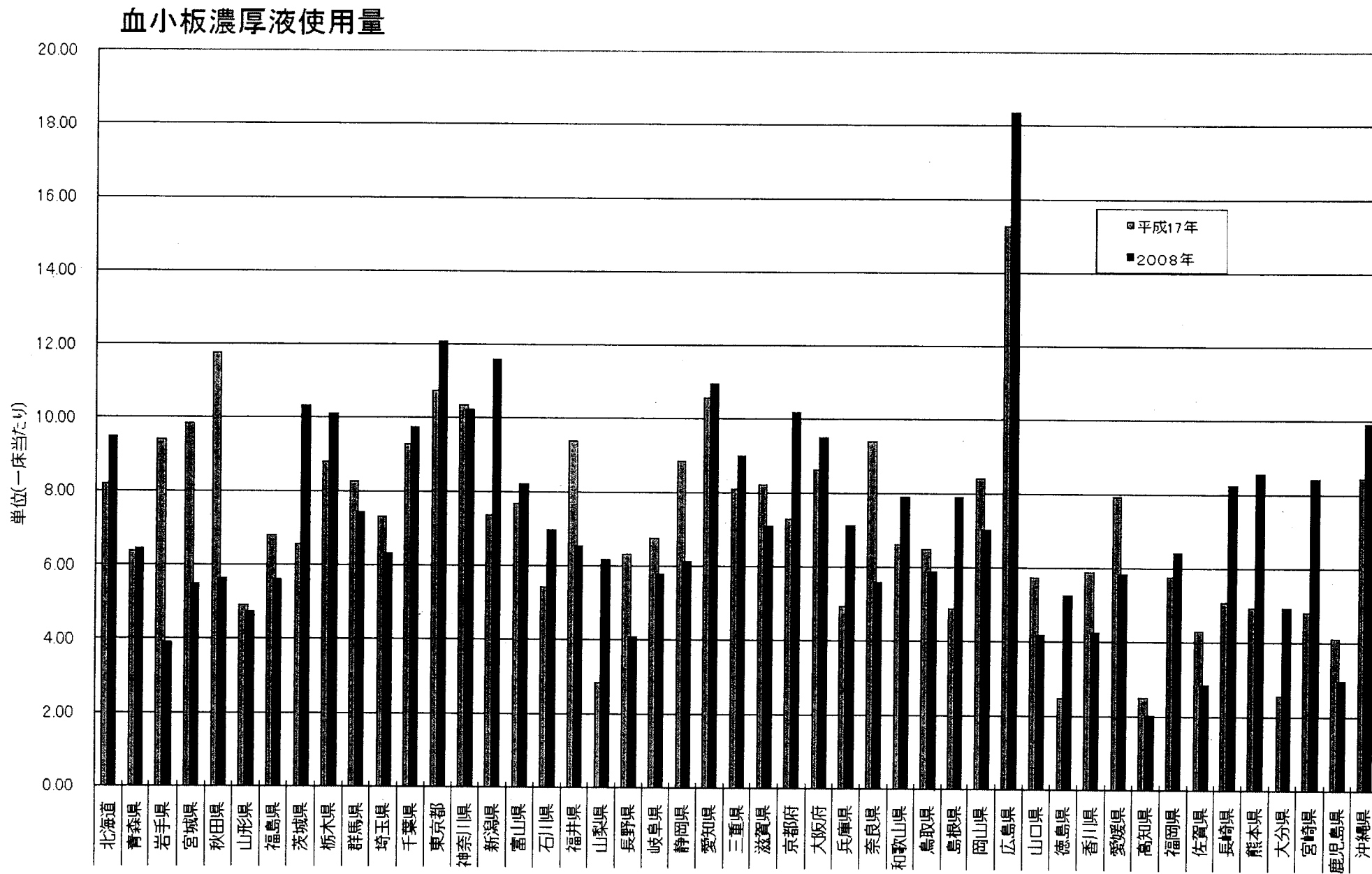


図 6a 都道府県別アルブミン製剤使用量(1床当たりの単位数)

平成17年 アルブミン製剤使用量の多い順

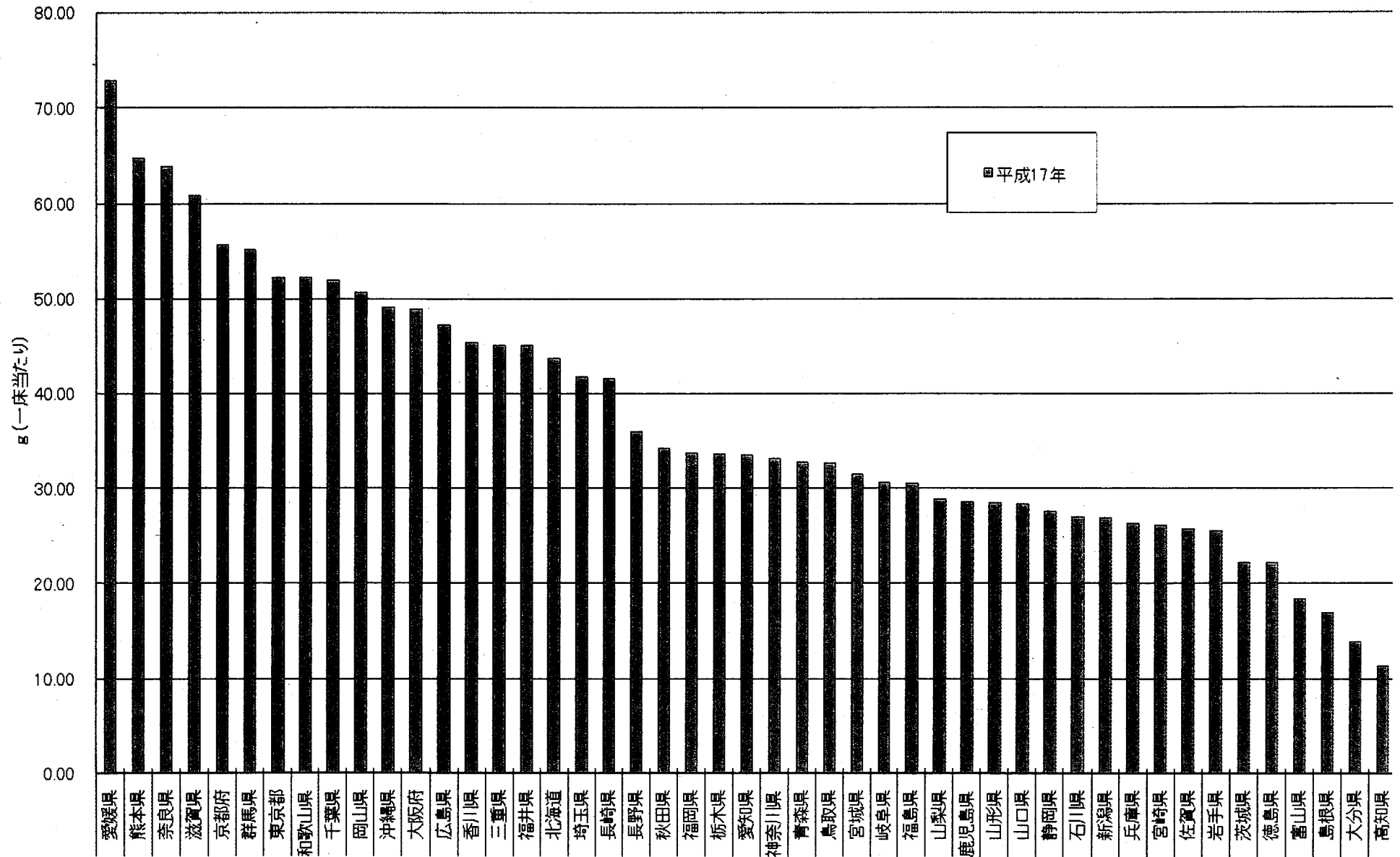


図 6b 都道府県別アルブミン製剤使用量(1床当たりの単位数)

2008年 アルブミン製剤使用量の多い順

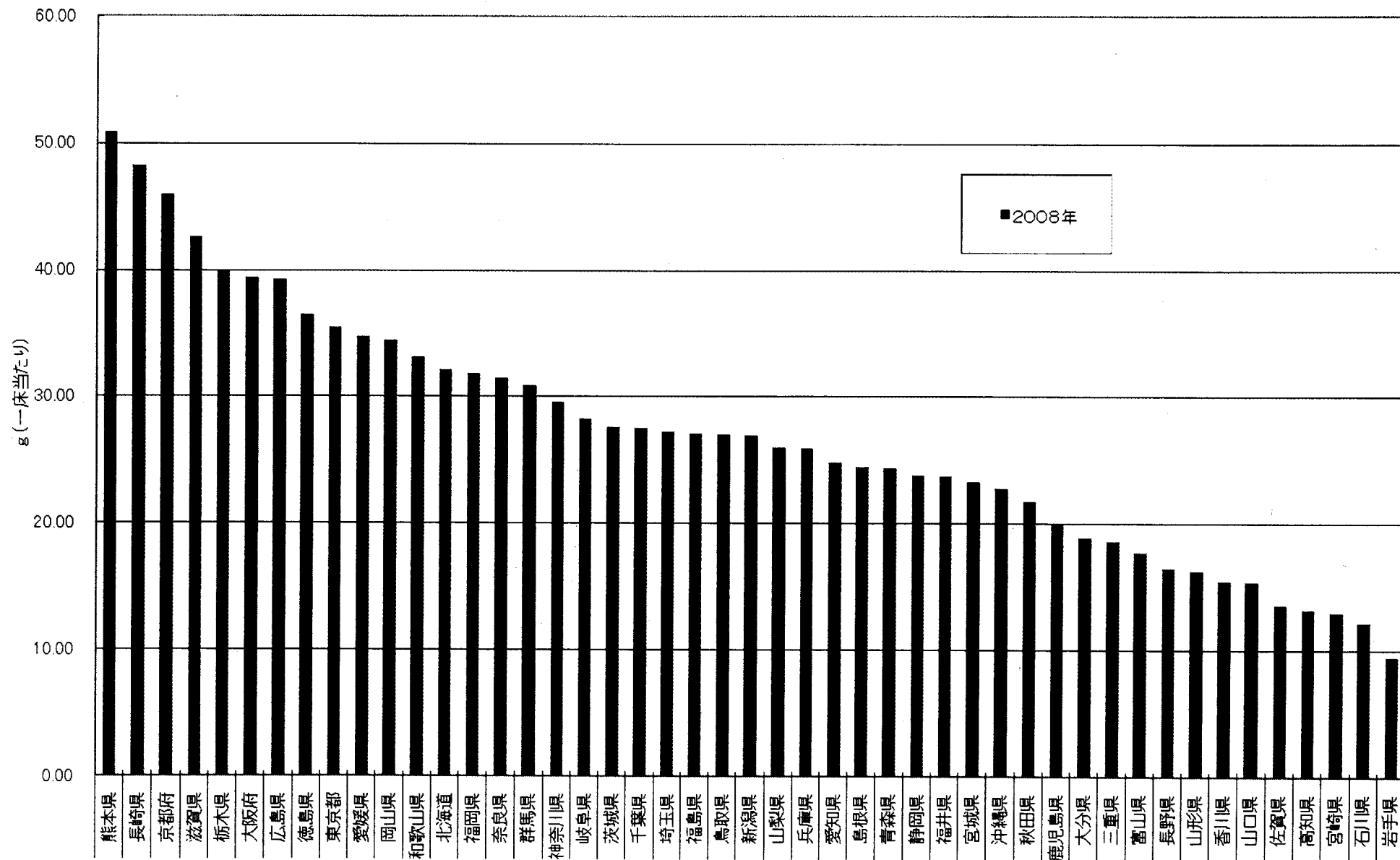


図 6c 都道府県別アルブミン製剤使用量(1床当たりの単位数)

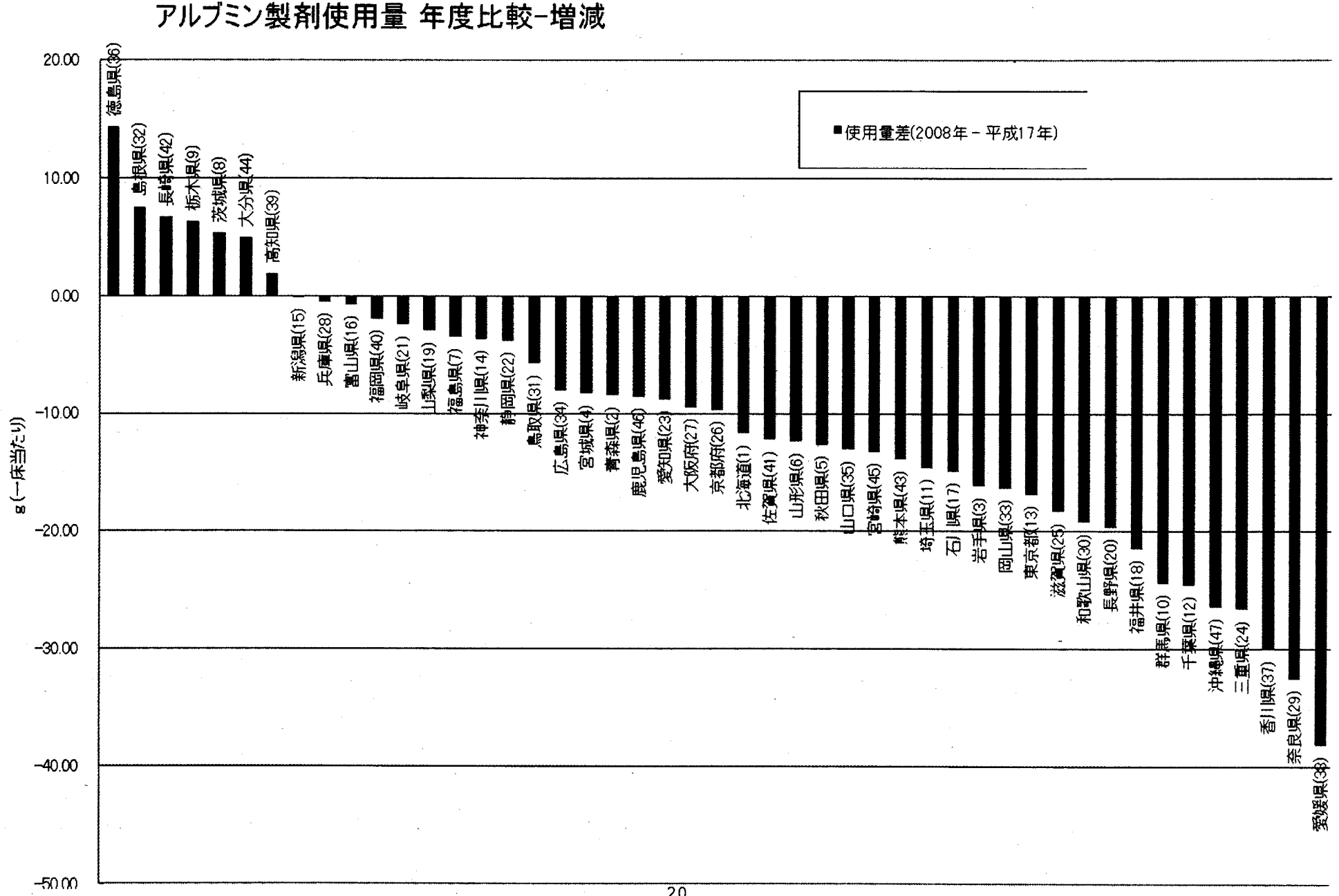


図 6d 都道府県別アルブミン製剤使用量(1床当たりの単位数)

アルブミン製剤使用量

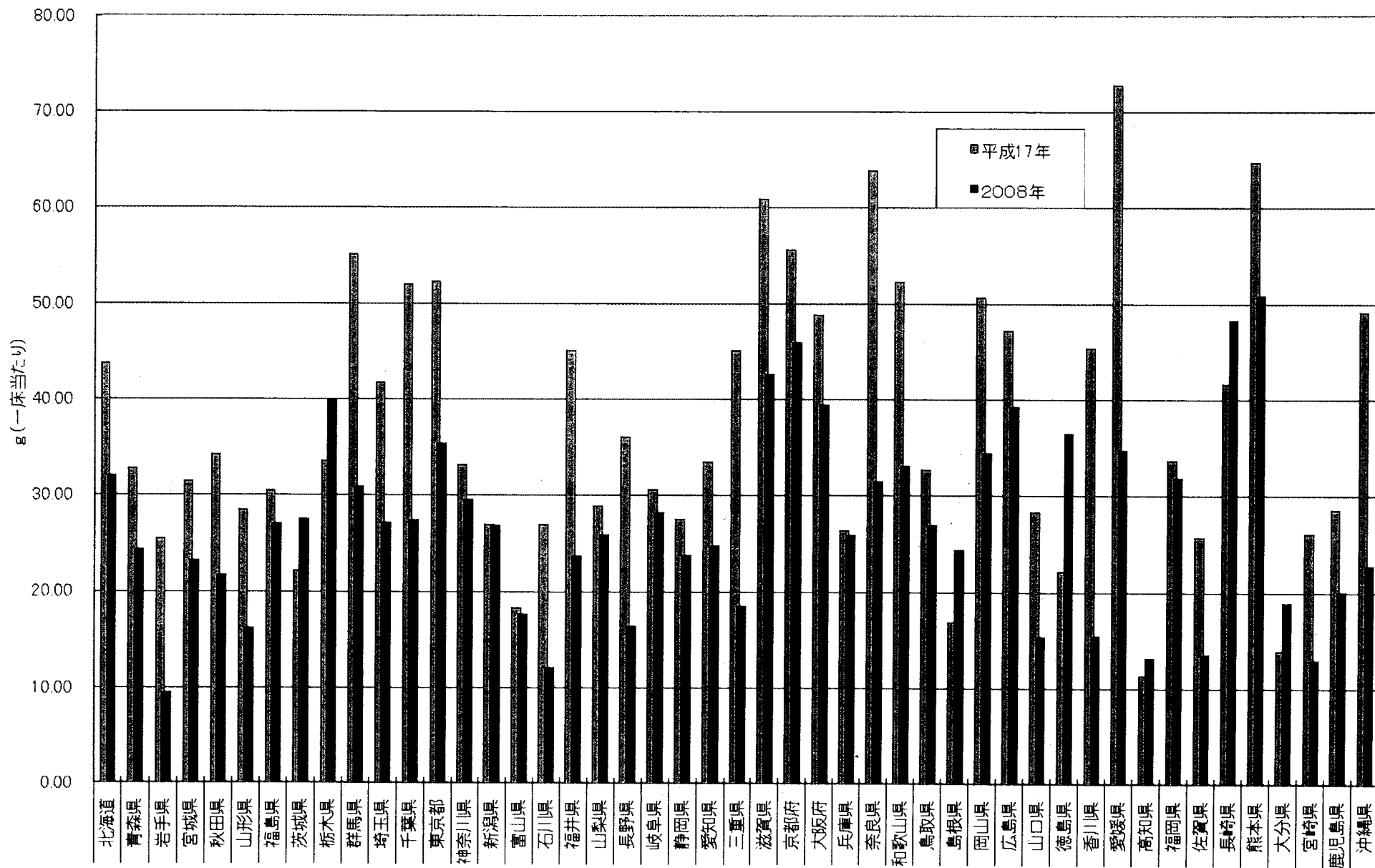


図 7a 都道府県別免疫グロブリン製剤使用量(1床当たりの単位数)

平成17年 免疫グロブリン製剤使用量の多い順

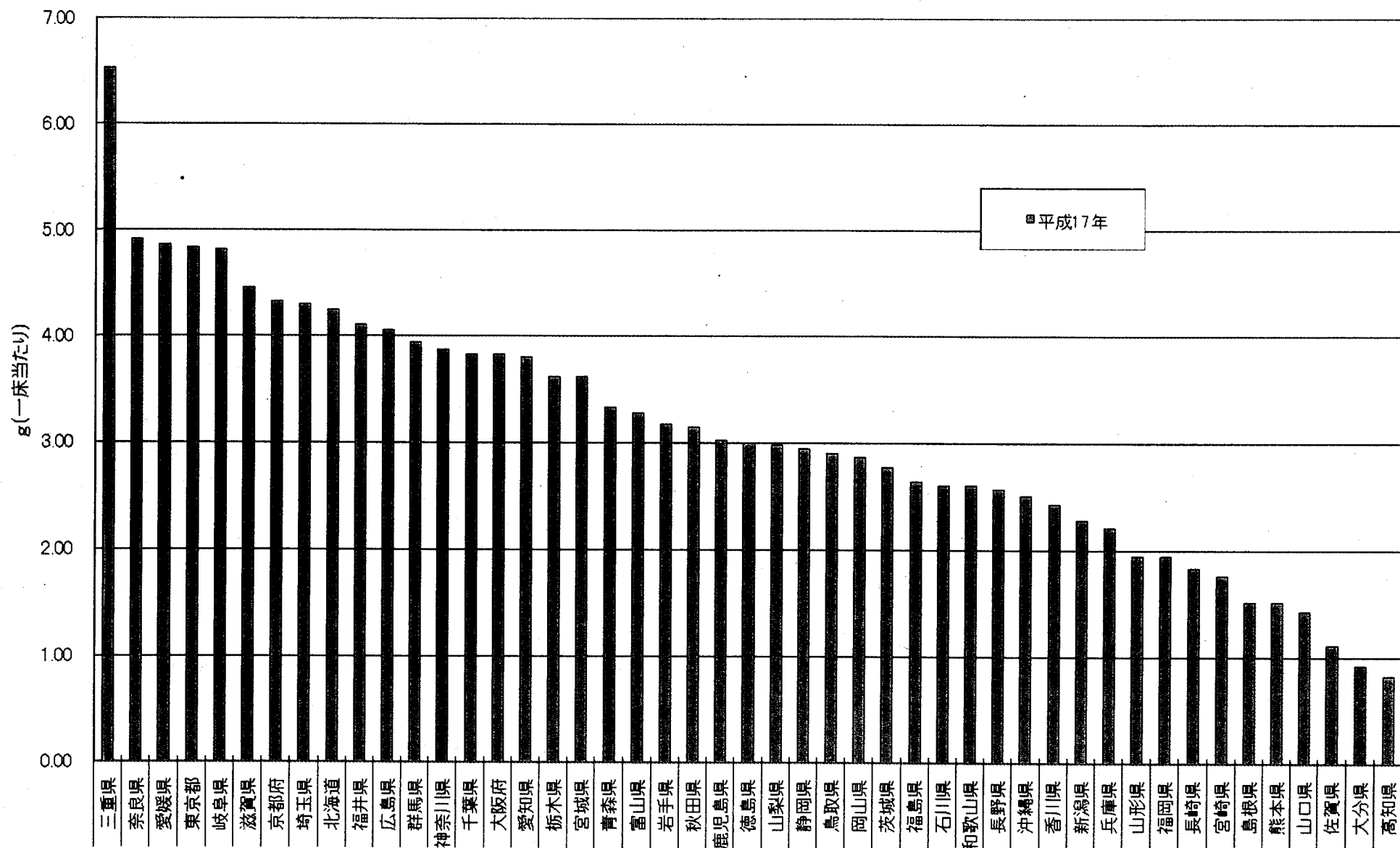


図 7b 都道府県別免疫グロブリン製剤使用量(1床当たりの単位数)

2008年 免疫グロブリン製剤使用量の多い順

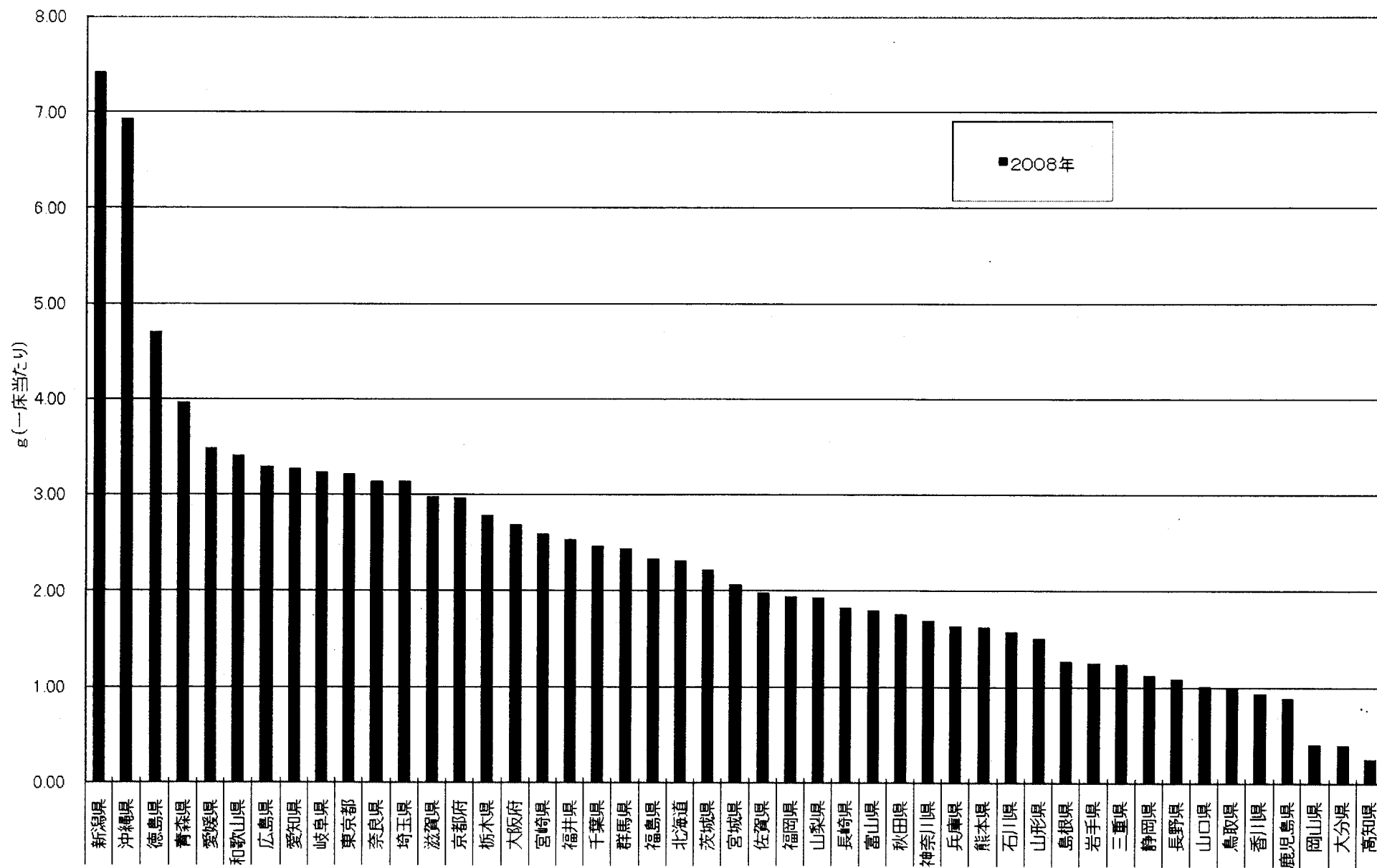


図 7c 都道府県別免疫グロブリン製剤使用量(1床当たりの単位数)

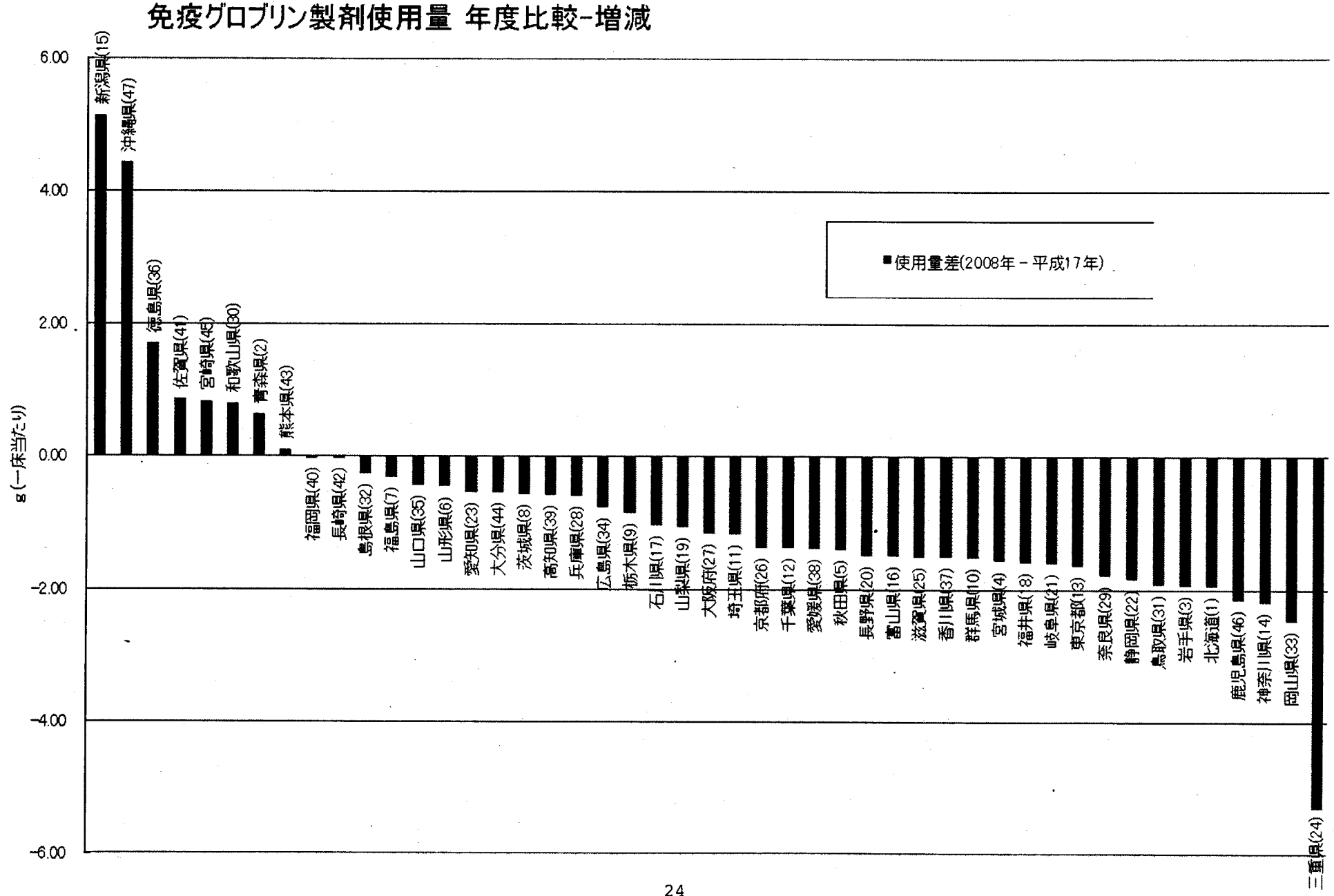
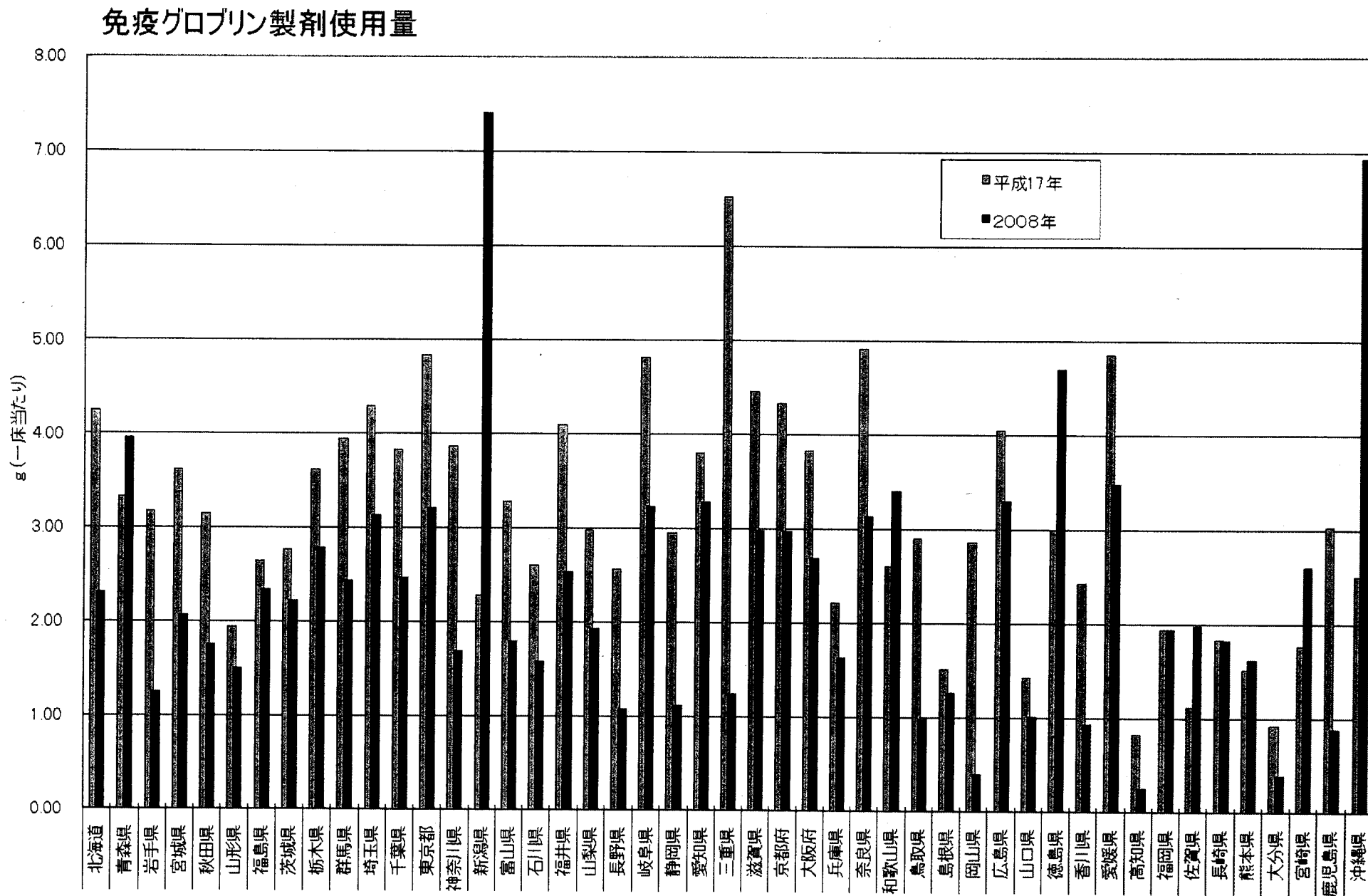


図 7d 都道府県別免疫グロブリン製剤使用量(1床当たりの単位数)



輸血管理体制の在り方

—輸血療法の実施に関する指針—

1. 輸血業務の一元管理
2. 輸血責任医師の任命状況
3. 輸血責任臨床検査技師の配置
4. 輸血検査の24時間体制
5. 輸血療法委員会の設置

図8 輸血業務の一元管理

一元管理あり施設

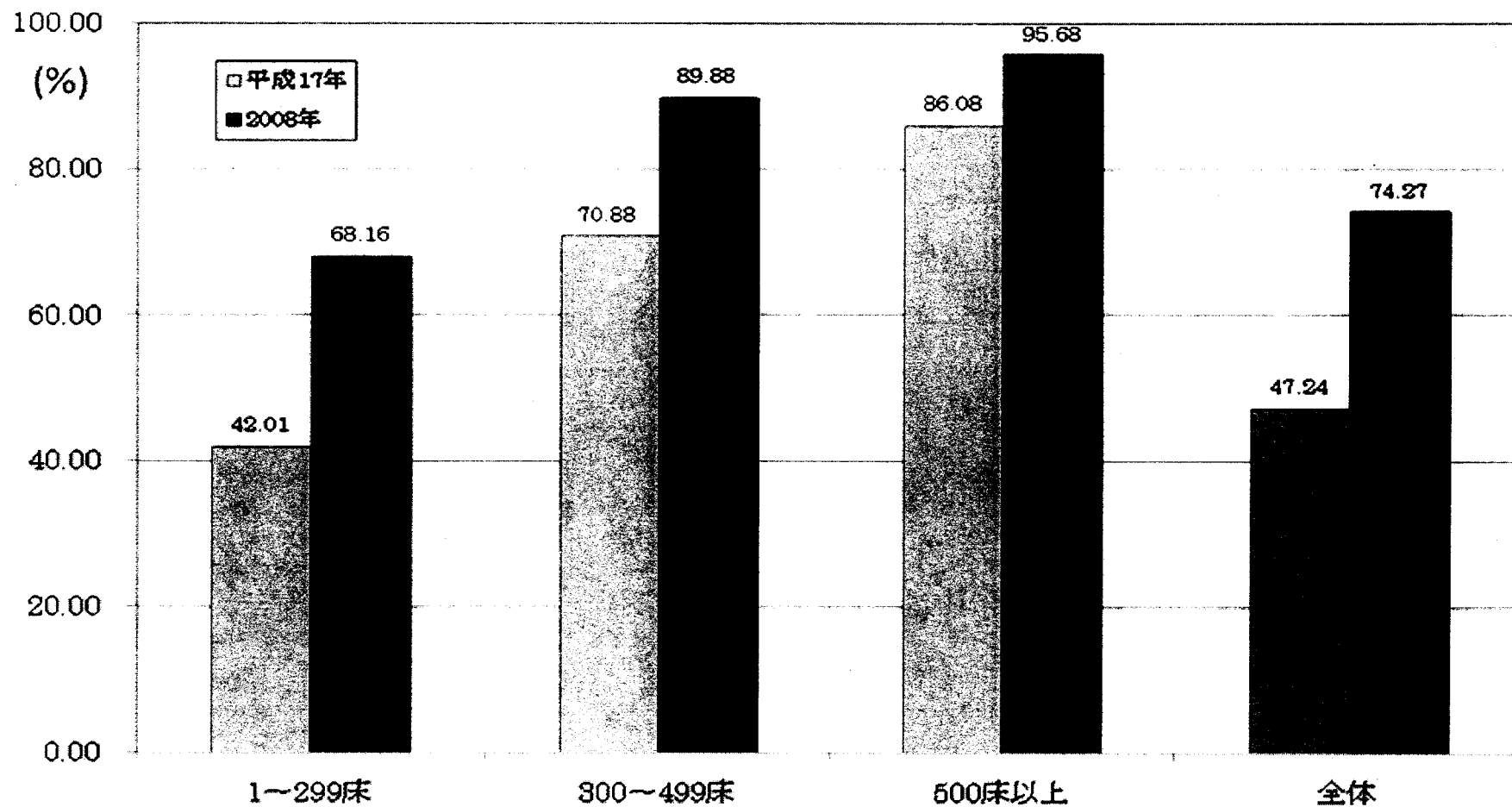


図9 アルブミン製剤の使用状況の把握

輸血部がアルブミン製剤の使用状況を把握している施設

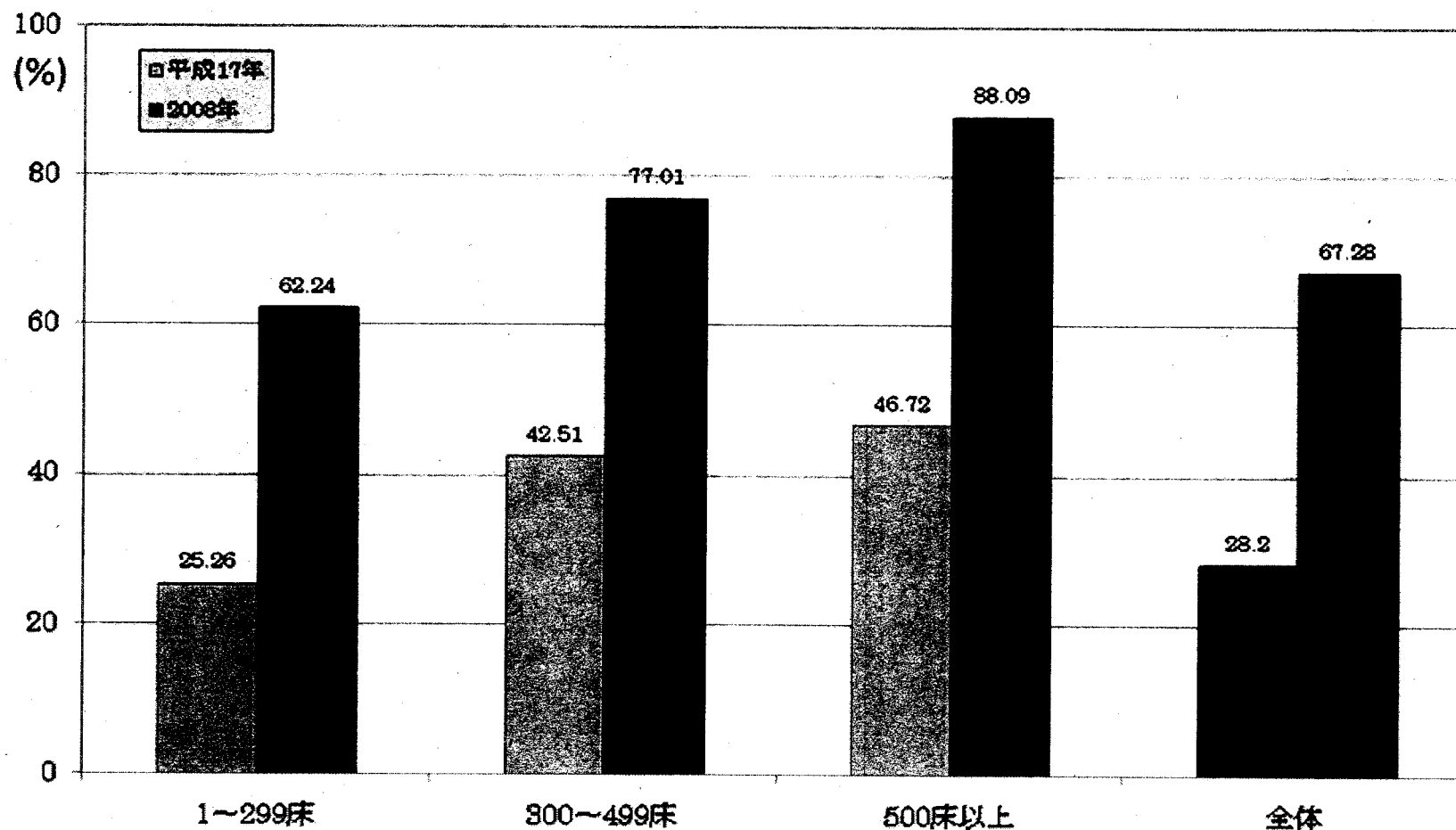


図10 輸血責任医師の任命状況

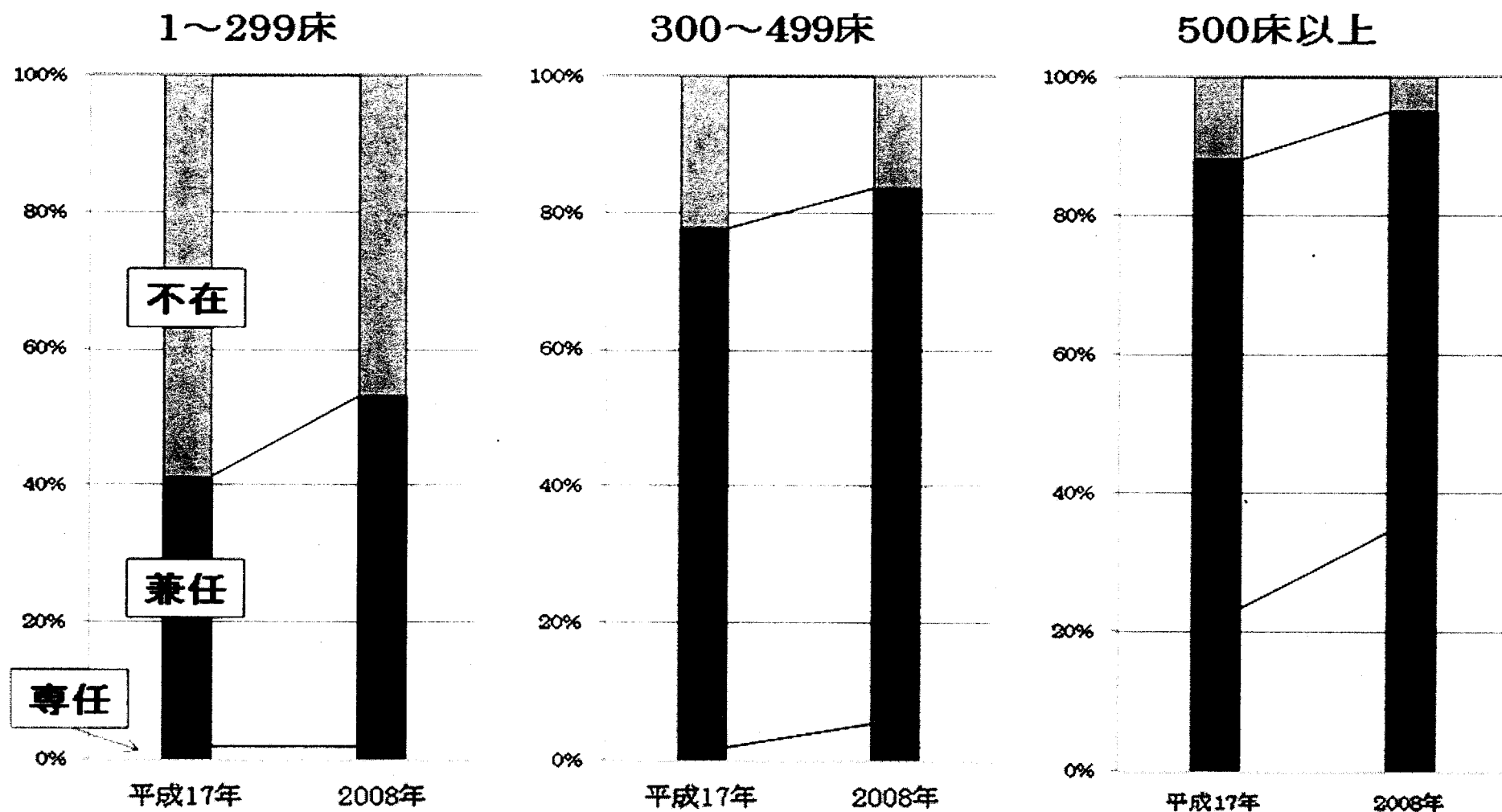


図11 輸血責任臨床検査技師の任命状況

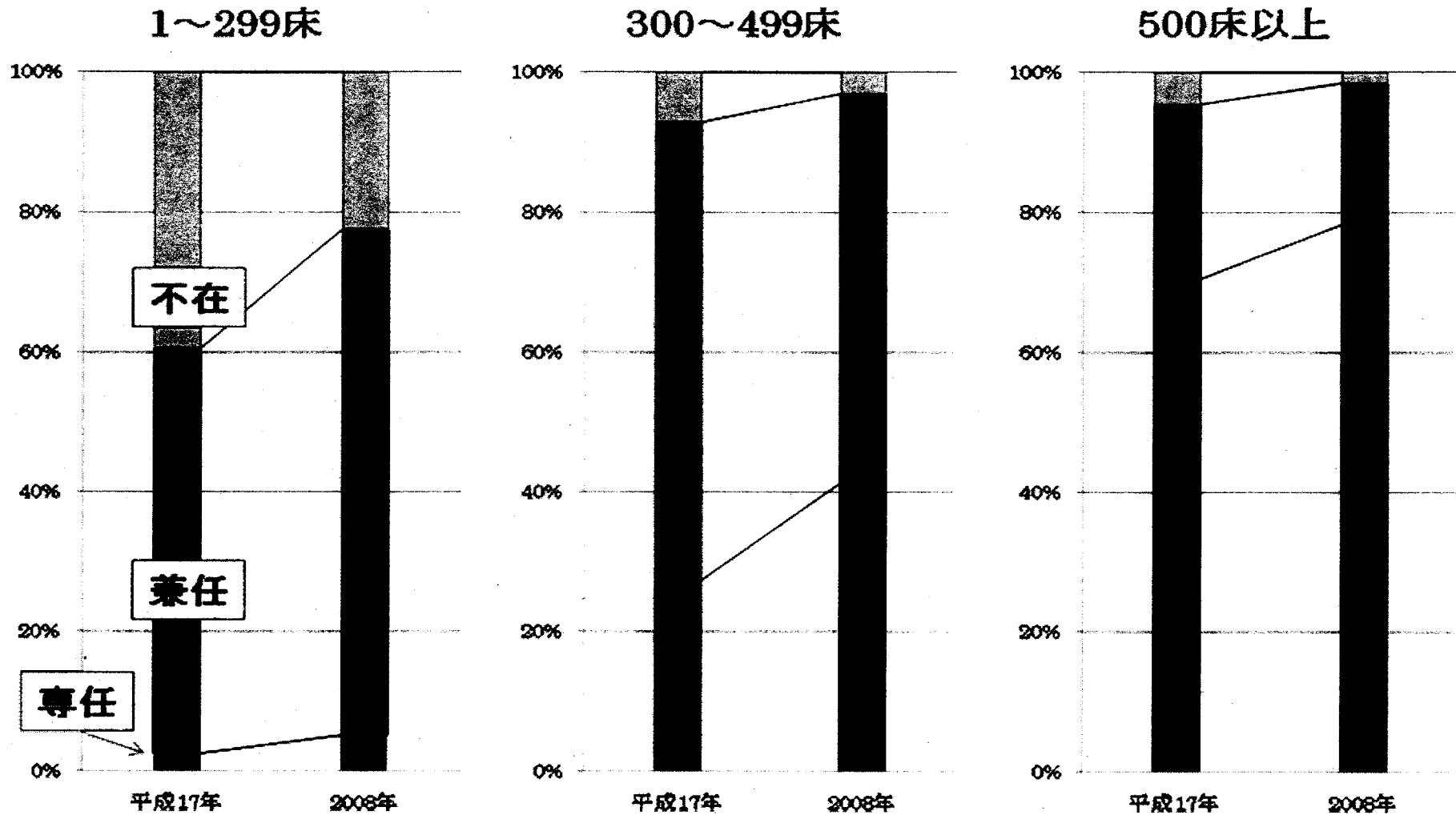


図12 輸血検査の24時間体制

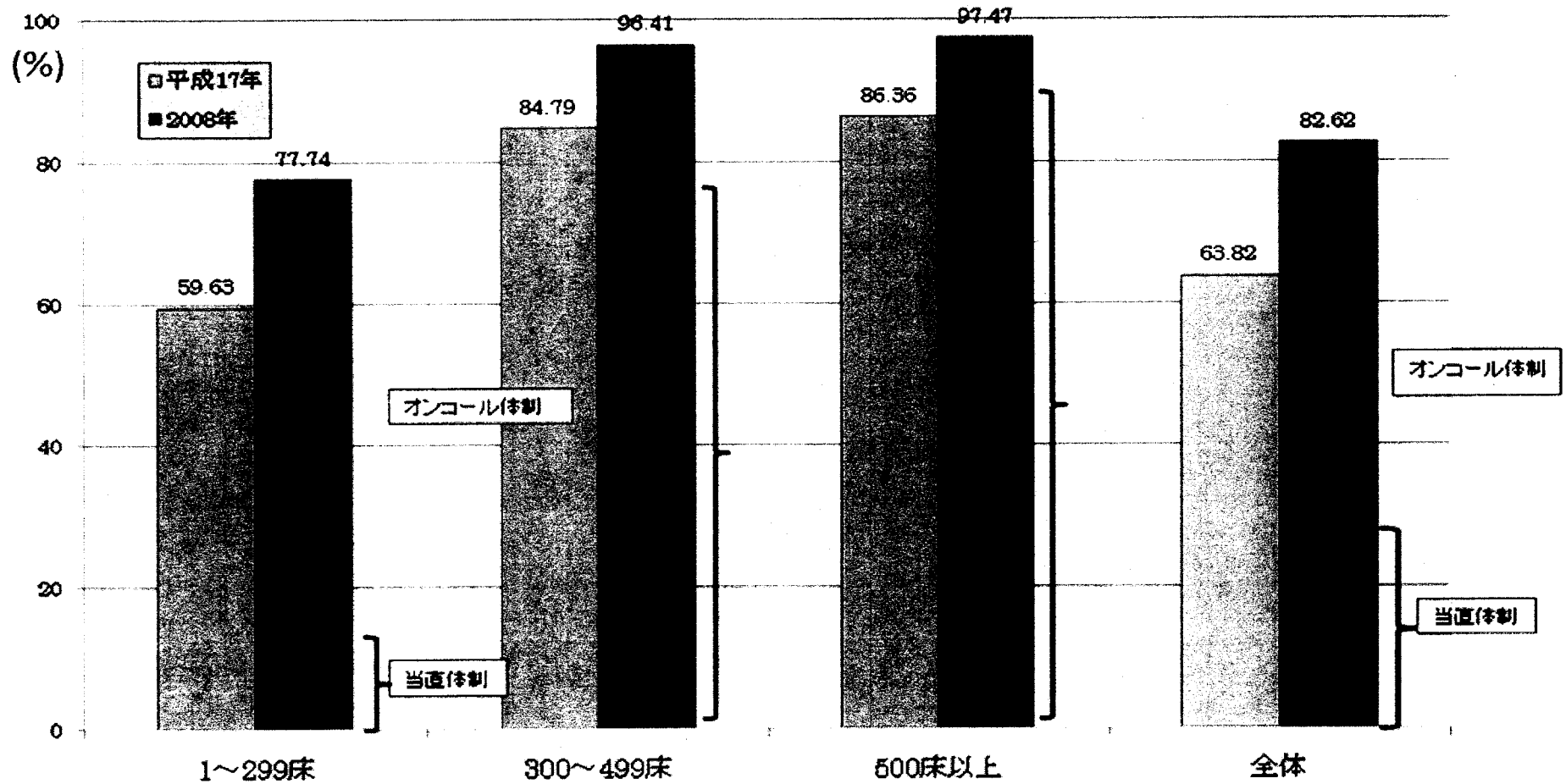


図13 輸血療法委員会設置

輸血療法委員会設置施設

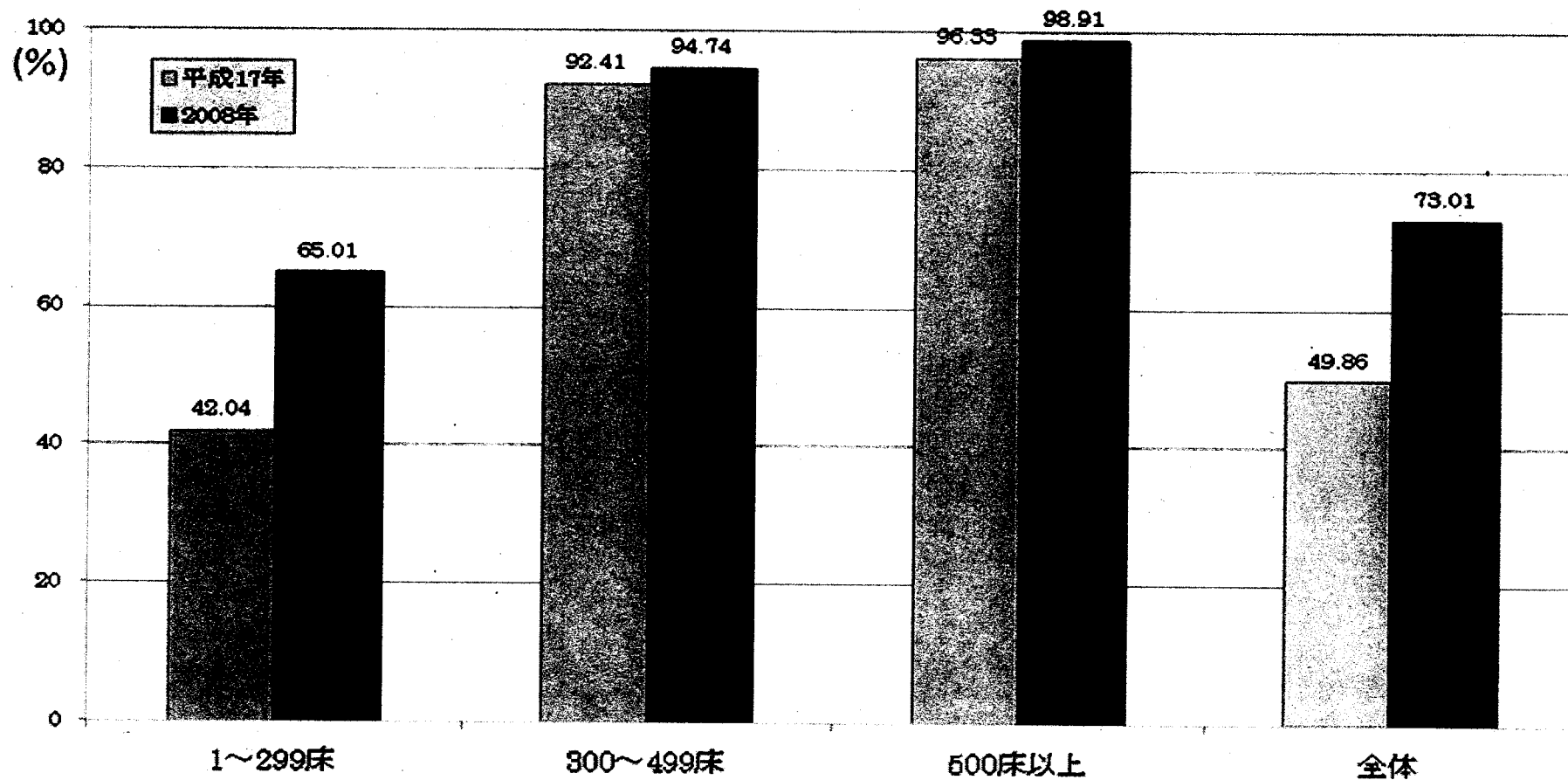


図14 適正輸血への取り組み

適正輸血について輸血療法委員会で検討し、病院全体で取り組んでいる施設

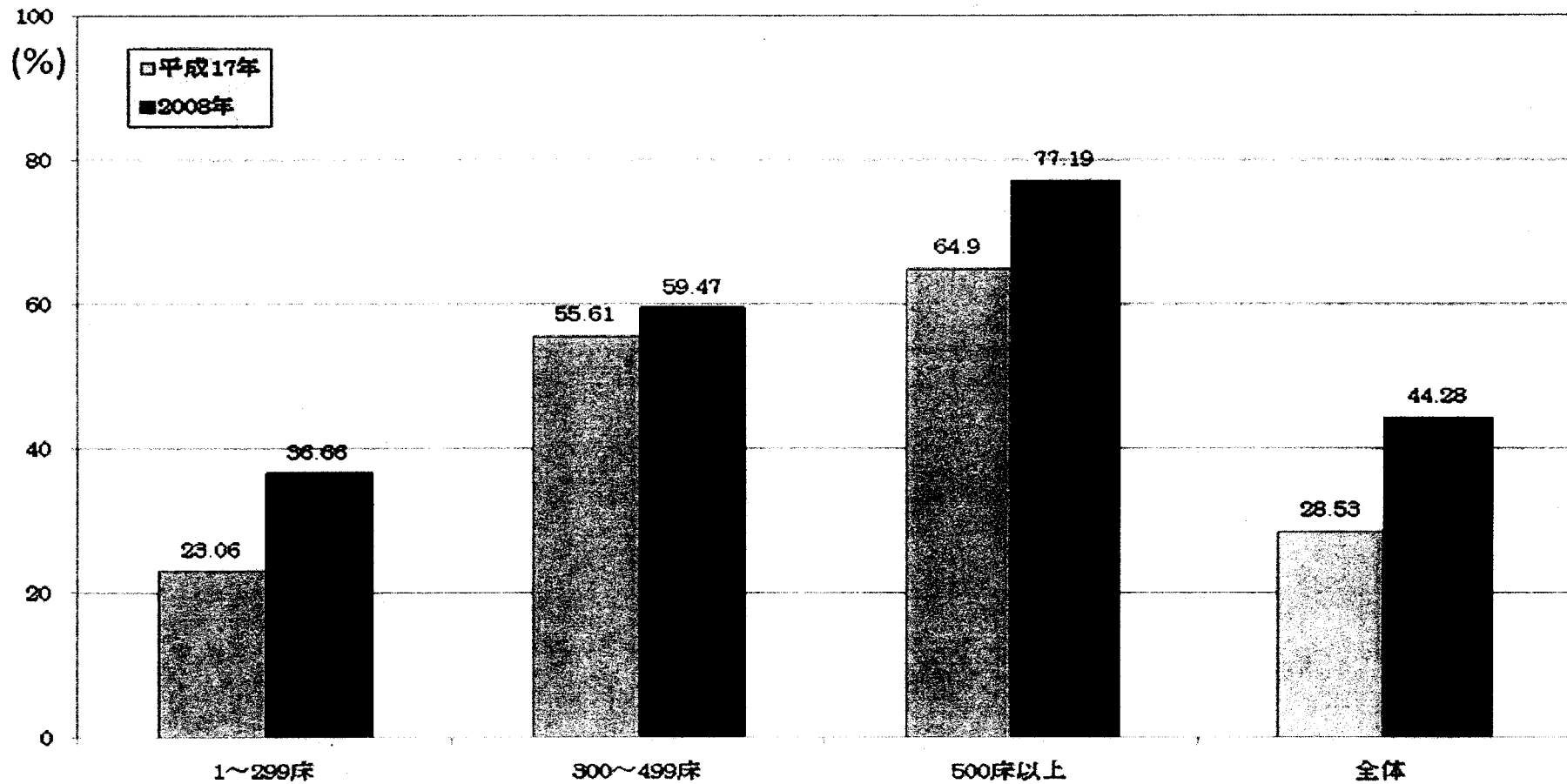


図15 指針の遵守体制

「指針」を院内に十分周知している施設

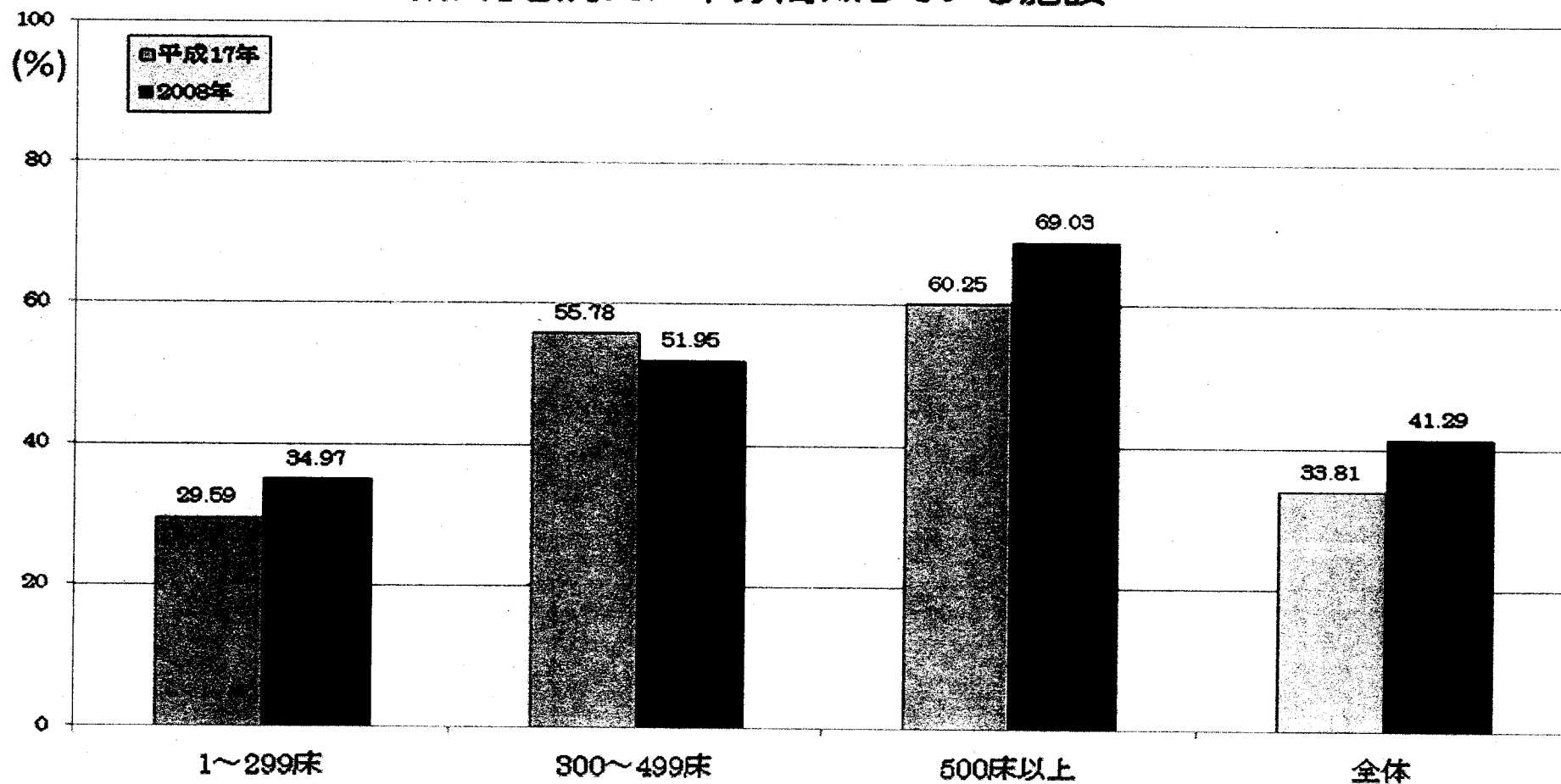
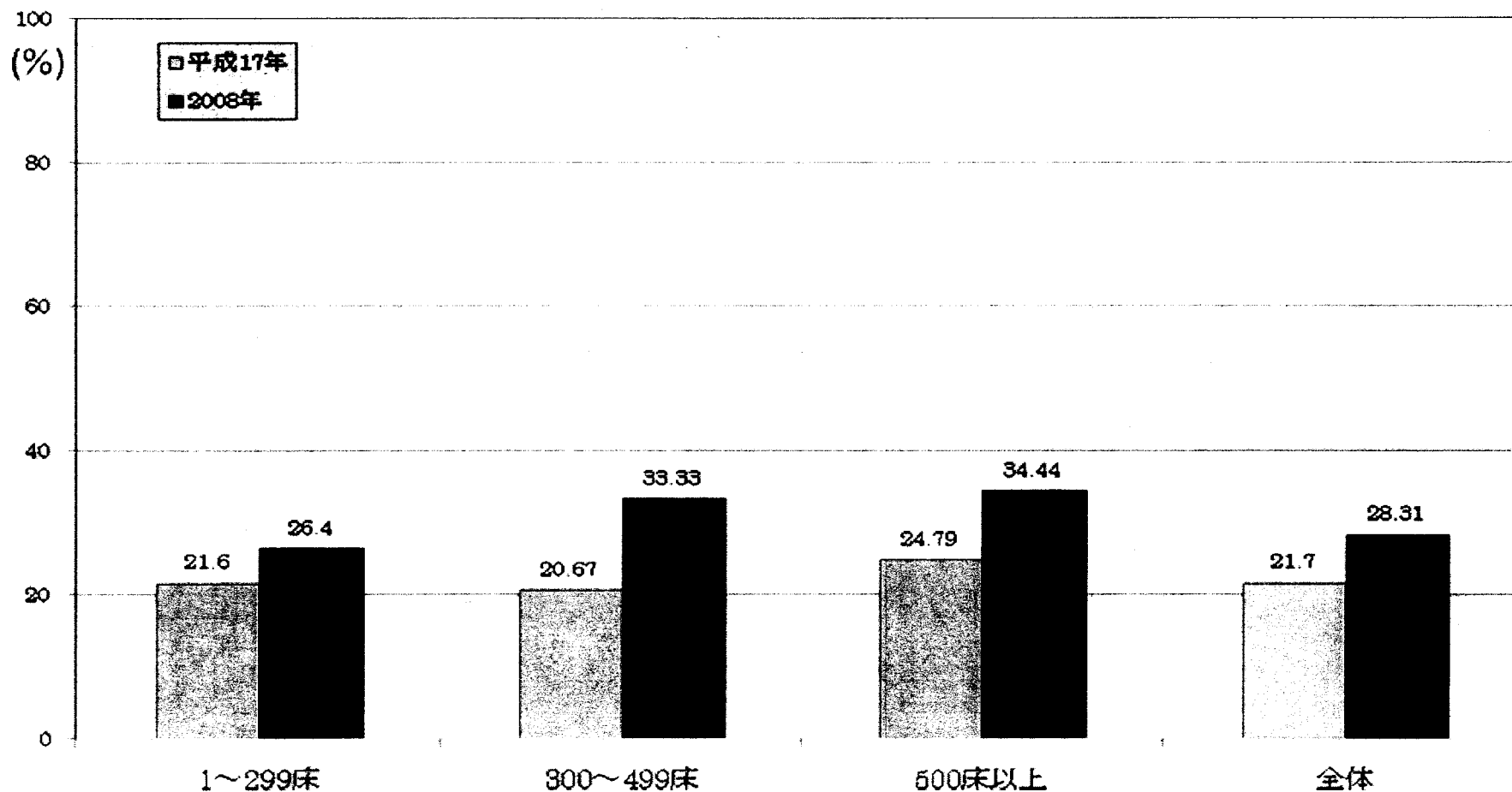


図16 輸血後感染症検査

輸血後感染症検査をほぼすべての症例で行っている施設



2008年輸血業務・輸血製剤年間使用量に関する総合的調査報告書

平成17年度と2008年輸血業務・血液製剤年間使用量調査比較報告書

データ集 ②

日本輸血・細胞治療学会

平成 17 年度と 2008 年輸血業務・血液製剤年間使用量調査報告比較

平成 17 年度調査票回答数（集計対象数）

アンケート依頼施設数	7952 施設
注）許可病床数 20 床以上の医療施設【平成 17 年 9 月現在】	
輸血業務・血液製剤年間使用量調査回答施設	5452 施設（68.6%）
集計対象外施設	829 施設（10.4%）
（内訳）	
使用病床数 20 床以下	810 施設
回答不備	19 施設
有効回答施設	4623 施設（58.1%）
血液製剤の使用実績無し	340 施設
血液製剤の使用実績有り	4283 施設（53.9%）

2008 年調査票回答数（集計対象数）

アンケート依頼施設数	7857 施設
輸血業務・血液製剤年間使用量調査回答施設	3208 施設（40.83%）
	内訳
	Web 2161 施設（67.36%）
	手書き 1047 施設（32.64%）
有効回答施設	3208 施設（40.83%）
血液製剤の使用実績無し	373 施設
血液製剤の使用実績有り	2835 施設（36.1%）

注意 平成17年度データは、厚生労働省集計データ【最終提出版】 調査表1.xls、調査表2.xls、を使用しました。

1. 病床数を分類

【平成17年】

番号	項目	回答数	比率
1	0床		
2	1床～20床未満		
3	20床～100床未満	2580	55.81%
4	100床～200床未満	1042	22.54%
5	200床～300床未満	356	7.70%
6	300床～400床未満	272	5.88%
7	400床～500床未満	128	2.77%
8	500床～600床未満	100	2.16%
9	600床～700床未満	66	1.43%
10	700床～800床未満	21	0.45%
11	800床～900床未満	19	0.41%
12	900床～1000床未満	13	0.28%
13	1000床以上	26	0.56%
	合計	4623	

【2008年】

番号	項目	回答数	比率
1	0床	34	1.06%
2	1床～20床未満	22	0.69%
3	20床～100床未満	1105	34.45%
4	100床～200床未満	989	30.83%
5	200床～300床未満	327	10.19%
6	300床～400床未満	294	9.16%
7	400床～500床未満	154	4.80%
8	500床～600床未満	102	3.18%
9	600床～700床未満	83	2.59%
10	700床～800床未満	28	0.87%
11	800床～900床未満	28	0.87%
12	900床～1000床未満	14	0.44%
13	1000床以上	28	0.87%
	合計	3208	

2. 施設種別回答施設

【平成 17 年】

番号	項目	0 床		1~299 床		300~499 床		500 床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	国			91	2.29%	56	14.00%	55	22.45%	202	4.37%
2	公的医療機関			618	15.54%	181	45.25%	107	43.67%	906	19.60%
3	社会保険関連団体			53	1.33%	30	7.50%	6	2.45%	89	1.93%
4	医療法人関連団体			2484	62.44%	77	19.25%	19	7.76%	2580	55.81%
5	個人病院			307	7.72%	3	0.75%	1	0.41%	311	6.73%
6	その他			425	10.68%	53	13.25%	57	23.27%	535	11.57%
	合計			3978		400		245		4623	

【2008 年】

番号	項目	0 床		1~299 床		300~499 床		500 床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	大学病院	0	0.00%	21	0.86%	6	1.34%	79	27.92%	106	3.30%
2	大学病院の分院	0	0.00%	11	0.45%	10	2.23%	7	2.47%	28	0.87%
3	国立病院機構・医療センター	0	0.00%	18	0.74%	47	10.49%	17	6.01%	82	2.56%
4	公立・自治体病院	3	8.82%	334	13.67%	125	27.90%	80	28.27%	542	16.90%
5	社会保険関連病院	3	8.82%	35	1.43%	15	3.35%	6	2.12%	59	1.84%
6	医療法人関連病院	4	11.76%	1439	58.90%	145	32.37%	39	13.78%	1627	50.72%
7	個人病院	3	8.82%	334	13.67%	10	2.23%	4	1.41%	351	10.94%
8	その他	21	61.76%	251	10.27%	90	20.09%	51	18.02%	413	12.87%
	合計	34		2443		448		283		3208	

3. 都道府県別回答施設

【平成 17 年】

No	名称	施設数	No	名称	施設数	No	名称	施設数	No	名称	施設数	No	名称	施設数
01	北海道	336	11	埼玉県	191	21	岐阜県	63	31	鳥取県	27	41	佐賀県	50
02	青森県	66	12	千葉県	145	22	静岡県	89	32	島根県	30	42	長崎県	95
03	岩手県	58	13	東京都	368	23	愛知県	170	33	岡山県	95	43	熊本県	98
04	宮城県	68	14	神奈川県	172	24	三重県	62	34	広島県	125	44	大分県	79
05	秋田県	36	15	新潟県	70	25	滋賀県	42	35	山口県	71	45	宮崎県	67
06	山形県	39	16	富山県	54	26	京都府	100	36	徳島県	44	46	鹿児島県	112
07	福島県	79	17	石川県	60	27	大阪府	281	37	香川県	52	47	沖縄県	42
08	茨城県	107	18	福井県	39	28	兵庫県	203	38	愛媛県	89			
09	栃木県	59	19	山梨県	29	29	奈良県	44	39	高知県	61			
10	群馬県	72	20	長野県	73	30	和歌山県	50	40	福岡県	261		合計	4623

【2008 年】

No	名称	施設数	No	名称	施設数	No	名称	施設数	No	名称	施設数	No	名称	施設数
01	北海道	180	11	埼玉県	109	21	岐阜県	50	31	鳥取県	21	41	佐賀県	33
02	青森県	48	12	千葉県	100	22	静岡県	66	32	島根県	26	42	長崎県	56
03	岩手県	44	13	東京都	287	23	愛知県	115	33	岡山県	72	43	熊本県	64
04	宮城県	59	14	神奈川県	131	24	三重県	43	34	広島県	80	44	大分県	65
05	秋田県	40	15	新潟県	64	25	滋賀県	26	35	山口県	50	45	宮崎県	33
06	山形県	27	16	富山県	36	26	京都府	56	36	徳島県	33	46	鹿児島県	77
07	福島県	56	17	石川県	46	27	大阪府	185	37	香川県	35	47	沖縄県	36
08	茨城県	54	18	福井県	23	28	兵庫県	160	38	愛媛県	61			
09	栃木県	35	19	山梨県	24	29	奈良県	23	39	高知県	49			
10	群馬県	72	20	長野県	55	30	和歌山県	30	40	福岡県	173		合計	3208

4. 血液製剤使用の有無

【平成 17 年】

番号	項目	0 床		1～299 床		300～499 床		500 床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	はい			3642	91.55%	396	99.00%	245	100.00%	4283	92.65%
2	いいえ			336	8.45%	4	1.00%	0	0.00%	340	7.35%
	合計			3978		400		245		4623	

【2008 年】

番号	項目	0 床		1～299 床		300～499 床		500 床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	はい	0	0.00%	2110	86.37%	442	98.66%	283	100.00%	2835	88.37%
2	いいえ	34	100.00%	333	13.63%	6	1.34%	0	0.00%	373	11.63%
	合計	34		2443		448		283		3208	

これ以降は 17 年度血液製剤の使用実績有り(4283 施設)と
2008 年度血液製剤の使用実績有り(2835 施設)のデータ比較になります。

【平成 17 年製剤別使用量】

		製剤別血液製剤使用量 (単位)					
項目		施設数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差
赤血球製剤/単位	1~299 床	3519	0.06	19000	355.30	1250317.2	619.97
	300~499 床	394	5.00	12458	2183.45	860280.0	1620.05
	500 床以上	244	18.00	24214	6331.65	1544923.0	3805.81
	全体	4157	0.06	24214	879.36	3655520.2	1886.67
血小板製剤/単位	1~299 床	2114	0.04	8810	211.33	446749.4	506.91
	300~499 床	376	4.80	17148	1305.19	490752.8	1736.47
	500 床以上	238	4.00	27978	4767.82	1134740.8	4607.35
	全体	2728	0.04	27978	759.62	2072243.0	2033.43
新鮮凍結血漿/単位	1~299 床	2079	0.10	53245	423.92	881323.8	1652.39
	300~499 床	376	9.00	26100	3057.90	1149772.0	4068.75
	500 床以上	239	20.00	148275	14194.13	3392398.0	13756.67
	全体	2694	0.10	148275	2013.18	5423493.8	6033.87
アルブミン製剤/g	1~299 床	3034	0.30	51575	2824.76	8570336.7	4645.76
	300~499 床	377	20.00	466650	17260.04	6507036.7	27234.72
	500 床以上	237	5.00	369006	51548.28	12216942.1	45799.32
	全体	3648	0.30	466650	7481.99	27294315.5	19602.91
免疫グロブリン製剤/g	1~299 床	2429	0.02	8244	270.29	656533.7	501.40
	300~499 床	366	2.50	61119	1551.82	567965.6	3380.66
	500 床以上	232	5.00	39048	4788.70	1110977.8	4305.76
	全体	3027	0.02	61119	771.55	2335477.1	2123.24

【2008年製剤別使用量】

製剤別血液製剤使用量（単位）							
項目	施設数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差	
赤血球製剤／単位	1～299床	1818	2	7650	419.54	762720	556.71
	300～499床	417	2	17860	2117.28	882906	1837.30
	500床以上	269	15	22922	6675.71	1795766	4104.51
	全体	2504	2	22922	1374.36	3441392	2522.78
血小板製剤／単位	1～299床	1205	1	58280	507.57	611624	2191.71
	300～499床	397	4	31815	2889.74	1147228	4229.36
	500床以上	267	5	134755	13915.72	3715498	13557.11
	全体	1869	1	134755	2929.07	5474350	7355.00
新鮮凍結血漿／単位	1～299床	1039	1	7339.5	220.19	228772.3	507.57
	300～499床	387	4.0	25243	1167.92	451984.6	2083.73
	500床以上	256	3.0	22742.0	4485.26	1148225.7	3990.88
	全体	1682	1	25243.0	1087.39	1828982.6	2407.65
アルブミン製剤／g	1～299床	1481	0.1	120512.5	2768.44	4100052.5	5301.25
	300～499床	361	2.9	94938.0	12920.32	4664236.4	12537.58
	500床以上	241	37.5	404945.0	43559.80	10497911.2	44512.95
	全体	2083	0.1	404945.0	9247.34	19262200.1	21072.30
免疫グロブリン製剤／g	1～299床	1047	0.1	6950.0	301.51	315683.4	588.38
	300～499床	279	5.0	40948.0	1440.44	401883.7	2773.20
	500床以上	173	37.5	87654.0	5141.31	889447.1	7433.02
	全体	1499	0.1	87654.0	1072.06	1607014.2	3219.52

* アルブミン製剤(血漿蛋白製剤も含む)、免疫グロブリン製剤はgに換算し記入して下さい

* FFP-LR-1は1.5単位、FFP-LR-2は3単位として計算して下さい

* 自己血は赤血球成分を単位数に換算して記入下さい

【平成 17 年度病床数あたりの製剤使用量】

病床数あたりの製剤別血液製剤使用量 (単位)							
(計算式: 製剤別血液製剤使用量 ÷ 病床数)							
項目		施設数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差
赤血球製剤/単位	1~299 床	3519	0.0004	395.8333	3.5740	12577.0307	8.6764
	300~499 床	394	0.0144	28.8380	5.8168	2291.8112	4.0116
	500 床以上	244	0.0189	33.5840	8.8685	2163.9162	4.0612
	全体	4157	0.0004	395.8333	4.0974	17032.7581	8.2498
血小板製剤/単位	1~299 床	2114	0.0007	150.0000	1.7416	3681.7488	5.4315
	300~499 床	376	0.0121	42.0294	3.4631	1302.1106	4.4475
	500 床以上	238	0.0066	43.1400	6.4184	1527.5821	5.4161
	全体	2728	0.0007	150.0000	2.3869	6511.4415	5.4799
新鮮凍結血漿/単位	1~299 床	2079	0.0007	352.8889	3.4383	7148.2566	12.6588
	300~499 床	376	0.0226	65.1290	7.9783	2999.8505	10.4087
	500 床以上	239	0.0300	251.7402	19.5938	4682.9222	19.5332
	全体	2694	0.0007	352.8889	5.5052	14831.0293	13.9364
アルブミン製剤/g	1~299 床	3034	0.0050	691.2333	27.7634	84234.1612	45.0402
	300~499 床	377	0.0546	1163.7157	46.1177	17386.3756	69.2039
	500 床以上	237	0.0099	551.5777	71.1132	16853.8305	56.2490
	全体	3648	0.0050	1163.7157	32.4765	118474.3673	50.2027
免疫グロブリン製剤/g	1~299 床	2429	0.0002	79.1854	2.5104	6097.8828	4.3861
	300~499 床	366	0.0071	152.4165	4.1455	1517.2569	8.5494
	500 床以上	232	0.0075	62.2775	6.5586	1521.5913	5.5142
	全体	3027	0.0002	152.4165	3.0184	9136.7310	5.2816

【2008年病床数あたりの製剤使用量】

病床数あたりの製剤別血液製剤使用量（単位） （計算式：製剤別血液製剤使用量÷病床数）							
項目	施設数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差	
赤血球製剤／単位	1～299床	1818	0.0071	52.8000	3.1087	5651.5315	3.6423
	300～499床	417	0.0051	53.8230	5.6740	2366.0573	4.8138
	500床以上	269	0.0204	31.9380	9.3567	2516.9642	4.5118
	全体	2504	0.0051	53.8230	4.2071	10534.5530	4.4437
血小板製剤／単位	1～299床	1205	0.0087	340.1667	3.4026	4100.1886	15.2231
	300～499床	397	0.0098	102.6290	7.6030	3018.3928	11.2829
	500床以上	267	0.0069	214.2369	19.2002	5126.4405	18.1497
	全体	1869	0.0069	340.1667	6.5516	12245.0219	15.8985
新鮮凍結血漿／単位	1～299床	1039	0.0054	31.9109	1.3959	1450.3074	2.9740
	300～499床	387	0.0133	66.913	3.1133	1204.8325	5.5828
	500床以上	256	0.0034	23.7887	6.0229	1541.8730	4.2519
	全体	1682	0.0034	66.913	2.4953	4197.0129	4.2533
アルブミン製剤／g	1～299床	1481	0.0004	803.4167	19.8971	29467.5651	33.4896
	300～499床	361	0.0094	263.7167	34.9422	12614.1522	33.6182
	500床以上	241	0.0375	546.4845	59.0014	14219.3328	53.9707
	全体	2083	0.0004	803.4167	27.0288	56301.0501	38.6500
免疫グロブリン製剤／g	1～299床	1047	0.0004	105.3571	2.2328	2337.701	5.5375
	300～499床	279	0.0129	94.3502	3.8157	1064.5866	6.7412
	500床以上	173	0.0616	108.2148	6.8181	1179.5228	8.9892
	全体	1499	0.0004	108.2148	3.0566	4581.8104	6.4295

病院種別血液製剤使用量(1床当たりの単位数)

【平成17年】

番号	項目	施設数 合計	病床数 合計	赤血球濃厚液 (単位)	新鮮凍結血漿 (単位)	血小板濃厚液 (単位)	アルブミン製剤 (g)	免疫グロブリン 製剤 (g)
1	国	202	72820	6.5001	5.8916	14.9966	59.1961	5.2289
2	公的医療機関	906	209537	6.0617	2.9647	10.0547	43.2619	3.7482
3	社会保険関連団体	89	23709	5.7974	2.7759	8.7565	43.7658	4.0824
4	医療法人関連団体	2580	241234	3.7817	1.5282	2.5894	24.3549	1.8360
5	個人病院	311	19957	2.4921	0.7805	1.6275	17.0311	1.0855
6	その他	535	118550	6.8542	4.8246	11.4709	56.2288	5.1285

【2008年】

番号	項目	施設数 合計	病床数 合計	赤血球濃厚液 (単位)	新鮮凍結血漿 (単位)	血小板濃厚液 (単位)	アルブミン製剤 (g)	免疫グロブリン 製剤 (g)
1	大学病院	106	71304	10.8279	8.8360	24.7250	76.7577	7.3523
2	大学病院の分院	28	9577	9.3253	5.8332	14.7534	52.2701	4.3227
3	国立病院機構・医療センター	82	31144	4.6178	2.4209	8.7085	18.9058	1.4283
4	公立・自治体病院	542	142150	6.1052	2.7290	10.0521	28.8745	2.6479
5	社会保険関連病院	59	16020	5.5508	2.5999	7.3269	28.9000	1.3055
6	医療法人関連病院	1627	250062	3.2241	1.3575	2.7373	18.2038	1.2382
7	個人病院	351	35867	2.3518	0.9275	1.1143	12.0872	1.0019
8	その他	413	101670	5.7892	2.6102	10.1121	30.9491	2.4982

都道府県別濃厚赤血球使用量(1床当たりの単位数)

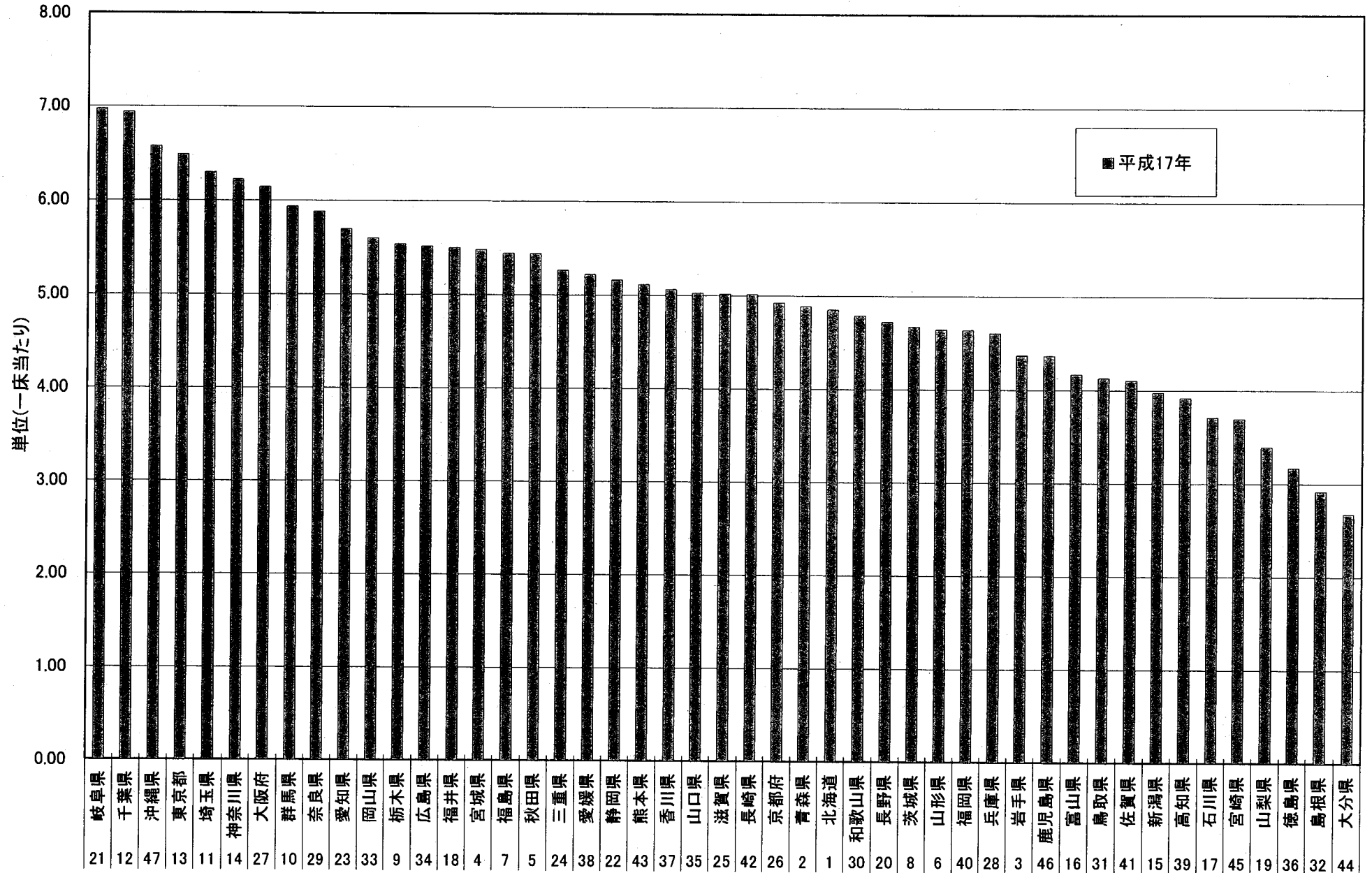
【平成 17 年】

No	名称	使用量	No	名称	使用量	No	名称	使用量	No	名称	使用量	No	名称	使用量
01	北海道	4.8529	11	埼玉県	6.2972	21	岐阜県	6.9746	31	鳥取県	4.1286	41	佐賀県	4.1049
02	青森県	4.8874	12	千葉県	6.9401	22	静岡県	5.1641	32	島根県	2.9179	42	長崎県	5.0154
03	岩手県	4.3676	13	東京都	6.4862	23	愛知県	5.6977	33	岡山県	5.6006	43	熊本県	5.1159
04	宮城県	5.4813	14	神奈川県	6.2232	24	三重県	5.2645	34	広島県	5.5174	44	大分県	2.6780
05	秋田県	5.4398	15	新潟県	3.9742	25	滋賀県	5.0175	35	山口県	5.0259	45	宮崎県	3.6955
06	山形県	4.6426	16	富山県	4.1691	26	京都府	4.9254	36	徳島県	3.1684	46	鹿児島県	4.3627
07	福島県	5.4434	17	石川県	3.7101	27	大阪府	6.1426	37	香川県	5.0624	47	沖縄県	6.5727
08	茨城県	4.6716	18	福井県	5.4997	28	兵庫県	4.6029	38	愛媛県	5.2222			
09	栃木県	5.5380	19	山梨県	3.3901	29	奈良県	5.8833	39	高知県	3.9162			
10	群馬県	5.9366	20	長野県	4.7225	30	和歌山県	4.7922	40	福岡県	4.6371			

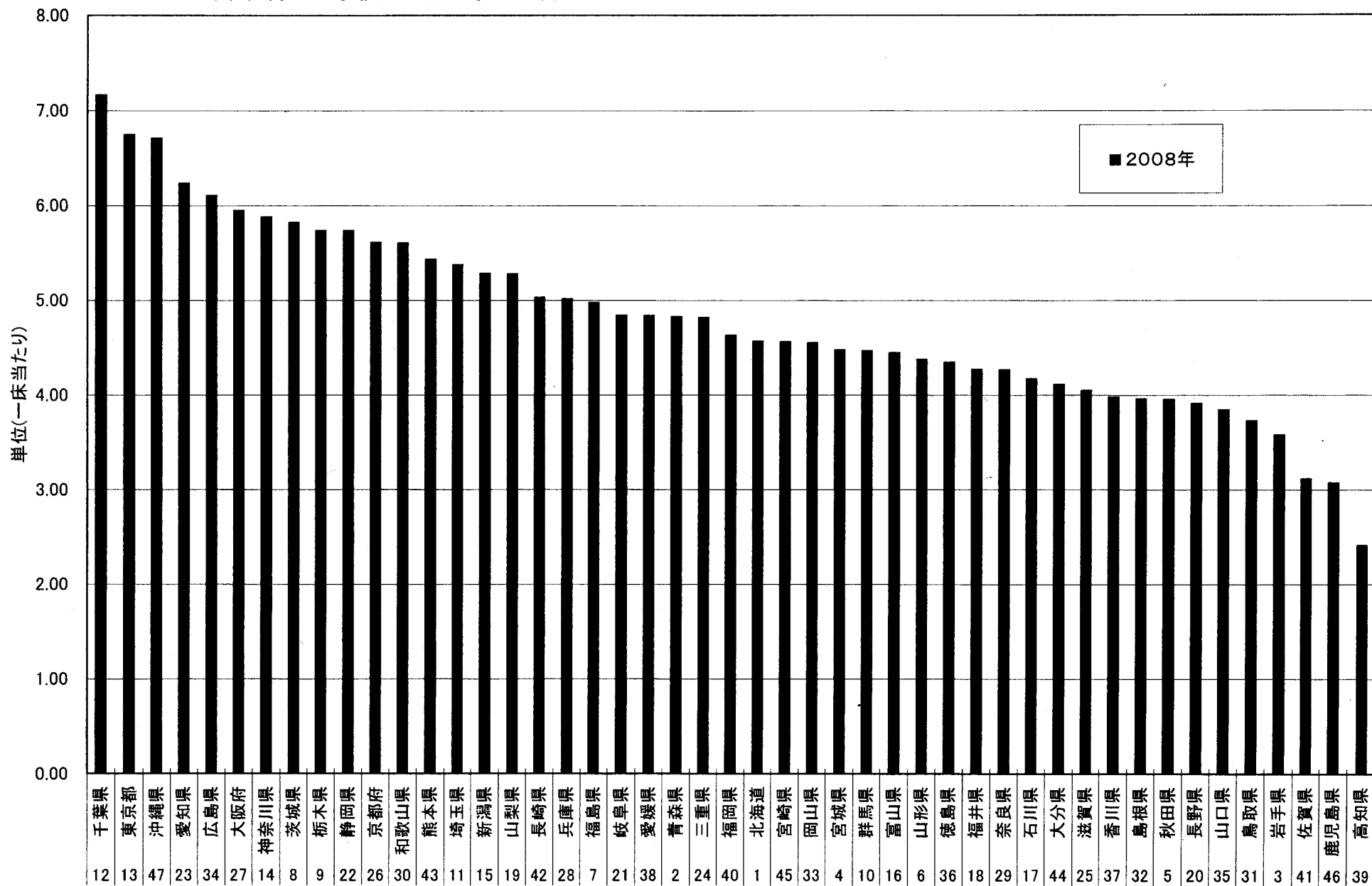
【2008 年】

No	名称	使用量	No	名称	使用量	No	名称	使用量	No	名称	使用量	No	名称	使用量
01	北海道	4.5754	11	埼玉県	5.3813	21	岐阜県	4.8496	31	鳥取県	3.7344	41	佐賀県	3.1222
02	青森県	4.8353	12	千葉県	7.1726	22	静岡県	5.7391	32	島根県	3.9655	42	長崎県	5.0399
03	岩手県	3.5843	13	東京都	6.7508	23	愛知県	6.2416	33	岡山県	4.5568	43	熊本県	5.4377
04	宮城県	4.4841	14	神奈川県	5.8828	24	三重県	4.8268	34	広島県	6.1112	44	大分県	4.1197
05	秋田県	3.9612	15	新潟県	5.2899	25	滋賀県	4.0539	35	山口県	3.8511	45	宮崎県	4.5685
06	山形県	4.3835	16	富山県	4.4513	26	京都府	5.6169	36	徳島県	4.3509	46	鹿児島県	3.0784
07	福島県	4.9833	17	石川県	4.1790	27	大阪府	5.9569	37	香川県	3.9843	47	沖縄県	6.7150
08	茨城県	5.8258	18	福井県	4.2786	28	兵庫県	5.0253	38	愛媛県	4.8476			
09	栃木県	5.7412	19	山梨県	5.2878	29	奈良県	4.2722	39	高知県	2.4187			
10	群馬県	4.4745	20	長野県	3.9188	30	和歌山県	5.6107	40	福岡県	4.6364			

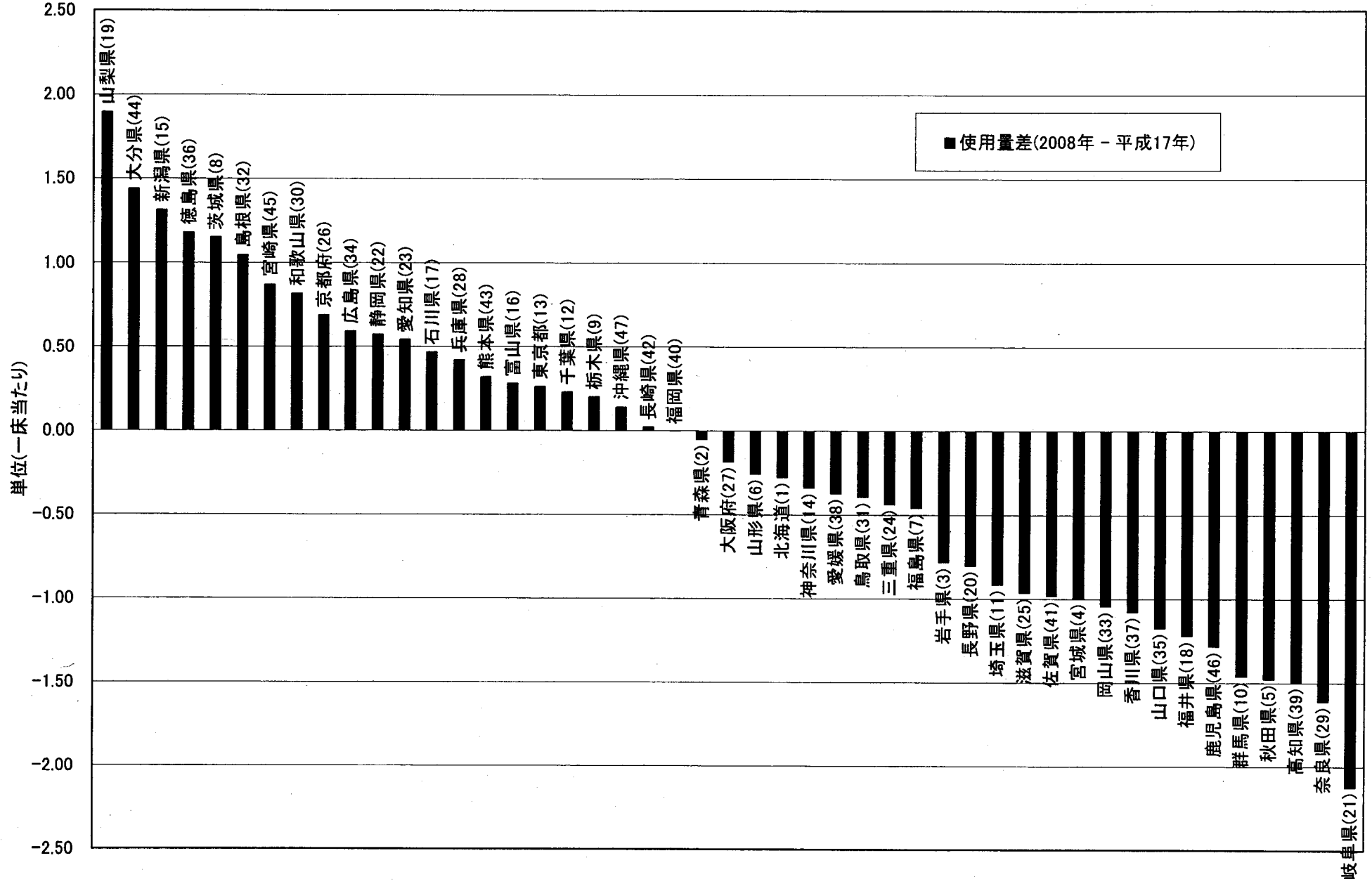
平成17年 濃厚赤血球使用量の多い順



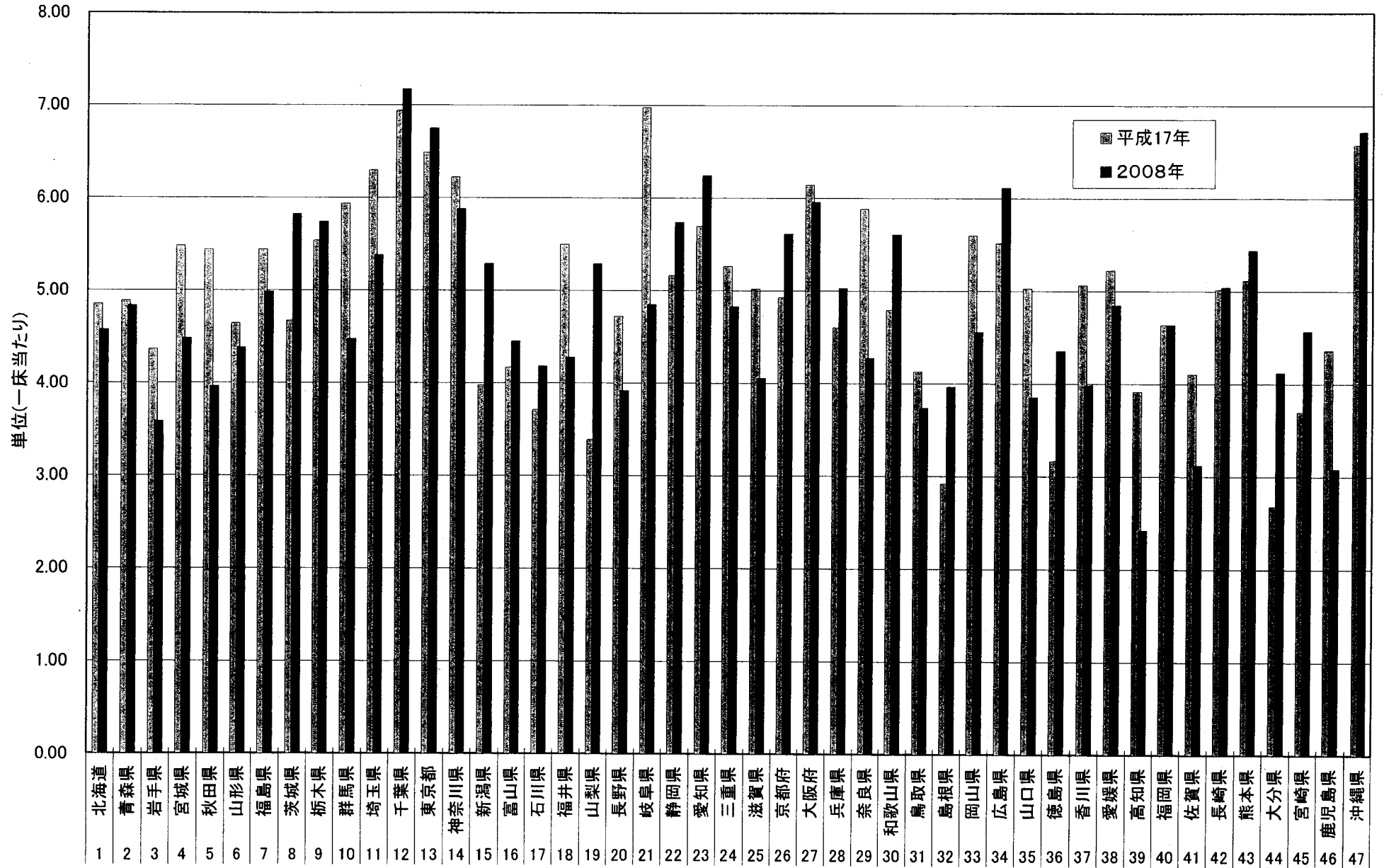
2008年 濃厚赤血球使用量の多い順



濃厚赤血球使用量 年度比較-増減



濃厚赤血球使用量



都道府県別新鮮凍結血漿使用量(1床当たりの単位数)

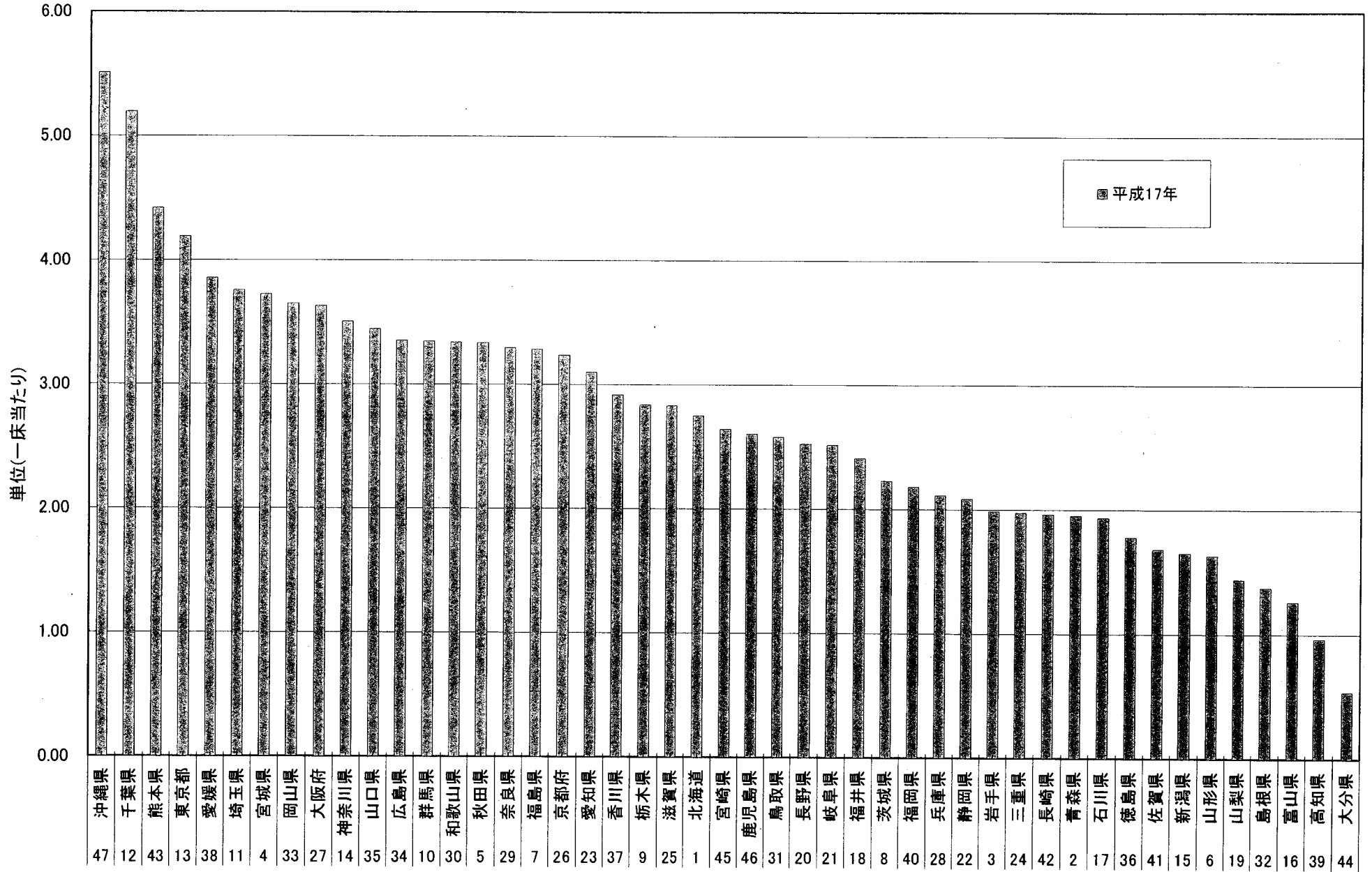
【平成17年】

No	名称	使用量	No	名称	使用量	No	名称	使用量	No	名称	使用量	No	名称	使用量
01	北海道	2.7468	11	埼玉県	3.7600	21	岐阜県	2.5164	31	鳥取県	2.5781	41	佐賀県	1.6844
02	青森県	1.9518	12	千葉県	5.1971	22	静岡県	2.0844	32	島根県	1.3769	42	長崎県	1.9644
03	岩手県	1.9850	13	東京都	4.1930	23	愛知県	3.0986	33	岡山県	3.6519	43	熊本県	4.4199
04	宮城県	3.7263	14	神奈川県	3.5050	24	三重県	1.9757	34	広島県	3.3536	44	大分県	0.5373
05	秋田県	3.3355	15	新潟県	1.6529	25	滋賀県	2.8307	35	山口県	3.4442	45	宮崎県	2.6408
06	山形県	1.6333	16	富山県	1.2616	26	京都府	3.2363	36	徳島県	1.7783	46	鹿児島県	2.6039
07	福島県	3.2824	17	石川県	1.9358	27	大阪府	3.6337	37	香川県	2.9156	47	沖縄県	5.5111
08	茨城県	2.2274	18	福井県	2.4097	28	兵庫県	2.1128	38	愛媛県	3.8565			
09	栃木県	2.8350	19	山梨県	1.4412	29	奈良県	3.2947	39	高知県	0.9628			
10	群馬県	3.3486	20	長野県	2.5253	30	和歌山県	3.3379	40	福岡県	2.1797			

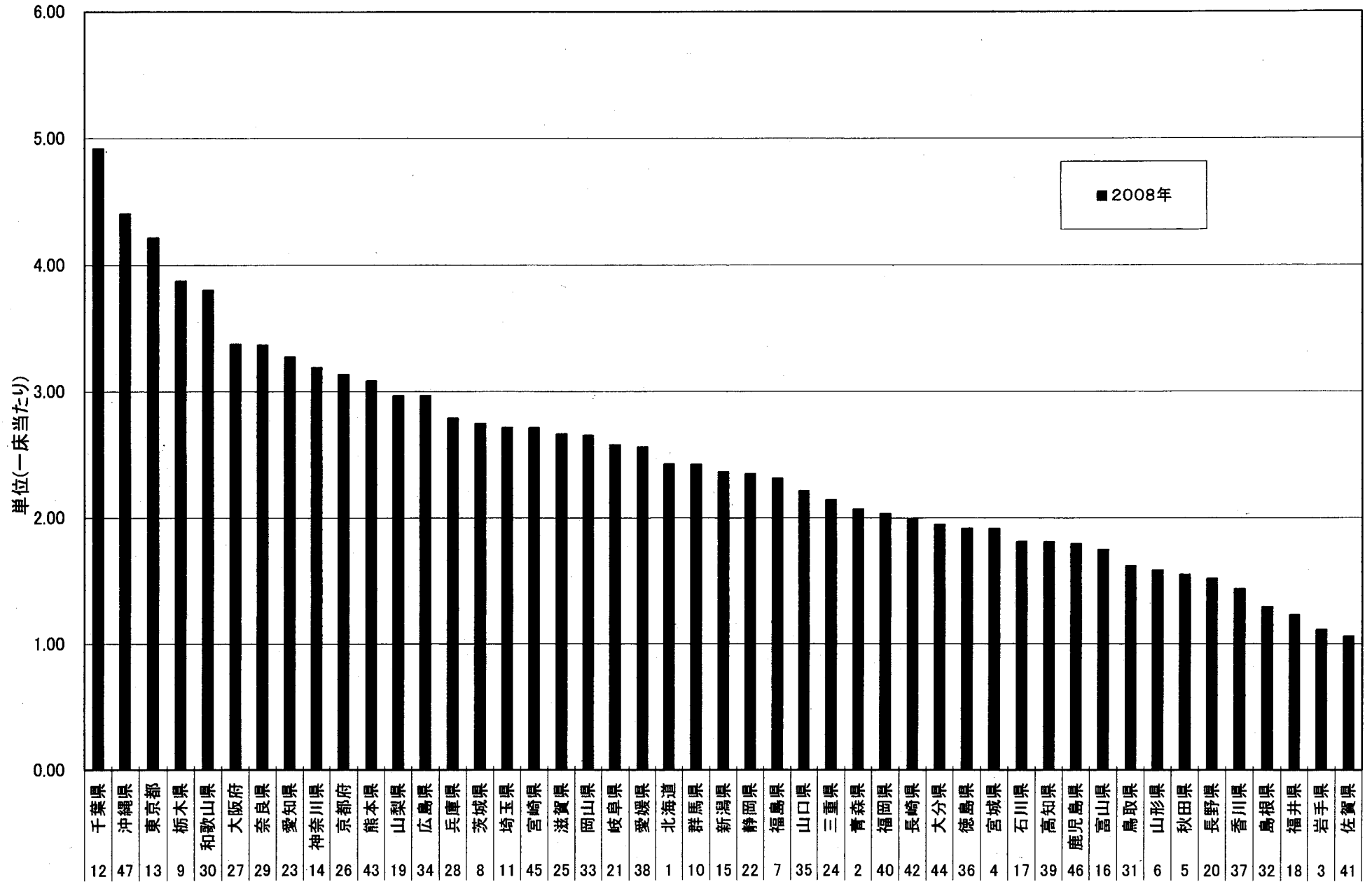
【2008年】

No	名称	使用量	No	名称	使用量	No	名称	使用量	No	名称	使用量	No	名称	使用量
01	北海道	2.4308	11	埼玉県	2.7210	21	岐阜県	2.5844	31	鳥取県	1.6247	41	佐賀県	1.0634
02	青森県	2.0729	12	千葉県	4.9214	22	静岡県	2.3521	32	島根県	1.2958	42	長崎県	1.9904
03	岩手県	1.1166	13	東京都	4.2233	23	愛知県	3.2782	33	岡山県	2.6592	43	熊本県	3.0874
04	宮城県	1.9196	14	神奈川県	3.1945	24	三重県	2.1462	34	広島県	2.9715	44	大分県	1.9521
05	秋田県	1.5549	15	新潟県	2.3685	25	滋賀県	2.6686	35	山口県	2.2174	45	宮崎県	2.7197
06	山形県	1.5900	16	富山県	1.7538	26	京都府	3.1382	36	徳島県	1.9219	46	鹿児島県	1.7993
07	福島県	2.3160	17	石川県	1.8171	27	大阪府	3.3807	37	香川県	1.4399	47	沖縄県	4.4120
08	茨城県	2.7509	18	福井県	1.2339	28	兵庫県	2.7940	38	愛媛県	2.5658			
09	栃木県	3.8808	19	山梨県	2.9715	29	奈良県	3.3740	39	高知県	1.8150			
10	群馬県	2.4275	20	長野県	1.5229	30	和歌山県	3.8071	40	福岡県	2.0372			

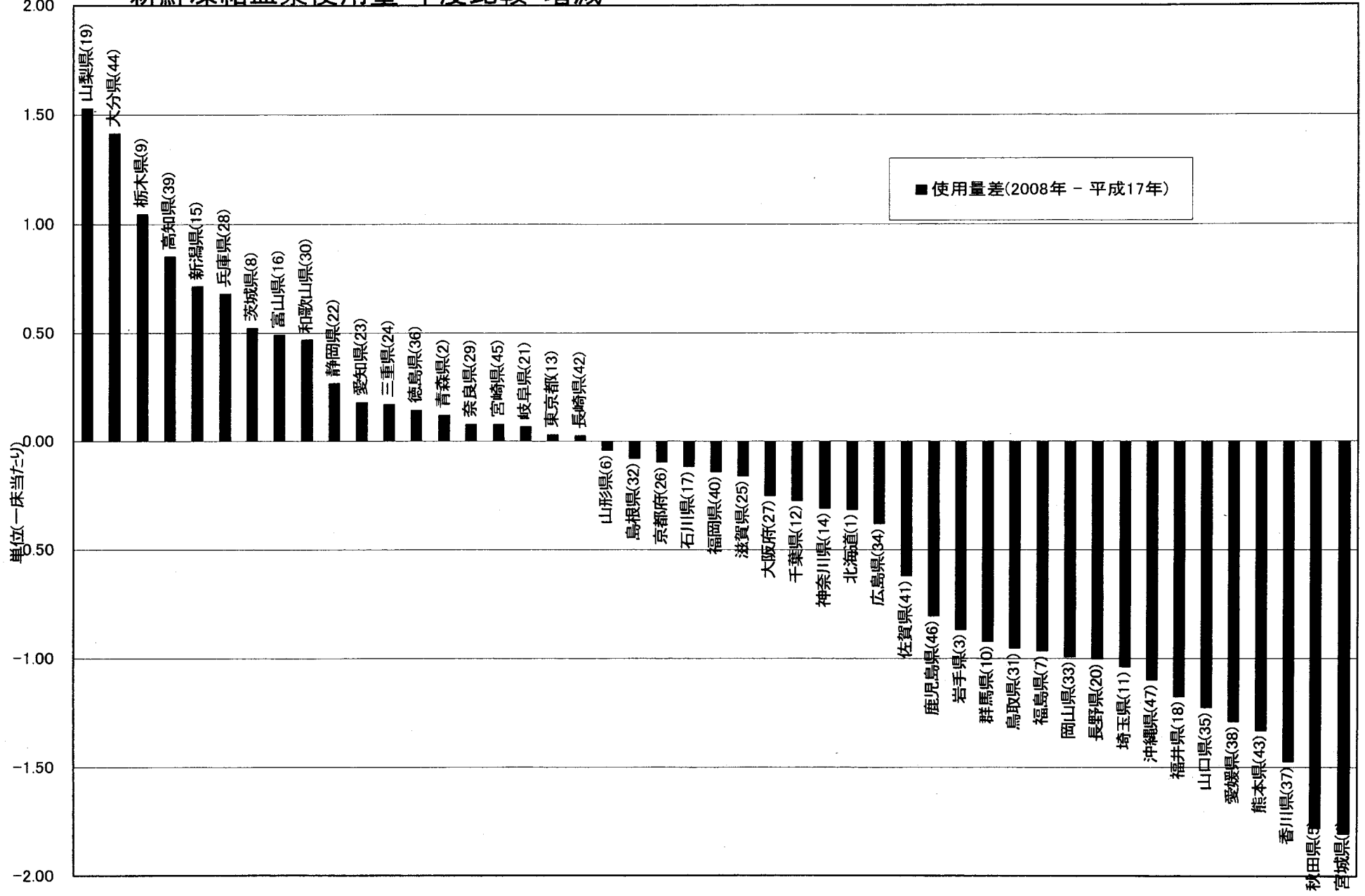
平成17年 新鮮凍結血漿使用量の多い順



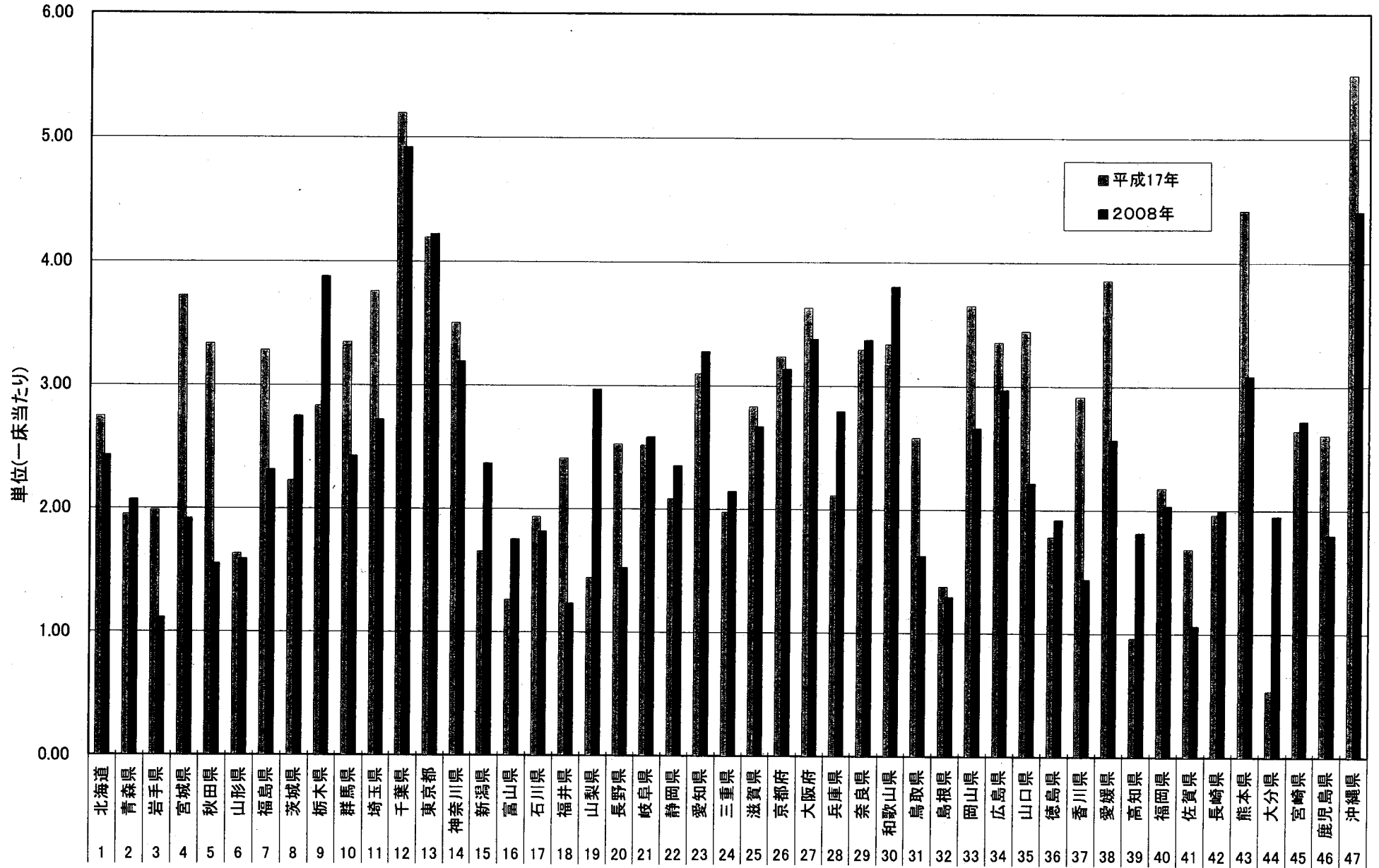
2008年 新鮮凍結血漿使用量の多い順



新鮮凍結血漿使用量 年度比較-増減



新鮮凍結血漿使用量



都道府県別血小板濃厚液使用量(1床当たりの単位数)

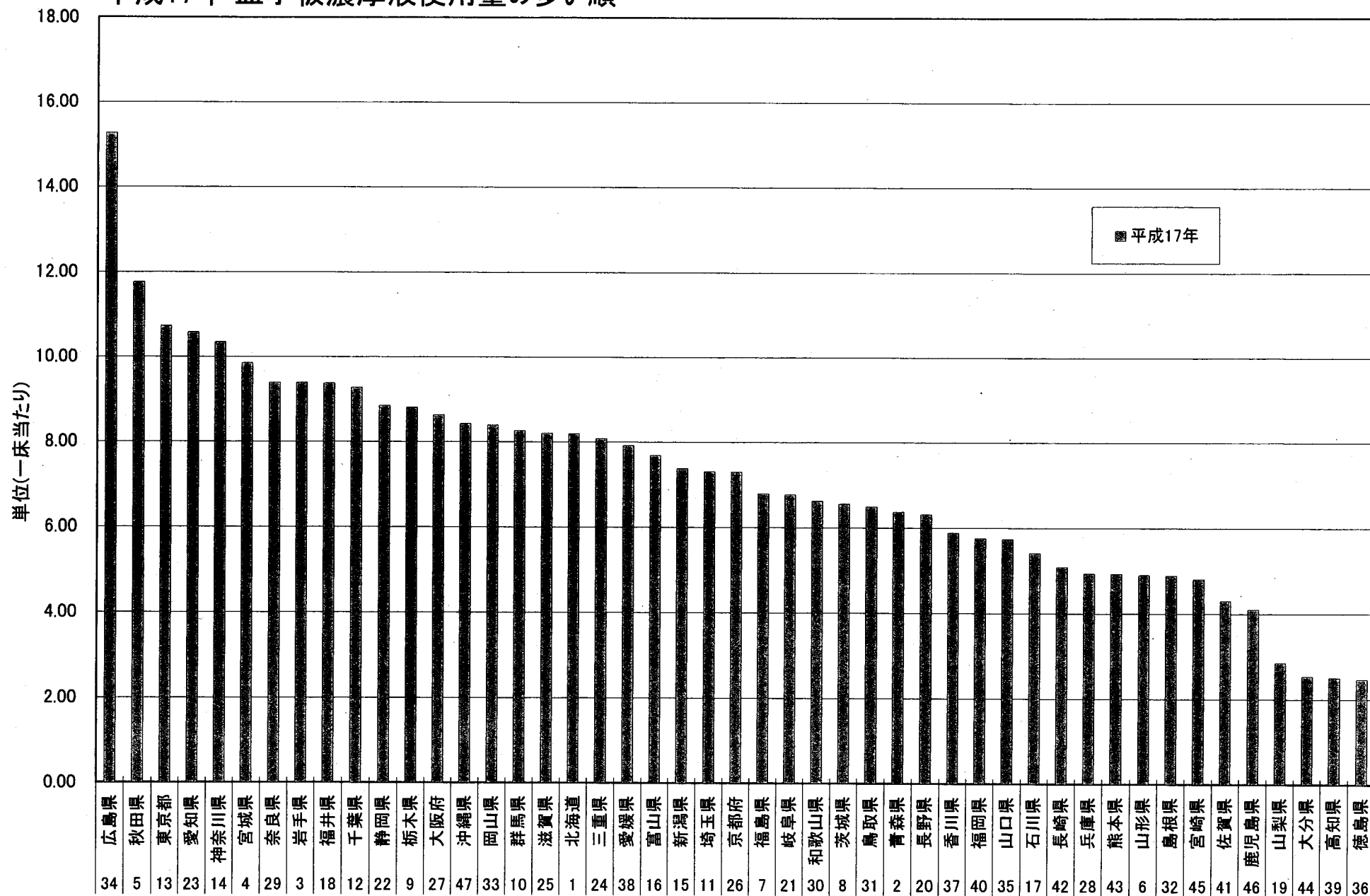
【平成 17 年】

No	名称	使用量	No	名称	使用量	No	名称	使用量	No	名称	使用量	No	名称	使用量
01	北海道	8.1875	11	埼玉県	7.3026	21	岐阜県	6.7679	31	鳥取県	6.4949	41	佐賀県	4.3020
02	青森県	6.3698	12	千葉県	9.2771	22	静岡県	8.8516	32	島根県	4.8898	42	長崎県	5.0875
03	岩手県	9.3931	13	東京都	10.7315	23	愛知県	10.5822	33	岡山県	8.3982	43	熊本県	4.9279
04	宮城県	9.8529	14	神奈川県	10.3444	24	三重県	8.0827	34	広島県	15.2624	44	大分県	2.5416
05	秋田県	11.7647	15	新潟県	7.3744	25	滋賀県	8.2073	35	山口県	5.7421	45	宮崎県	4.8145
06	山形県	4.9100	16	富山県	7.6804	26	京都府	7.2969	36	徳島県	2.4693	46	鹿児島県	4.1065
07	福島県	6.7937	17	石川県	5.4142	27	大阪府	8.6297	37	香川県	5.8892	47	沖縄県	8.4279
08	茨城県	6.5548	18	福井県	9.3801	28	兵庫県	4.9424	38	愛媛県	7.9126			
09	栃木県	8.8090	19	山梨県	2.8537	29	奈良県	9.3956	39	高知県	2.5074			
10	群馬県	8.2663	20	長野県	6.3132	30	和歌山県	6.6189	40	福岡県	5.7609			

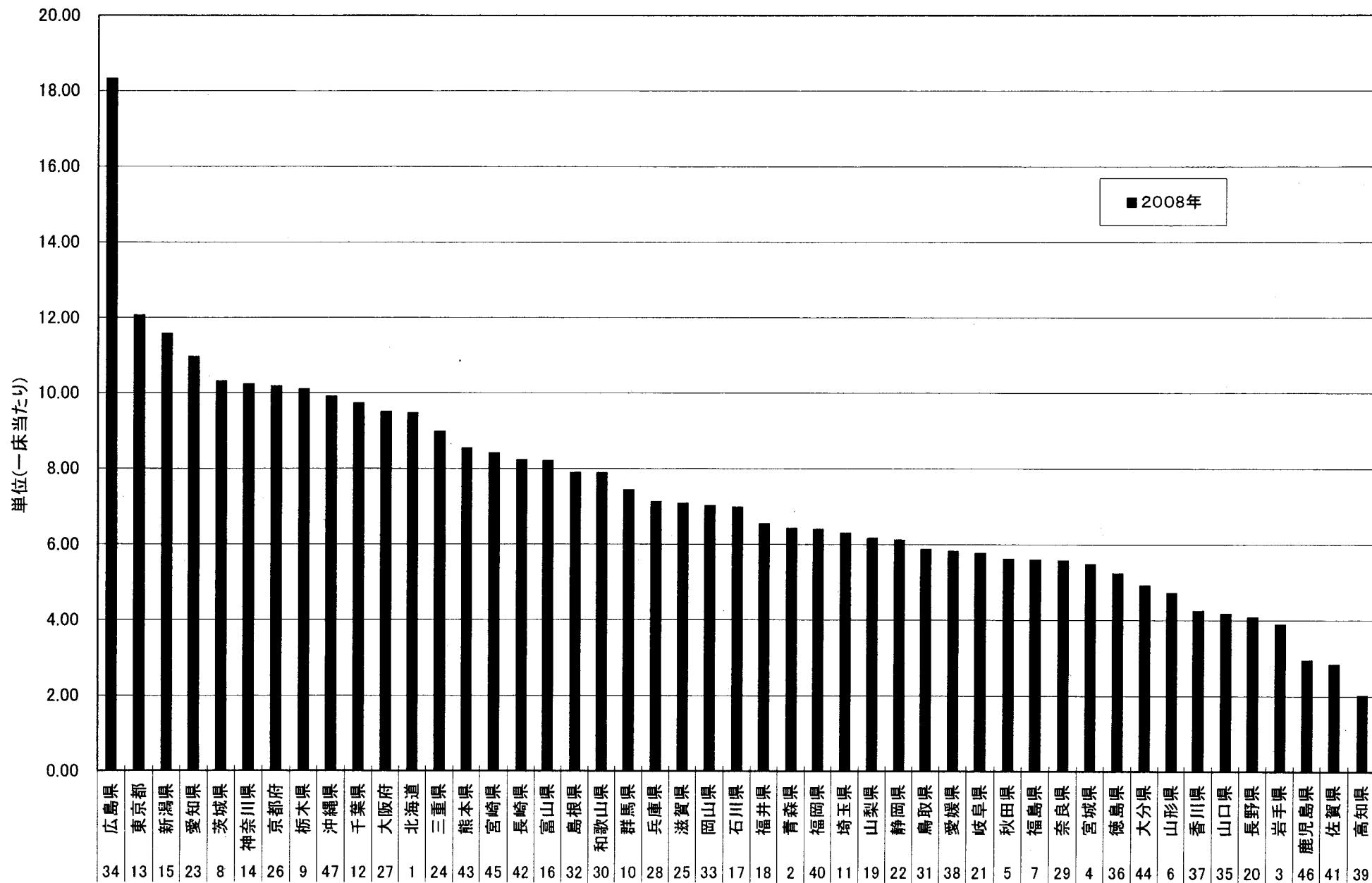
【2008 年】

No	名称	使用量	No	名称	使用量	No	名称	使用量	No	名称	使用量	No	名称	使用量
01	北海道	9.4698	11	埼玉県	6.3062	21	岐阜県	5.7835	31	鳥取県	5.8825	41	佐賀県	2.8412
02	青森県	6.4280	12	千葉県	9.7327	22	静岡県	6.1253	32	島根県	7.8993	42	長崎県	8.2392
03	岩手県	3.9020	13	東京都	12.0753	23	愛知県	10.9718	33	岡山県	7.0290	43	熊本県	8.5425
04	宮城県	5.4924	14	神奈川県	10.2391	24	三重県	8.9902	34	広島県	18.3365	44	大分県	4.9271
05	秋田県	5.6321	15	新潟県	11.5890	25	滋賀県	7.0863	35	山口県	4.1800	45	宮崎県	8.4188
06	山形県	4.7352	16	富山県	8.2184	26	京都府	10.1894	36	徳島県	5.2519	46	鹿児島県	2.9537
07	福島県	5.6099	17	石川県	6.9829	27	大阪府	9.5070	37	香川県	4.2583	47	沖縄県	9.9146
08	茨城県	10.3182	18	福井県	6.5466	28	兵庫県	7.1317	38	愛媛県	5.8358			
09	栃木県	10.1093	19	山梨県	6.1742	29	奈良県	5.5868	39	高知県	2.0261			
10	群馬県	7.4365	20	長野県	4.0842	30	和歌山県	7.8967	40	福岡県	6.4085			

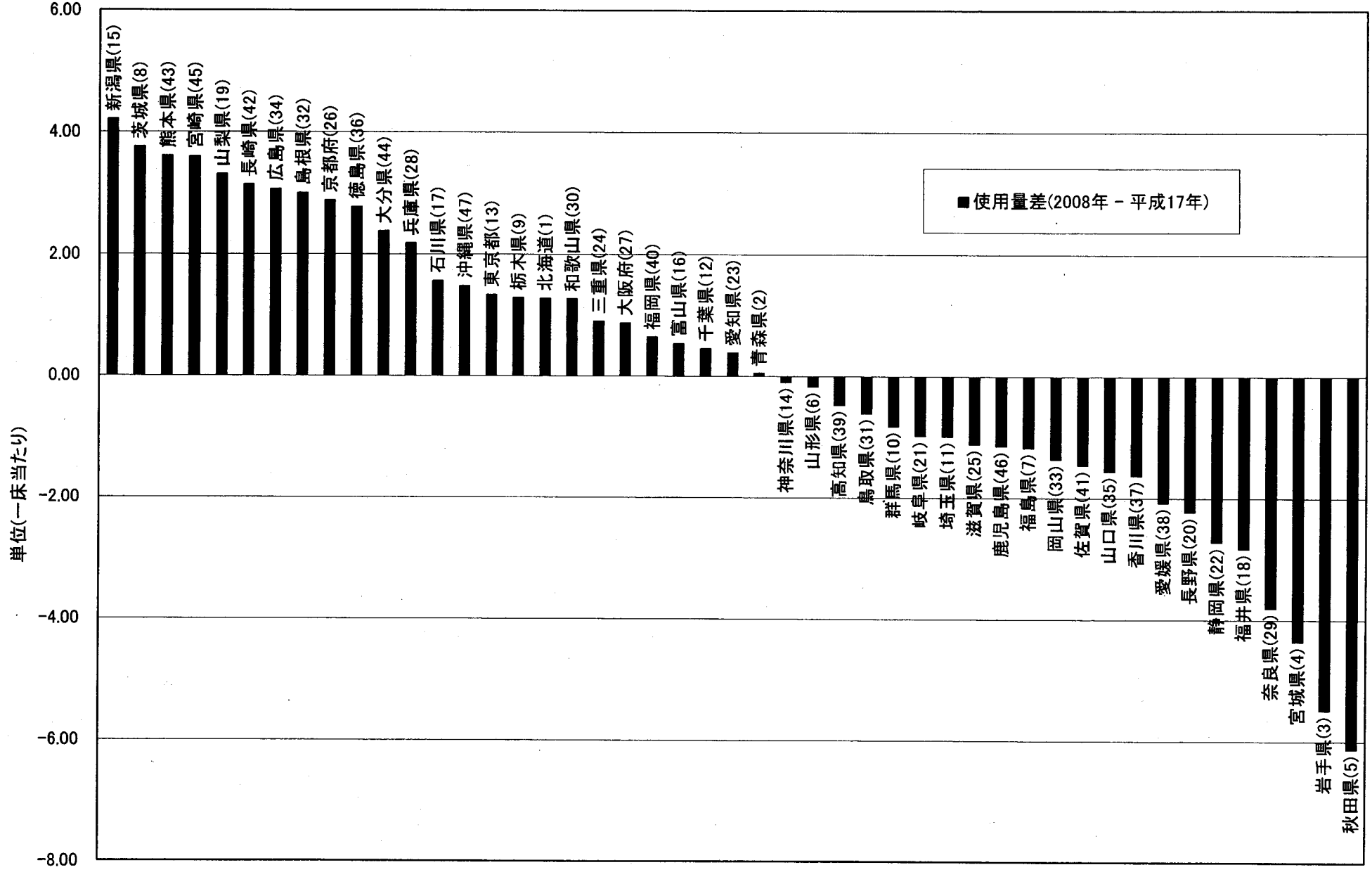
平成17年 血小板濃厚液使用量の多い順



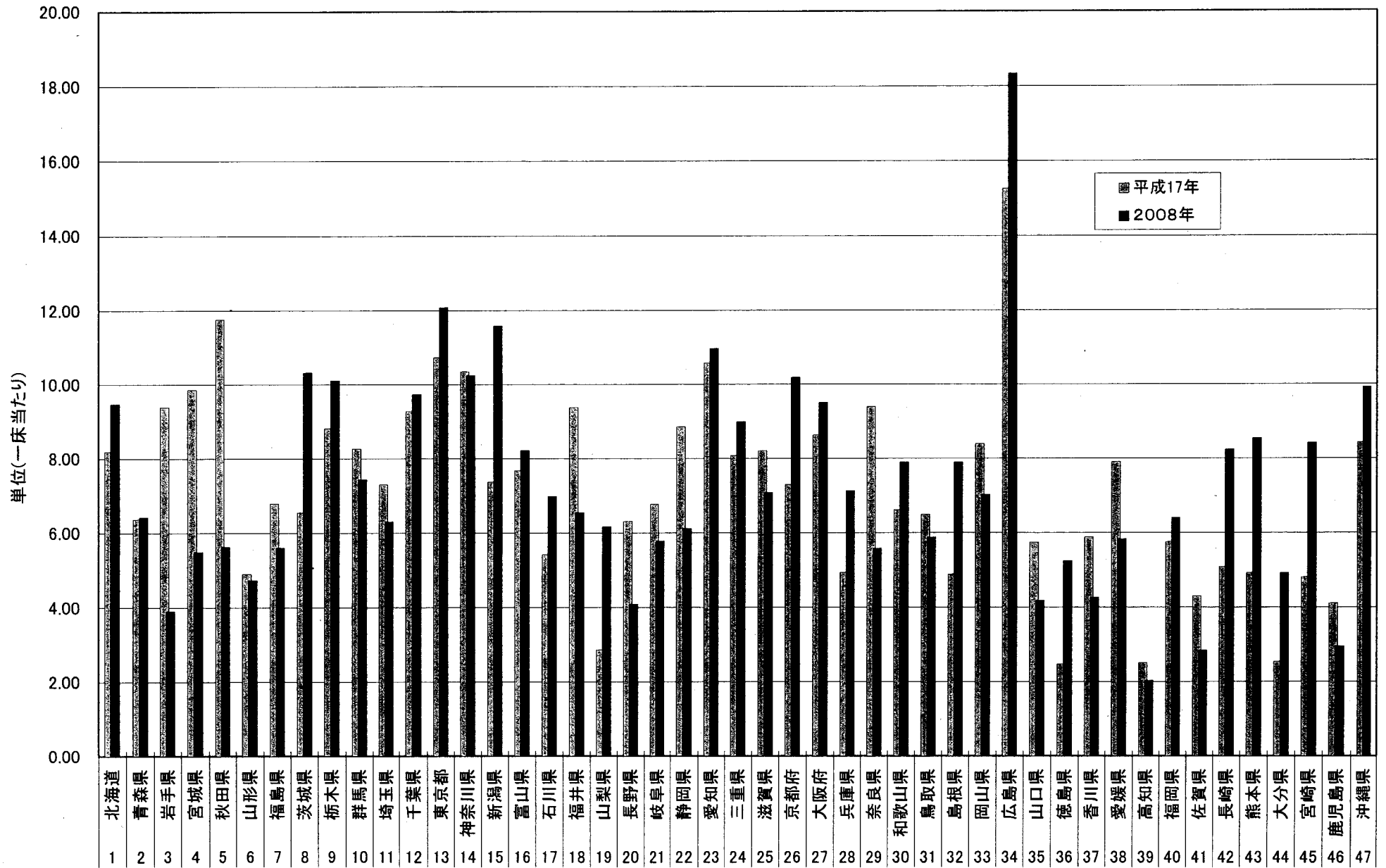
2008年 血小板濃厚液使用量の多い順



血小板濃厚液使用量 年度比較-増減



血小板濃厚液使用量



都道府県別アルブミン製剤使用量(1床当たりのg数)

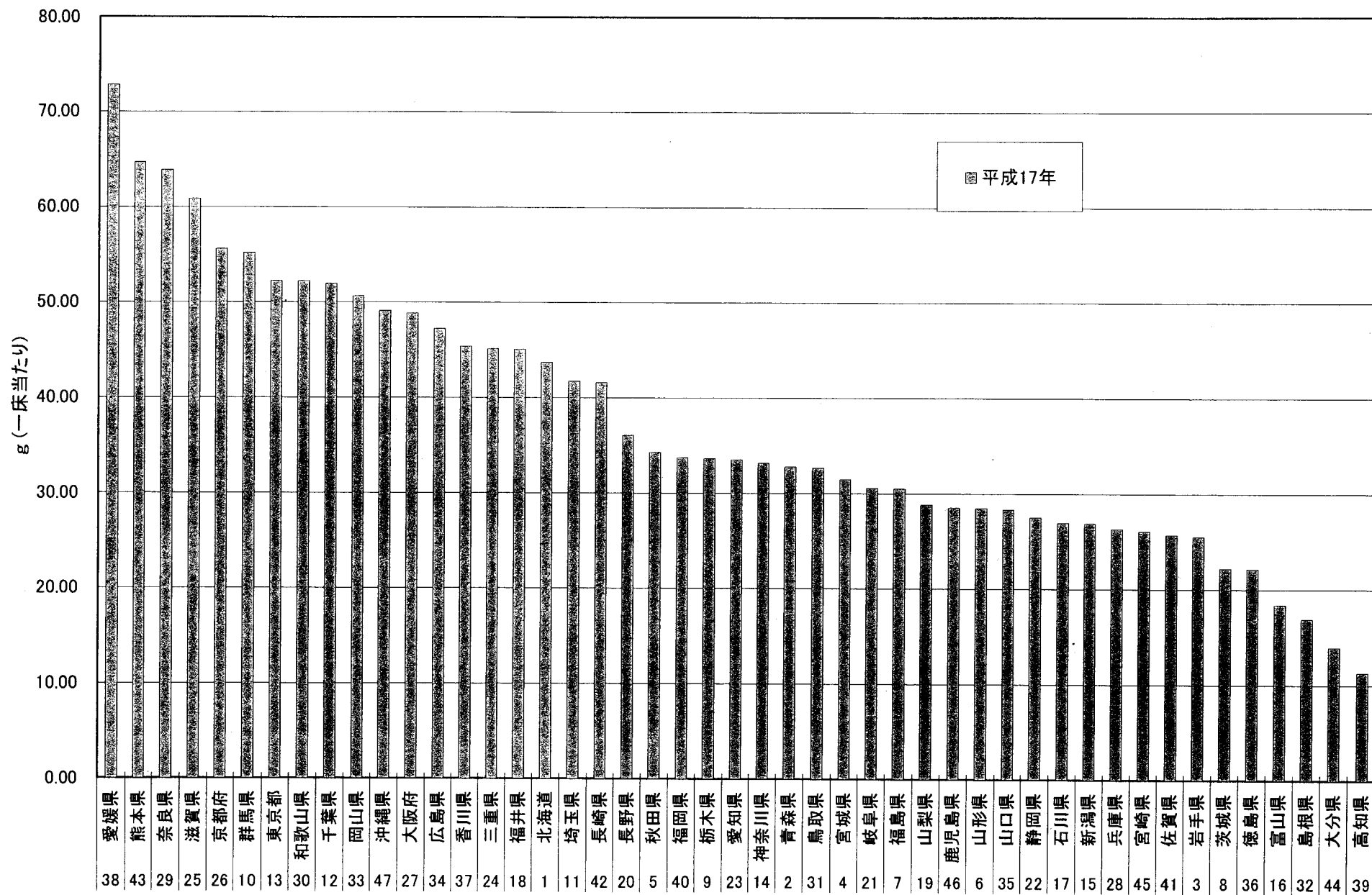
【平成17年】

No	名称	使用量	No	名称	使用量	No	名称	使用量	No	名称	使用量	No	名称	使用量
01	北海道	43.7014	11	埼玉県	41.7428	21	岐阜県	30.5854	31	鳥取県	32.6627	41	佐賀県	25.7189
02	青森県	32.7778	12	千葉県	51.9531	22	静岡県	27.5361	32	島根県	16.9028	42	長崎県	41.5859
03	岩手県	25.5323	13	東京都	52.2528	23	愛知県	33.5200	33	岡山県	50.6575	43	熊本県	64.7044
04	宮城県	31.4697	14	神奈川県	33.1537	24	三重県	45.0960	34	広島県	47.2248	44	大分県	13.9251
05	秋田県	34.2637	15	新潟県	26.9086	25	滋賀県	60.8750	35	山口県	28.3404	45	宮崎県	26.0857
06	山形県	28.4962	16	富山県	18.3693	26	京都府	55.6035	36	徳島県	22.1657	46	鹿児島県	28.5517
07	福島県	30.5138	17	石川県	26.9749	27	大阪府	48.8659	37	香川県	45.3603	47	沖縄県	49.1259
08	茨城県	22.2028	18	福井県	45.0564	28	兵庫県	26.3316	38	愛媛県	72.8428			
09	栃木県	33.6123	19	山梨県	28.8313	29	奈良県	63.8987	39	高知県	11.3035			
10	群馬県	55.1810	20	長野県	36.0246	30	和歌山県	52.2450	40	福岡県	33.7166			

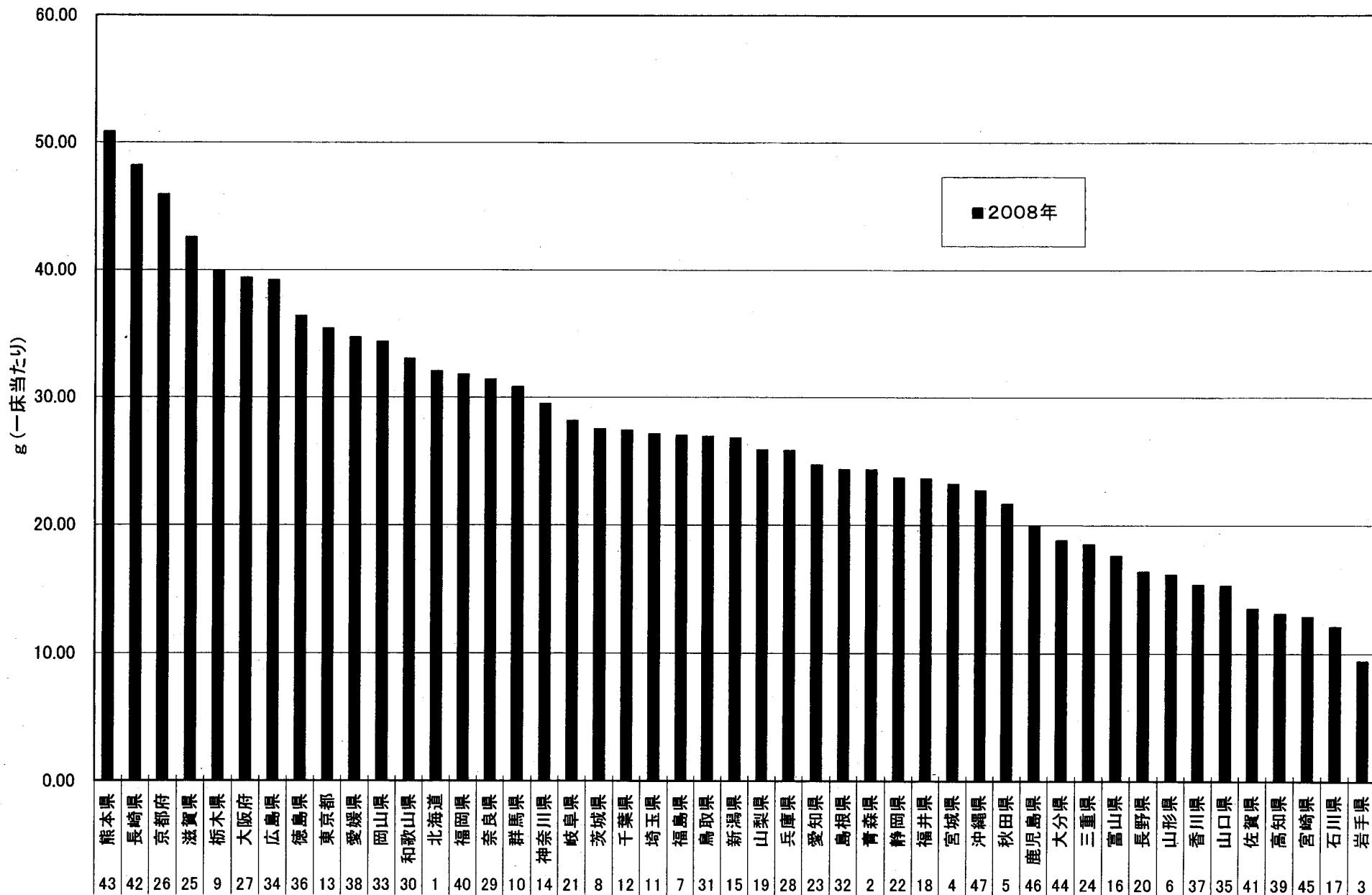
【2008年】

No	名称	使用量	No	名称	使用量	No	名称	使用量	No	名称	使用量	No	名称	使用量
01	北海道	32.0713	11	埼玉県	27.1808	21	岐阜県	28.2133	31	鳥取県	26.9815	41	佐賀県	13.5524
02	青森県	24.3723	12	千葉県	27.4664	22	静岡県	23.7486	32	島根県	24.3895	42	長崎県	48.2612
03	岩手県	9.4597	13	東京都	35.4406	23	愛知県	24.7595	33	岡山県	34.4059	43	熊本県	50.8865
04	宮城県	23.2529	14	神奈川県	29.5346	24	三重県	18.5571	34	広島県	39.2457	44	大分県	18.8684
05	秋田県	21.7075	15	新潟県	26.8600	25	滋賀県	42.6207	35	山口県	15.3526	45	宮崎県	12.9019
06	山形県	16.2112	16	富山県	17.6818	26	京都府	45.9826	36	徳島県	36.4372	46	鹿児島県	20.0228
07	福島県	27.0714	17	石川県	12.1254	27	大阪府	39.4257	37	香川県	15.4290	47	沖縄県	22.7490
08	茨城県	27.5525	18	福井県	23.6666	28	兵庫県	25.8795	38	愛媛県	34.7478			
09	栃木県	39.9477	19	山梨県	25.9335	29	奈良県	31.4431	39	高知県	13.1573			
10	群馬県	30.8454	20	長野県	16.4467	30	和歌山県	33.0756	40	福岡県	31.8224			

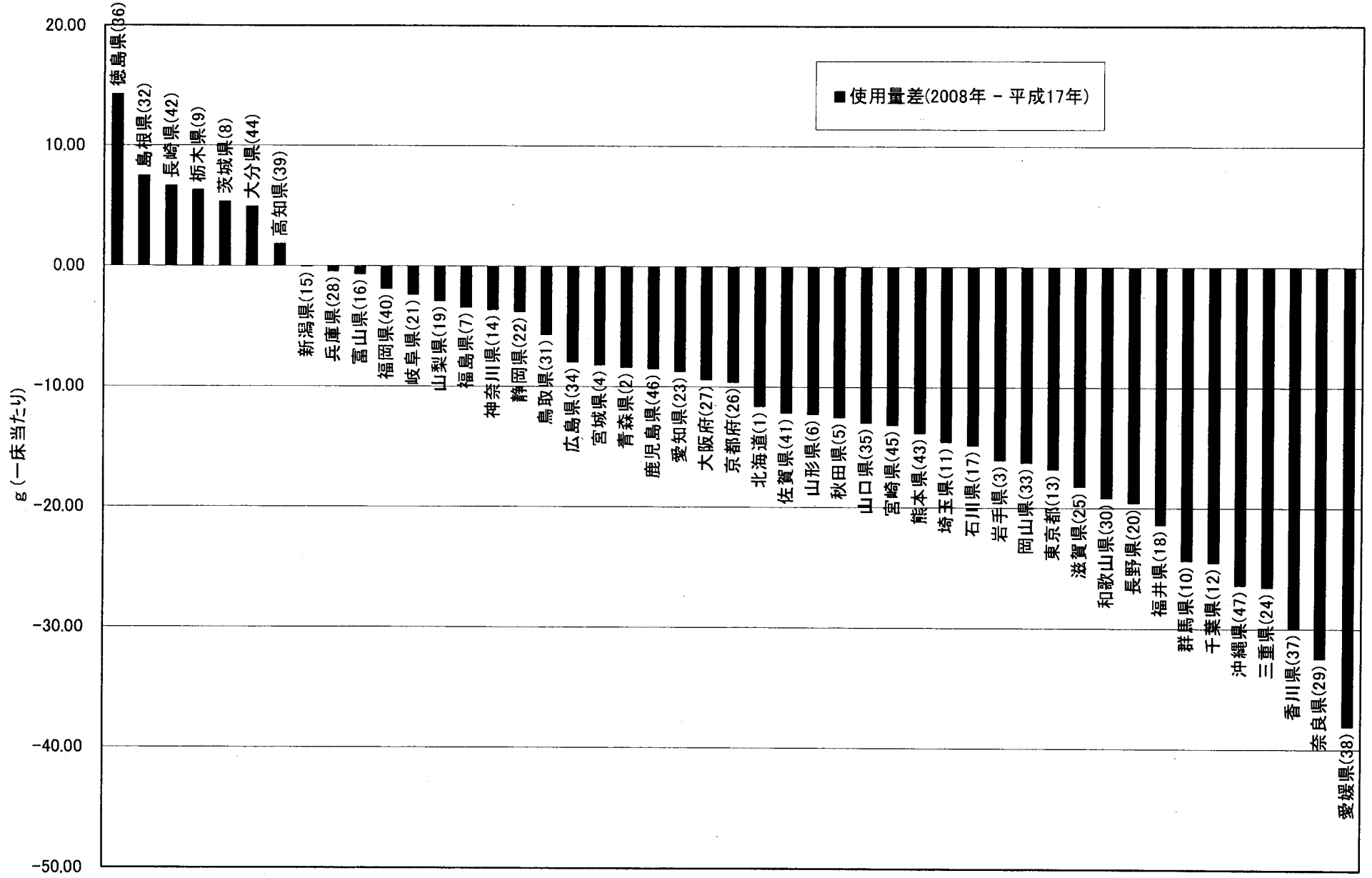
平成17年 アルブミン製剤使用量の多い順



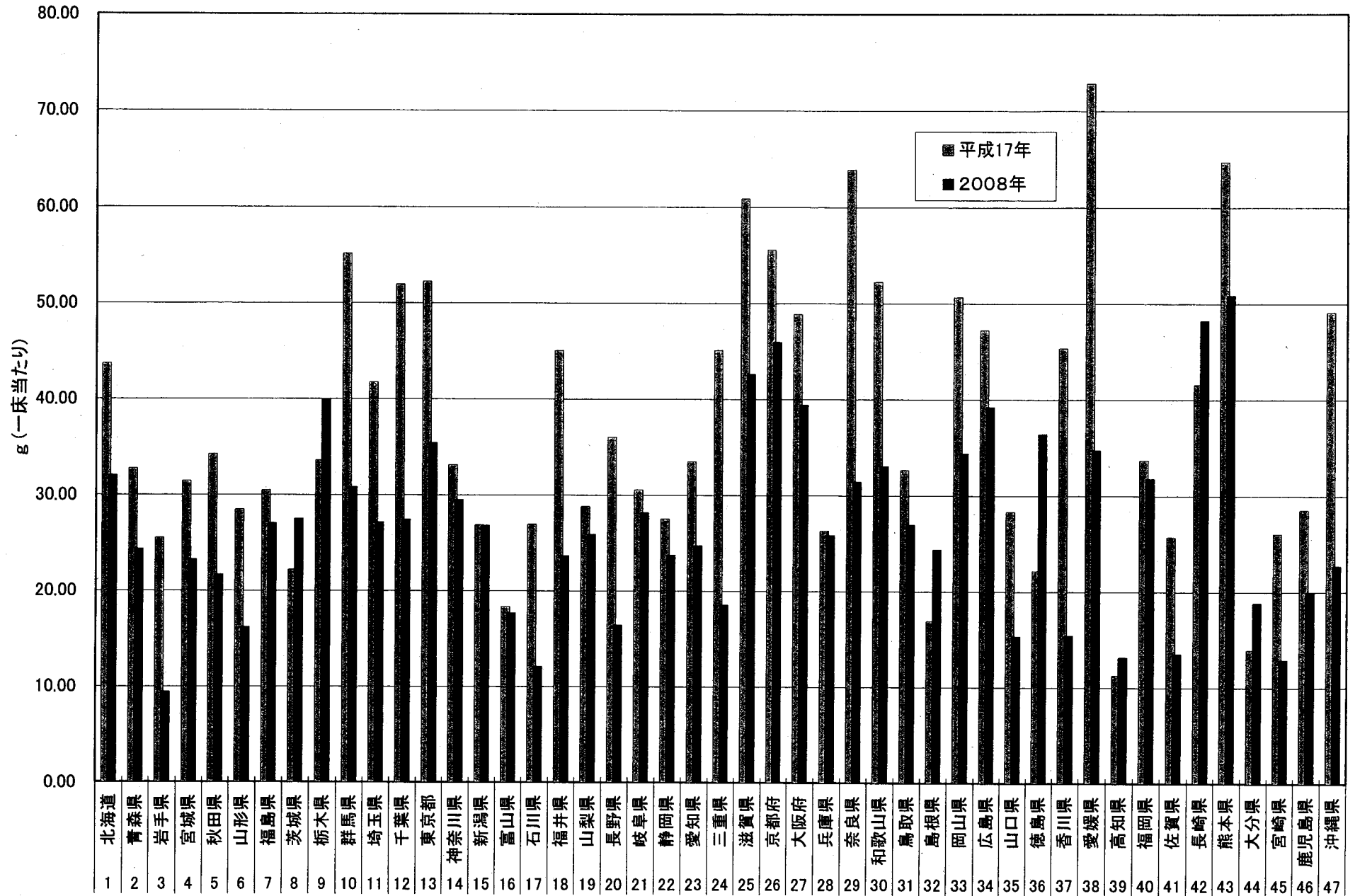
2008年 アルブミン製剤使用量の多い順



アルブミン製剤使用量 年度比較-増減



アルブミン製剤使用量



都道府県別免疫グロブリン製剤使用量(1床当たりのg数)

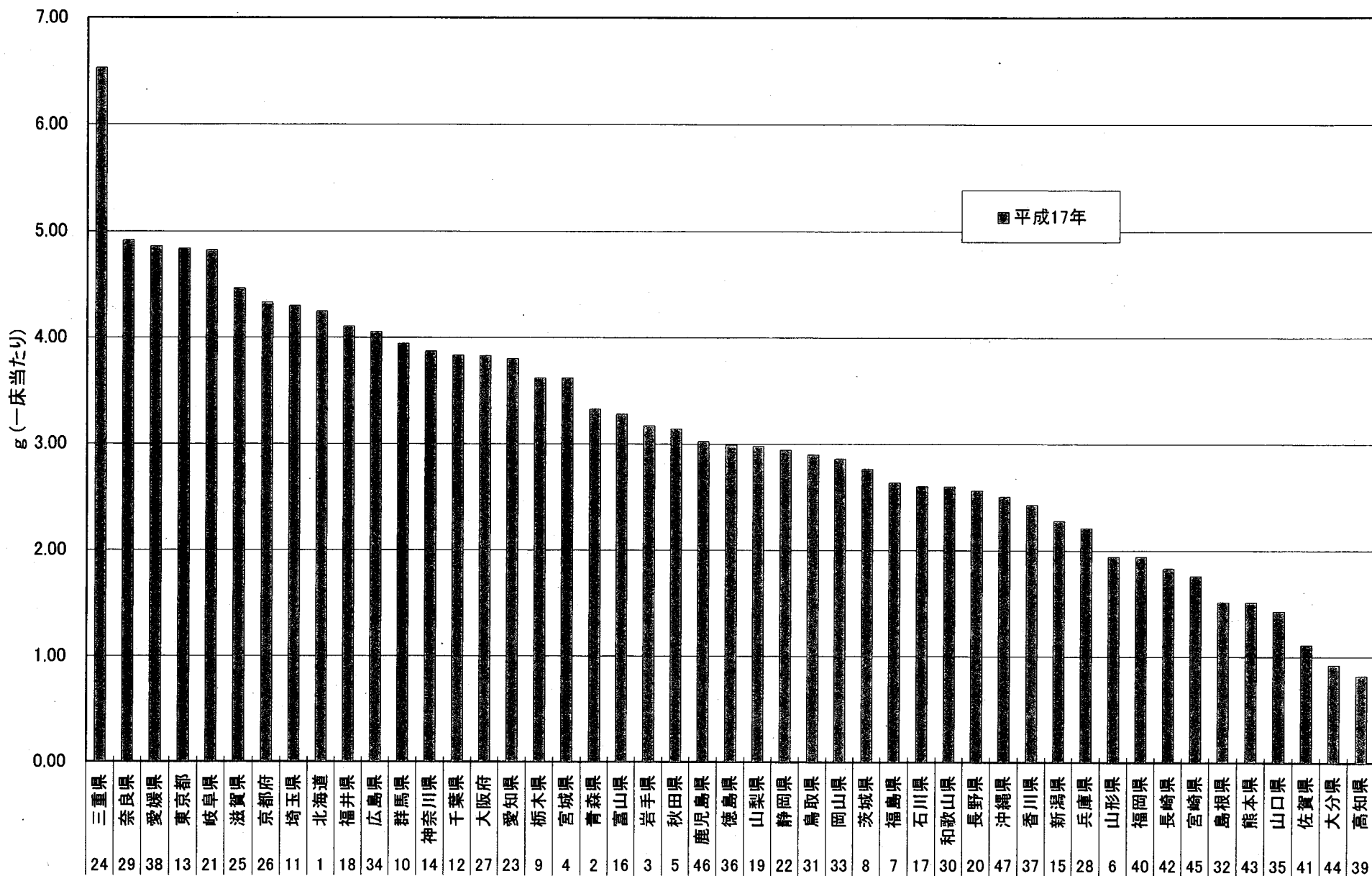
【平成17年】

No	名称	使用量	No	名称	使用量	No	名称	使用量	No	名称	使用量	No	名称	使用量
01	北海道	4.2473	11	埼玉県	4.2979	21	岐阜県	4.8220	31	鳥取県	2.9010	41	佐賀県	1.1109
02	青森県	3.3271	12	千葉県	3.8315	22	静岡県	2.9447	32	島根県	1.5148	42	長崎県	1.8341
03	岩手県	3.1700	13	東京都	4.8379	23	愛知県	3.7996	33	岡山県	2.8620	43	熊本県	1.5136
04	宮城県	3.6189	14	神奈川県	3.8723	24	三重県	6.5298	34	広島県	4.0546	44	大分県	0.9220
05	秋田県	3.1414	15	新潟県	2.2778	25	滋賀県	4.4637	35	山口県	1.4276	45	宮崎県	1.7643
06	山形県	1.9440	16	富山県	3.2799	26	京都府	4.3301	36	徳島県	2.9923	46	鹿児島県	3.0240
07	福島県	2.6353	17	石川県	2.6010	27	大阪府	3.8277	37	香川県	2.4287	47	沖縄県	2.5036
08	茨城県	2.7668	18	福井県	4.1054	28	兵庫県	2.2111	38	愛媛県	4.8596			
09	栃木県	3.6193	19	山梨県	2.9796	29	奈良県	4.9166	39	高知県	0.8206			
10	群馬県	3.9446	20	長野県	2.5632	30	和歌山県	2.5987	40	福岡県	1.9430			

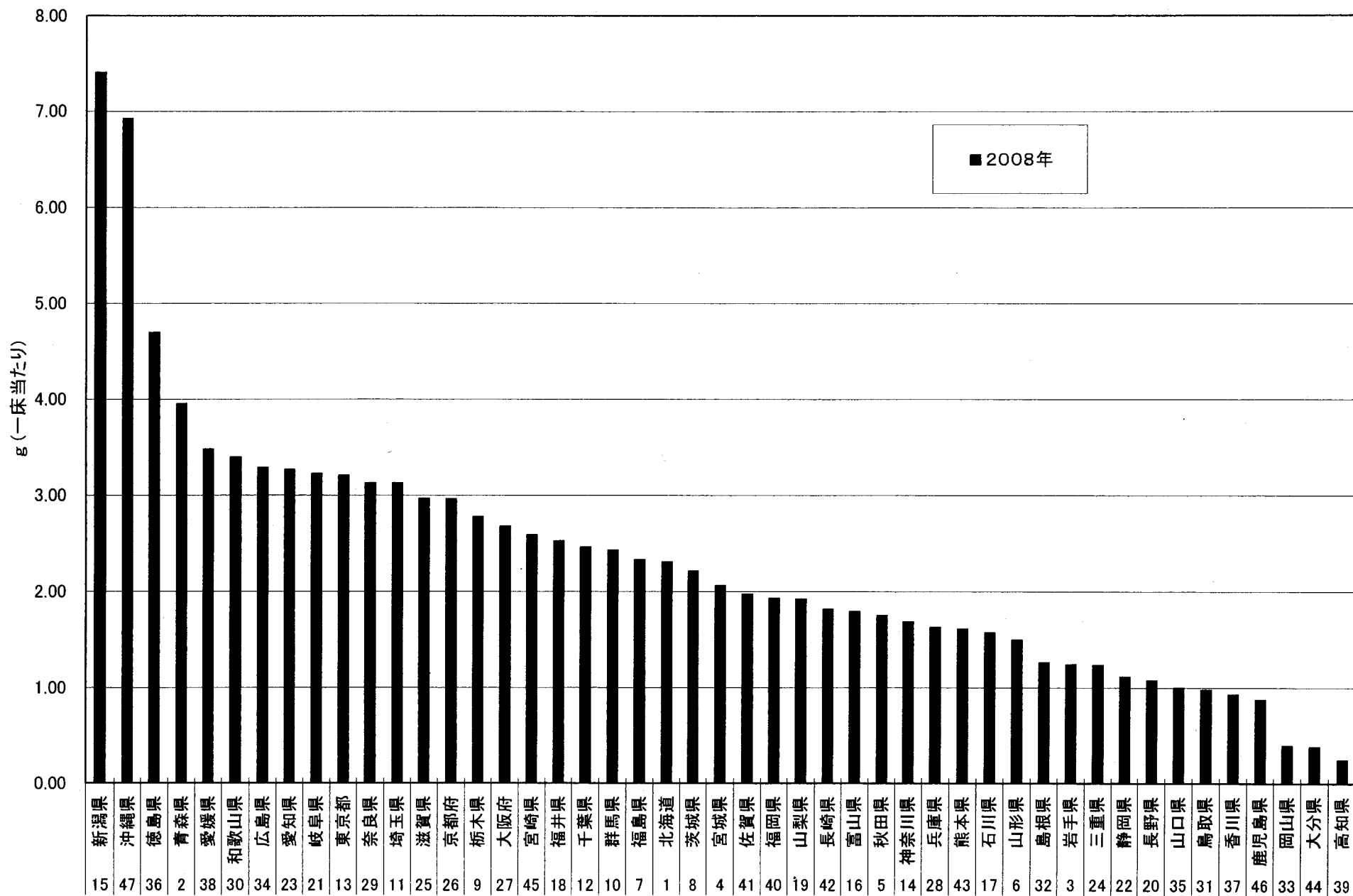
【2008年】

No	名称	使用量	No	名称	使用量	No	名称	使用量	No	名称	使用量	No	名称	使用量
01	北海道	2.3117	11	埼玉県	3.1334	21	岐阜県	3.2294	31	鳥取県	0.9837	41	佐賀県	1.9752
02	青森県	3.9590	12	千葉県	2.4669	22	静岡県	1.1185	32	島根県	1.2652	42	長崎県	1.8218
03	岩手県	1.2470	13	東京都	3.2123	23	愛知県	3.2742	33	岡山県	0.3996	43	熊本県	1.6171
04	宮城県	2.0656	14	神奈川県	1.6893	24	三重県	1.2406	34	広島県	3.2935	44	大分県	0.3894
05	秋田県	1.7575	15	新潟県	7.4113	25	滋賀県	2.9729	35	山口県	1.0052	45	宮崎県	2.5945
06	山形県	1.5029	16	富山県	1.7964	26	京都府	2.9663	36	徳島県	4.6998	46	鹿児島県	0.8791
07	福島県	2.3353	17	石川県	1.5767	27	大阪府	2.6849	37	香川県	0.9320	47	沖縄県	6.9286
08	茨城県	2.2164	18	福井県	2.5308	28	兵庫県	1.6329	38	愛媛県	3.4850			
09	栃木県	2.7842	19	山梨県	1.9274	29	奈良県	3.1341	39	高知県	0.2510			
10	群馬県	2.4333	20	長野県	1.0808	30	和歌山県	3.4006	40	福岡県	1.9348			

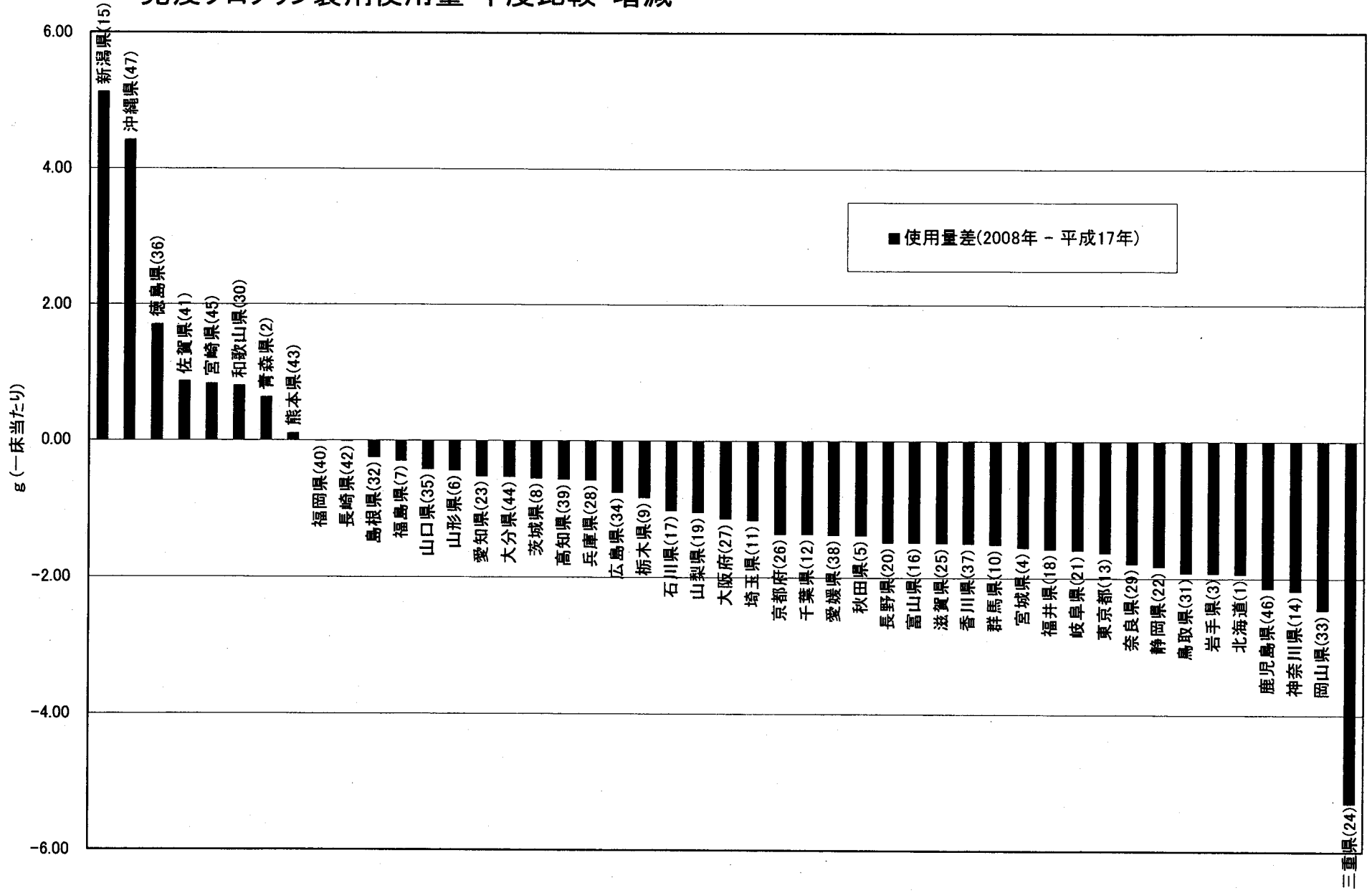
平成17年 免疫グロブリン製剤使用量の多い順



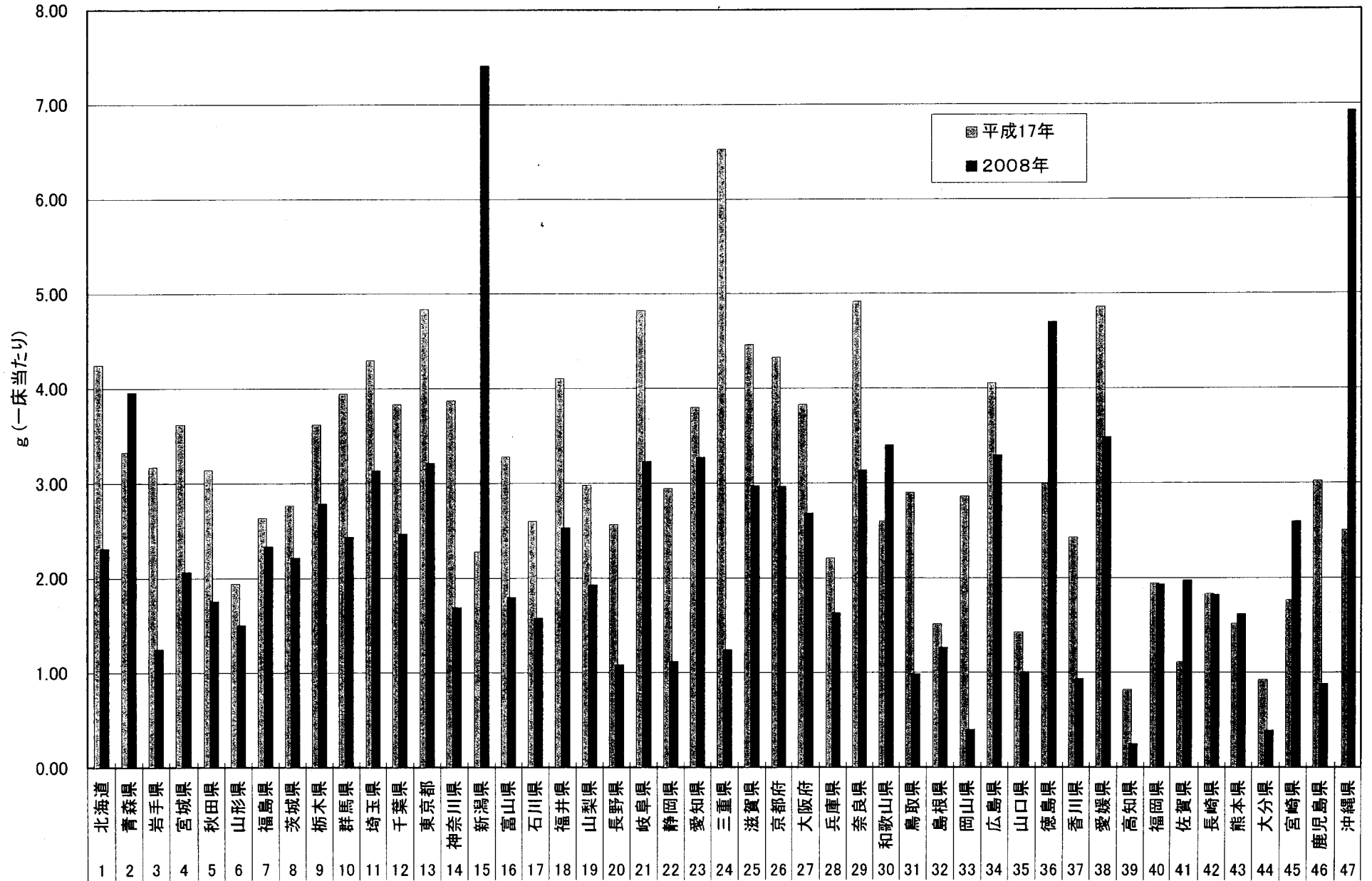
2008年 免疫グロブリン製剤使用量の多い順



免疫グロブリン製剤使用量 年度比較-増減



免疫グロブリン製剤使用量



問1 輸血業務の一元管理の有無

【平成 17 年】

番号	項目	1~299 床		300~499 床		500 床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	はい	1474	42.01%	275	70.88%	204	86.08%	1953	47.24%
2	いいえ	2035	57.99%	113	29.12%	33	13.92%	2181	52.76%
	合計	3509		388		237		4134	

【2008 年 1-5.輸血検査・輸血用血液を同一部署で一元管理する体制がとられていますか】

番号	項目	1~299 床		300~499 床		500 床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	一元管理している	1404	68.16%	382	89.88%	266	95.68%	2052	74.27%
2	一元管理できてない	656	31.84%	43	10.12%	12	4.32%	711	25.73%
	合計	2060		425		278		2763	

問1-2 一元管理の有無と赤血球濃厚液の使用量(1床当たりの単位数)との関連

【平成 17 年】

番号	回答	1~299 床	300~499 床	500 床以上	全体
1	はい	4.2628	6.3593	9.7479	6.7186
2	いいえ	3.0709	4.8583	5.2558	3.5776
	施設数	3509	388	237	4134

【2008 年】

番号	回答	1~299 床	300~499 床	500 床以上	全体
1	一元管理している	3.1934	5.9435	9.5677	6.2594
2	一元管理できてない	2.2717	2.5906	2.9793	2.3792
	施設数	2060	425	278	2763

問1-3 一元管理の有無と新鮮凍結血漿の使用量(1床当たりの単位数)との関連

【平成17年】

番号	回答	1~299床	300~499床	500床以上	全体
1	はい	1.5306	3.6338	7.2357	4.0655
2	いいえ	1.0992	2.7309	3.3507	1.5845
	施設数	3509	388	237	4134

【2008年】

番号	回答	1~299床	300~499床	500床以上	全体
1	一元管理している	0.9888	3.0778	6.1376	3.4287
2	一元管理できてない	0.6073	1.0242	1.4356	0.7401
	施設数	2060	425	278	2763

問1-4 輸血業務はどの部門で行われていますか？

【平成17年】 複数選択

番号	項目	1~299床		300~499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
a	輸血部(室)又は検査部(室)	1372	36.52%	101	49.27%	32	50.79%	1505	37.39%
b	薬剤部	1458	38.81%	93	45.37%	26	41.27%	1577	39.18%
c	病棟	674	17.94%	7	3.41%	3	4.76%	684	16.99%
d	手術室	98	2.61%	4	1.95%	1	1.59%	99	2.46%
e	その他	155	4.13%	0	0.00%	1	1.59%	160	3.98%
	回答施設合計	2018		112		33		2163	

【2008年 1-4.輸血業務(製剤管理と輸血検査)の管理部門はどこですか】

番号	項目	1~299床		300~499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	輸血部門	61	2.94%	67	15.69%	154	55.40%	282	10.15%
2	検査部門	824	39.73%	255	59.72%	98	35.25%	1177	42.35%
3	薬剤部門	235	11.33%	10	2.34%	1	0.36%	246	8.85%
4	検査部門と薬剤部門	814	39.25%	95	22.25%	24	8.63%	933	33.57%
5	その他	140	6.75%	0	0.00%	1	0.36%	141	5.07%
	合計	2074		427		278		2779	

【2008年 1-6.輸血用血液を管理されている部門は】

番号	項目	1～299床		300～499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	輸血部門	63	3.06%	72	16.94%	156	56.52%	291	10.55%
2	検査部門	1231	59.82%	313	73.65%	107	38.77%	1651	59.84%
3	薬剤部門	498	24.20%	32	7.53%	12	4.35%	542	19.64%
4	検査部門と薬剤部門	107	5.20%	8	1.88%	0	0.00%	115	4.17%
5	その他	159	7.73%	0	0.00%	1	0.36%	160	5.80%
	合計	2058		425		276		2759	

問2 血漿分画製剤の管理は

【17年度】

複数選択

番号	項目	1～299床		300～499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
a	輸血部（室）又は検査部（室）	116	3.05%	6	1.51%	7	2.80%	129	2.90%
b	薬剤部	3247	85.49%	385	96.73%	237	94.80%	3869	87.02%
c	病棟	359	9.45%	3	0.75%	2	0.80%	364	8.19%
d	手術室	34	0.90%	2	0.50%	1	0.40%	37	0.83%
e	その他	42	1.11%	2	0.50%	3	1.20%	47	1.06%
	回答施設合計	3473		390		245		4108	

【2008年1-7.アルブミン製剤を管理している部門は】

番号	項目	1～299床		300～499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	輸血部門	22	1.08%	11	2.61%	40	14.34%	73	2.67%
2	検査部門	67	3.30%	28	6.64%	17	6.09%	112	4.10%
3	薬剤部門	1846	90.85%	357	84.60%	205	73.48%	2408	88.08%
4	検査部門と薬剤部門	34	1.67%	25	5.92%	13	4.66%	72	2.63%
5	その他	63	3.10%	1	0.24%	4	1.43%	69	2.52%
	合計	2032		422		279		2734	

問3 血漿分画製剤のデータは輸血部門と共有していますか

【17年度】

番号	項目	1～299床		300～499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	はい	826	25.26%	159	42.51%	107	46.72%	1092	28.20%
2	いいえ	2444	74.74%	215	57.49%	122	53.28%	2781	71.80%
	合計	3270		374		229		3873	

【2008年1-8.アルブミン製剤の使用状況を輸血部門が把握していますか】

番号	項目	1～299床		300～499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	把握している	1218	62.24%	325	77.01%	244	88.09%	1787	67.28%
2	把握していない	739	37.76%	97	22.99%	33	11.91%	869	32.72%
	合計	1957		422		277		2656	

問4-1 輸血責任医師の任命について

【17年度】

番号	項目	1～299床		300～499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	はい	1484	41.27%	306	77.86%	215	88.11%	2005	47.37%
2	いいえ	2112	58.73%	87	22.14%	29	11.89%	2228	52.63%
	合計	3596		393		244		4233	

問4-2 輸血責任医師の専任と兼任について

【17年度】

番号	項目	1～299床		300～499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
a	専任である	68	4.61%	7	2.32%	57	26.51%	132	6.63%
b	兼任である	1407	95.39%	295	97.68%	158	73.49%	1860	93.37%
	合計	1475		302		215		1992	

【2008年1-9.輸血責任医師(輸血業務担当や責任者として病院等から任命されている医師)はいますか】

番号	項目	1~299床		300~499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	いる(専任)	41	1.98%	23	5.42%	96	34.41%	160	5.78%
2	いる(兼任)	1059	51.26%	332	78.30%	169	60.57%	1560	56.34%
3	いない	966	46.76%	69	16.27%	14	5.02%	1049	37.88%
	合計	2066		424		279		2769	

問4-3 輸血責任医師の所属は

【17年度データ無し】

【2008年1-10. 輸血責任医師(専任、兼任)の現在の所属診療科は何科ですか】

複数回答

番号	項目	1~299床		300~499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	輸血部(科)	8	0.74%	5	1.43%	77	29.17%	90	5.32%
2	検査部(科)	21	1.95%	27	7.71%	25	9.47%	73	4.31%
3	消化器内科	124	11.50%	25	7.14%	7	2.65%	156	9.22%
4	循環器内科	77	7.14%	12	3.43%	4	1.52%	93	5.50%
5	呼吸器内科	26	2.41%	3	0.86%	1	0.38%	30	1.77%
6	血液内科	80	7.42%	87	24.86%	128	48.48%	295	17.43%
7	その他内科	247	22.91%	24	6.86%	14	5.30%	285	16.84%
8	小児科	11	1.02%	7	2.00%	5	1.89%	23	1.36%
9	消化器外科	176	16.33%	38	10.86%	5	1.89%	219	12.94%
10	心臓血管外科	24	2.23%	17	4.86%	12	4.55%	53	3.13%
11	呼吸器外科	9	0.83%	9	2.57%	3	1.14%	21	1.24%
12	その他外科	176	16.33%	37	10.57%	6	2.27%	219	12.94%
13	整形外科	90	8.35%	22	6.29%	6	2.27%	118	6.97%
14	泌尿器科	35	3.25%	11	3.14%	4	1.52%	46	2.72%
15	産婦人科	36	3.34%	13	3.71%	14	5.30%	53	3.13%
16	麻酔科・救急科・集中治療科	84	7.79%	40	11.43%	8	3.03%	138	8.16%
17	その他	36	3.34%	13	3.71%	77	29.17%	57	3.37%
	回答施設合計	1078		350		264		1692	

問4-4 輸血責任医師は日本輸血学会認定医ですか

【17年度】

番号	項目	1~299床		300~499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
a	はい	22	1.57%	17	5.74%	74	35.24%	113	5.92%
b	いいえ	1382	98.43%	279	94.26%	136	64.76%	1797	94.08%
	合計	1404		296		210		1910	

【2008年1-11. 輸血責任医師(専任、兼任)は】

番号	項目	1~299床		300~499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	全員が日本輸血・細胞治療学会認定医である	11	1.08%	12	3.50%	73	28.74%	96	5.94%
2	一部の者が認定医である	9	0.88%	4	1.17%	28	11.02%	41	2.54%
3	全員日本輸血・細胞治療学会認定医ではない	999	98.04%	327	95.34%	153	60.24%	1479	91.52%
	合計	1019		343		254		1616	

問5-1 輸血担当検査技師について

【17年度】輸血担当技師はいますか

番号	項目	1~299床		300~499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	はい	2197	60.67%	368	92.93%	233	95.49%	2798	65.67%
2	いいえ	1424	39.33%	28	7.07%	11	4.51%	1463	34.33%
	合計	3621		396		244		4261	

問5-2 輸血担当技師の専任と兼任について

【17年度】

番号	項目	1~299床		300~499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
a	専任である	91	4.16%	107	29.40%	172	73.82%	370	13.29%
b	兼任である	2096	95.84%	257	70.60%	61	26.18%	2414	86.71%
	合計	2187		364		233		2784	

【2008年1-14. 輸血検査業務全体を担当し責任を持つ臨床検査技師「輸血担当技師」は】

番号	項目	1～299床		300～499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	いる（専任）	96	5.19%	174	41.33%	216	78.26%	486	19.07%
2	いる（兼任）	1341	72.45%	234	55.58%	56	20.29%	1631	64.01%
3	いない	414	22.37%	13	3.09%	4	1.45%	431	16.92%
	合計	1851		421		276		2548	

問5-3 技師数は

【17年度】

番号	項目	1～299床		300～499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
a	1人	603	27.62%	80	22.10%	19	8.23%	702	25.29%
b	複数	1580	72.38%	282	77.90%	212	91.77%	2074	74.71%
	合計	2183		362		231		2776	

【2008年1-17.輸血業務を実施している臨床検査技師数(1日平均)】

人数	専任				兼任			
	1～299床	300～499床	500床以上	全体	1～299床	300～499床	500床以上	全体
0.0人	240	28	11	279	41	20	60	121
0.1～1.0人	118	141	58	317	893	198	57	1148
1.1～2.0人	15	40	71	126	354	61	31	446
2.1～3.0人	6	7	54	67	178	31	6	215
3.1～4.0人			21	21	106	12	3	121
4.1～5.0人		1	8	9	41	2		43
5.1～6.0人			9	9	19	2	1	22
6.1～7.0人			7	7	6	2	1	9
7.1～8.0人			2	2	3	1		4
8.1～9.0人			2	2		1	1	2
9.1～10.0人			2	2		1		1
10.0～20.0人					5	5	1	11
20人以上			1	1		1		1
施設数	379	217	246	842	1646	337	161	2144

人数	非常勤			
	1～299床	300～499床	500床以上	全体

0.0人	238	70	71	379
0.1~1.0人	109	14	23	146
1.1~2.0人	9	2	7	18
2.1~3.0人	2		1	3
3.1~4.0人	1			1
4.1~5.0人				
5.1~6.0人		1		1
6.1~7.0人				
7.0人以上			1	1
施設数	359	87	103	549

問5-4 認定輸血検査技師ですか？

【17年度】

番号	項目	1~299床		300~499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
a	全員が認定技師である	20	0.93%	19	5.23%	14	6.03%	53	1.94%
b	一部の者が認定技師である	98	4.58%	120	33.06%	159	68.53%	377	13.78%
c	全員認定技師ではない	2022	94.49%	224	61.71%	59	25.43%	2305	84.28%
	合計	2140		363		232		2735	

【2008年1-15.「輸血担当技師」は、日本輸血・細胞治療学会認定技師ですか】

番号	項目	1~299床		300~499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	全員が認定技師である	13	0.91%	27	6.65%	15	5.54%	55	2.62%
2	一部の者が認定技師である	63	4.42%	135	33.25%	188	69.37%	386	18.36%
3	全員認定技師ではない	1349	94.67%	244	60.10%	68	25.09%	1661	79.02%
	合計	1425		406		271		2102	

問5-5 専門性を考慮し、技師の人事異動を最小限にする配慮をしていますか。

【17年度】

番号	項目	1~299床		300~499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
a	はい	1308	65.79%	250	72.05%	164	75.23%	1722	67.45%
b	いいえ	680	34.21%	97	27.95%	54	24.77%	831	32.55%
	合計	1988		347		218		2553	

【2008年1-18.輸血業務の専門性を考慮し、技師の人事異動を最小限にする配慮をしていますか】

番号	項目	1~299床		300~499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	はい	741	44.69%	257	63.77%	194	72.39%	1192	51.18%
2	いいえ	917	55.31%	146	36.23%	74	27.61%	1137	48.82%
	合計	1658		403		268		2329	

問6 「担当技師」による輸血検査は24時間対応できる体制を取っていますか。

【17年度】

番号	項目	1~299床		300~499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	はい	1932	59.63%	329	84.79%	209	86.36%	2470	63.82%
2	いいえ	1308	40.37%	59	15.21%	33	13.64%	1400	36.18%
	合計	3240		388		242		3870	

【2008年1-36.夜間・休日の輸血検査体制について】

番号	項目	1~299床		300~499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	臨床検査技師による日当直体制	195	9.65%	295	70.57%	256	92.42%	746	27.47%
2	臨床検査技師のオンコール体制	1376	68.09%	108	25.84%	14	5.05%	1498	55.15%
3	医師・看護師が担当する体制	187	9.25%	2	0.48%	7	2.53%	189	6.96%
4	その他	263	13.01%	13	3.11%	0	0.00%	283	10.42%
	合計	2021		418		277		2716	

問7 「担当技師」、「責任医師」等の活動について、お伺いします。

問7-2 医療機関関係者は「輸血責任医師」および「輸血担当技師」が指摘する輸血医療に関する発言等を尊重するように、院内のコンセンサスの確保に努めていますか。

【17年度】

番号	項目	1~299床		300~499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
a	はい	2155	73.95%	327	88.38%	196	85.22%	2678	76.21%
b	いいえ	759	26.05%	43	11.62%	34	14.78%	836	23.79%
	合計	2914		370		230		3514	

【2008年1-19.】

番号	項目	1~299床		300~499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	はい	1007	60.92%	282	71.94%	205	77.07%	1494	64.65%
2	いいえ	646	39.08%	110	28.06%	61	22.93%	817	35.35%
	合計	1653		392		266		2311	

問7-3 「輸血担当技師」が、主治医等からの血液発注量が各種指針に準拠せず、多かった場合等に、「輸血責任医師」及び「輸血療法委員会等委員長」と協議し、その結果を踏まえ、「輸血責任医師」又は「輸血担当技師」が、主治医に対して使用量が多いことを指摘し、双方、十分な協議のもと理解を得た上で改善を促す体制にありますか。

【17年度】

番号	項目	1~299床		300~499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
a	はい	1226	42.39%	205	54.09%	142	60.17%	1573	44.85%
b	いいえ	1666	57.61%	174	45.91%	94	39.83%	1934	55.15%
	合計	2892		379		236		3507	

【2008年1-20】

番号	項目	1~299床		300~499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	はい	627	37.48%	202	50.25%	158	59.62%	987	42.18%
2	いいえ	1046	62.52%	200	49.75%	107	40.38%	1353	57.82%
	合計	1673		402		265		2340	

問8-1 院内に「輸血療法委員会等」を設置していますか。

【17年度】

番号	項目	1～299床		300～499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	はい	1516	42.04%	365	92.41%	236	96.33%	2117	49.86%
2	いいえ	2090	57.96%	30	7.59%	9	3.67%	2129	50.14%
	合計	3606		395		245		4246	

【2008年1-50.輸血療法委員会又は同様の機能を持つ委員会はありますか】

番号	項目	1～299床		300～499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	はい	1319	65.01%	396	94.74%	273	98.91%	1988	73.01%
2	いいえ	670	33.02%	20	4.78%	3	1.09%	693	25.45%
3	その他	40	1.97%	2	0.48%	0	0.00%	42	1.54%
	合計	2029		418		276		2723	

問8-2 委員長は医療機関管理者又は外科系医師（麻酔科を含む）ですか。

【17年度】

番号	項目	1～299床		300～499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
a	はい	1130	77.50%	254	72.57%	141	61.57%	1525	74.86%
b	いいえ	328	22.50%	96	27.43%	88	38.43%	512	25.14%
	合計	1458		350		229		2037	

【2008年1-51.輸血療法委員会等の委員長は医療機関管理者又は外科系医師（麻酔科を含む）ですか】

番号	項目	1～299床		300～499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	はい	1016	66.75%	302	73.84%	174	63.74%	1492	67.70%
2	いいえ	506	33.25%	107	26.16%	99	36.26%	712	32.30%
	合計	1522		409		273		2204	

問8-3 委員会に、輸血が必要な症例の多い診療科の責任者を参画させていますか。

【17年度】

番号	項目	1~299床		300~499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
a	はい	1183	83.49%	316	90.80%	215	95.98%	1714	86.17%
b	いいえ	234	16.51%	32	9.20%	9	4.02%	275	13.83%
	合計	1417		348		224		1989	

【2008年1-52.輸血療法委員会等の委員会に、輸血が必要な症例の多い診療科の責任者を参画させていますか】

番号	項目	1~299床		300~499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	はい	1044	70.35%	349	86.39%	254	93.73%	1647	76.29%
2	いいえ	440	29.65%	55	13.61%	17	6.27%	512	23.71%
	合計	1484		404		271		2159	

問9 「輸血療法委員会等」の開催頻度はどの程度ですか。

【17年度】

番号	項目	1~299床		300~499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
a	定期的（毎週）	5	0.63%	0	0.00%	0	0.00%	5	0.43%
b	定期的（毎月）	294	37.22%	64	27.95%	27	18.37%	385	33.02%
c	定期的（年3~4回）	299	37.85%	115	50.22%	101	68.71%	515	44.17%
d	定期的（年1~2回）	192	24.30%	50	21.83%	19	12.93%	261	22.38%
e	不定期	507	38.15%	67	20.62%	31	15.05%	605	32.53%
	合計	1297		296		178		1771	

【2008年1-53.輸血療法委員会の2008年(1月～12月)の年間開催回数は】

回数	1～299床	300～499床	500床以上	全体
0回	178	13	1	192
1回	87	13	4	104
2回	129	13	7	149
3回	56	12	6	74
4回	94	27	12	133
5回	34	12	7	53
6回	475	229	182	886
7回	25	12	6	43
8回	19	10	5	34
9回	8	4	3	15
10回	21	11	13	45
11回	19	11	16	46
12回	313	39	10	362
13回	2			2
16回	1			1
53回	1			1
59回	1			1
施設数	1463	406	272	2141

問10 「輸血療法委員会等」として、以下の項目で実施しているものに全て○を付けて下さい。

【17年度】 複数選択項目

番号	項目	1~299床		300~499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	血液製剤（主に、赤血球製剤、新鮮凍結血漿、アルブミン製剤、血小板製剤）の使用状況について、診療科ごとに比較検討している。	816	30.77%	245	36.73%	172	34.19%	1233	32.26%
2	貴施設の管理者の指示のもと、毎月、診療科ごとの発注量、使用量、廃棄量等を各診療科の長に配布し、診療科内に掲示している。	265	9.99%	76	11.39%	49	9.74%	390	10.20%
3	血液製剤ごとに、月次、年次の使用量の比較・分析を行うとともに、「血液製剤の平均的使用量について」（平成16年12月27日付け薬食発第1227001号各都道府県知事あて厚生労働省医薬食品局長通知）を活用するなどして、他医療機関と比較検討及び評価している。	406	15.31%	135	20.24%	114	22.66%	655	17.14%
4	各種指針*の遵守状況について、各科から報告・検討するとともに、当該医療機関での解決が難しい場合、合同輸血療法委員会又は「採血時の欧州滞在歴に関する問診の強化及び血液製剤の適正使用の推進について」（平成17年4月21日付け薬食発第0421003号（社）日本医師会長等あて厚生労働省医薬食品局長通知）における別紙連絡先に照会している。	62	2.34%	22	3.30%	18	3.58%	102	2.67%
5	輸血実施症例の検討と使用指針に基づいた評価を行っている。	518	19.53%	90	13.49%	73	14.51%	681	17.82%
6	必要に応じて、保険診療での査定状況も症例毎に検討している。	585	22.06%	99	14.84%	77	15.31%	761	19.91%
	回答施設合計	1406		322		209		1937	

【2008年1-55.輸血療法委員会で実施している項目は】

複数回答

番号	項目	1~299床		300~499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	血液製剤（主に、赤血球製剤、新鮮凍結血漿、アルブミン製剤、血小板製剤）の使用状況について、診療科ごとに比較検討している。	833	63.59%	315	80.15%	242	89.30%	1390	70.42%
2	毎月、診療科ごとの発注量、使用量、廃棄量等を各診療科の長に配布し、診療科内に掲示している。	276	21.07%	89	22.65%	68	25.09%	433	21.94%
3	血液製剤ごとに、月次、年次の使用量の比較・分析を行うとともに、他医療機関と比較検討及び評価している。	284	21.68%	148	37.66%	100	36.90%	532	26.95%
4	各種指針の遵守状況について、各科から報告・検討するとともに、当該医療機関での解決が難しい場合、合同輸血療法委員会等に照会している。	107	8.17%	39	9.92%	29	10.70%	175	8.87%
5	輸血実施症例の検討と使用指針に基づいた評価を行っている。	386	29.47%	114	29.01%	108	39.85%	608	30.80%
6	必要に応じて、保険診療での査定状況も症例毎に検討している。	224	17.10%	102	25.95%	85	31.37%	411	20.82%
7	輸血検査（血液型、不規則抗体、交差適合試験等）の方法について、輸血の安全性を高めるために適宜見直している。	572	43.66%	183	46.56%	147	54.24%	902	45.69%
8	輸血実施時の手順について、マニュアル通りに実施されているかどうかを監査している。	557	42.52%	126	32.06%	84	31.00%	767	38.86%
9	輸血療法に伴う事故・副作用等について、各部署毎の状況を把握して具体的対策を講じている。	598	45.65%	213	54.20%	170	62.73%	981	49.70%
10	輸血関連情報の伝達について、個々の医療従事者へ直接伝達する方法がある。	627	47.86%	197	50.13%	140	51.66%	964	48.83%
11	自己血輸血の実施方法について、成分採血やフィブリン糊の導入を検討したことがある。	37	2.82%	30	7.63%	53	19.56%	120	6.08%
12	輸血療法委員会議事録の院内への周知について、特に医師に周知されたことを確認している。	411	31.37%	112	28.50%	77	28.41%	600	30.40%
	回答施設合計	1310		393		271		1974	

問11 血液製剤による副作用（輸血感染症を含む）の報告体制について、該当するもの全てに○を付けて下さい。

【17年度】 複数選択項目

番号	項目	1～299床		300～499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	病院内、日赤血液センター、厚生労働省のいずれへの報告体制もない。	454	8.09%	14	1.68%	2	0.34%	470	6.67%
2	病院内の報告体制はある。	2754	49.08%	352	42.21%	225	37.69%	3331	47.30%
3	日赤血液センターへの報告体制はある。	1696	30.23%	311	37.29%	226	37.86%	2233	31.71%
4	厚生労働省への報告体制はある。	707	12.60%	157	18.82%	144	24.12%	1008	14.31%
	回答施設合計	3500		393		243		4136	

【2008年1-47.輸血用血液による副作用の報告システムについて】

番号	項目	1～299床		300～499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	輸血部門に報告する体制	94	4.74%	111	26.43%	164	59.64%	369	13.78%
2	薬剤部門に報告する体制	196	9.89%	17	4.05%	6	2.18%	219	8.18%
3	検査部門に報告する体制	549	27.70%	205	48.81%	87	31.64%	841	31.42%
4	輸血療法委員会に報告する体制	400	20.18%	37	8.81%	13	4.73%	450	16.81%
5	リスクマネジメント委員会等に報告する体制	238	12.01%	12	2.86%	1	0.36%	251	9.38%
6	主治医がカルテに記載するのみ	320	16.15%	17	4.05%	2	0.73%	339	12.66%
7	副作用の報告体制がない	120	6.05%	14	3.33%	2	0.73%	136	5.08%
8	その他	65	3.28%	7	1.67%	0	0.00%	72	2.69%
	合計	1982		420		275		2677	

【2008年1-48.輸血副作用発症例を血液センターへ報告されていますか】

番号	項目	1～299床		300～499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	報告のあった症例は原則としてすべてセンターへ報告している	620	34.14%	61	14.81%	20	7.35%	701	28.04%
2	中等度以上の副作用症例のみ報告している	553	30.45%	265	64.32%	221	81.25%	1039	41.56%
3	通常はセンターへ報告していない	643	35.41%	86	20.87%	31	11.40%	760	30.40%
	合計	1816		412		272		2500	

【2008年1-49.血漿分画製剤による副作用の報告システムについて】

番号	項目	1～299床		300～499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	輸血部門に報告する体制	47	2.48%	21	5.16%	36	13.43%	104	4.04%
2	薬剤部門に報告する体制	512	26.98%	205	50.37%	146	54.48%	863	33.54%
3	検査部門に報告する体制	206	10.85%	53	13.02%	14	5.22%	273	10.61%
4	輸血療法委員会に報告する体制	319	16.81%	25	6.14%	10	3.73%	354	13.76%
5	リスクマネジメント委員会等に報告する体制	222	11.70%	15	3.69%	7	2.61%	244	9.48%
6	主治医がカルテに記載するのみ	308	16.23%	28	6.88%	5	1.87%	341	13.25%
7	副作用の報告体制がない	187	9.85%	47	11.55%	34	12.69%	268	10.42%
8	その他	97	5.11%	13	3.19%	16	5.97%	126	4.90%
	合計	1898		407		268		2573	

問12 輸血感染症の疑いのある症例について、過去の輸血例も含めて、血液製剤による健康被害の防止の観点から、日本赤十字社又は厚生労働省へ報告していますか。

【17年度】

番号	項目	1～299床		300～499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	はい	336	9.37%	127	32.40%	142	57.96%	605	14.33%
2	いいえ	124	3.46%	8	2.04%	3	1.22%	135	3.20%
3	今まで該当する症例がなかった	3125	87.17%	257	65.56%	100	40.82%	3482	82.47%
	合計	3585		392		245		4222	

【2008年1-96.改正薬事法では特定生物由来製品による感染症などの副作用が発生した場合、医療施設は厚生労働省に報告する義務があることが記載されていますが、このことに取り組んでいますか】

番号	項目	1～299床		300～499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	取り組んでいる	1088	58.28%	304	75.81%	224	83.58%	1616	63.72%
2	取り組んでいない	282	15.10%	30	7.48%	21	7.84%	333	13.13%
3	現在検討中である	497	26.62%	67	16.71%	23	8.58%	587	23.15%
	合計	1867		401		268		2536	

問13 血液製剤の適正使用に関する、病院としての取組について該当するのはどれですか。

【17年度】

番号	項目	1~299床		300~499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	病院全体での取組はなく、個々の医師にまかされている。	2424	67.84%	146	37.24%	71	28.98%	2641	62.73%
2	レセプト減点になるものについてのみ、指導している。	325	9.10%	28	7.14%	15	6.12%	368	8.74%
3	輸血療法委員会等で検討し、病院全体で取り組んでいる。	824	23.06%	218	55.61%	159	64.90%	1201	28.53%
	合計	3573		392		245		4210	

【2008年1-57.輸血製剤の適正使用に関する、病院としての取り組みは】

番号	項目	1~299床		300~499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	輸血療法委員会等で検討し、病院全体で取り組んでいる。	717	36.66%	245	59.47%	203	77.19%	1165	44.28%
2	レセプト減点になるものについてのみ、指導している。	111	5.67%	23	5.58%	15	5.70%	149	5.66%
3	病院全体での取組はなく、個々の医師にまかされている。	1128	57.67%	144	34.95%	45	17.11%	1317	50.06%
	合計	1956		412		263		2631	

問14 「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」及び「薬事法」に基づく医療関係者の責務について、

1. 担当医師等の関係者が、特定生物由来製品を使用する際には、原材料に由来する感染のリスク等について、特段の注意を払う必要があることを、当該関係者は十分認識していると思いますか。

【2008年該当項目無し】

2. 血液製剤（血漿分画製剤を含む）の有効性及び安全性その他当該製品の適正な使用のために必要な事項について、担当医師等の関係者が、患者又はその家族に対し、適切かつ十分な説明を行い、その理解を得る（インフォームド・コンセント）ように、努めていると思いますか。

【2008年該当項目無し】

問15 平成17年の厚生労働省通知「血液製剤の使用指針・輸血療法の実施に関する指針」(以下「指針」)の遵守体制について、該当するものはどれですか。

【17年度】

番号	項目	1~299床		300~499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	「指針」の遵守は、個々の医師に任せており、輸血関連部門への配布はしていない。	837	23.54%	28	7.20%	9	3.69%	874	20.87%
2	輸血関連部門に「指針」を配布しているが、院内に周知していない。	667	18.76%	64	16.45%	25	10.25%	756	18.05%
3	院内の医師、看護師に「指針」を配布し周知しているがマニュアルはない。全くしていない	999	28.10%	80	20.57%	63	25.82%	1142	27.27%
4	「指針」を院内に周知し、院内の輸血療法マニュアルに反映させて実施している。	1052	29.59%	217	55.78%	147	60.25%	1416	33.81%
	合計	3555		389		244		4188	

【2008年1-97.血液法と改正薬事法の理念および上記の「輸血療法の実施に関する指針と血液製剤の使用指針」について、輸血療法委員会を通じて院内に周知していますか】

番号	項目	1~299床		300~499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	内容を含め十分周知している	654	34.97%	213	51.95%	185	69.03%	1052	41.29%
2	内容まで十分知らせていない	890	47.59%	170	41.46%	75	27.99%	1135	44.54%
3	全くしていない	168	8.98%	12	2.93%	1	0.37%	181	7.10%
4	その他	158	8.45%	15	3.66%	7	2.61%	180	7.06%
	合計	1870		410		268		2548	

問16 指針」によれば、「(輸血後肝炎について)、早期治療を図るため、医師が感染リスクを考慮し、感染が疑われる場合などには、輸血前後の肝炎ウイルス関連マーカーの検査等を行う 必要がある」とされていますが、この指針の条件に該当する患者に対する検査の実施状況について、該当するものはどれですか。

【17年度】

番号	項目	1~299床		300~499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	ほとんど行っていない。	471	13.25%	53	13.70%	26	10.74%	550	13.14%
2	一部は行っている。	997	28.04%	200	51.68%	140	57.85%	1337	31.95%
3	ほぼ全ての患者に対して行っている。	768	21.60%	80	20.67%	60	24.79%	908	21.70%
4	該当する症例なし。	1320	37.12%	54	13.95%	16	6.61%	1390	33.21%
	合計	3556		387		242		4185	

【2008年1-28.遡及調査のガイドラインに沿って輸血前感染症検査を行っていますか】

番号	項目	1~299床		300~499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	輸血前検査として独立して、原則として全ての症例で行っている	381	19.11%	89	21.55%	62	22.55%	532	19.84%
2	輸血前検査として独立して、症例によって行っている	116	5.82%	32	7.75%	30	10.91%	178	6.64%
3	入院時検査や術前検査と合わせて行っている	1220	61.18%	251	60.77%	162	58.91%	1633	60.89%
4	行っていない	277	13.89%	41	9.93%	21	7.64%	339	12.64%
	合計	1994		413		275		2682	

【2008年1-29遡及調査のガイドラインに沿って輸血後感染症検査を行なっていますか】

番号	項目	1~299床		300~499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	原則として全ての症例で行っている	509	26.40%	135	33.33%	93	34.44%	737	28.31%
2	症例によって行っている	875	45.38%	192	47.41%	143	52.96%	1210	46.48%
3	行っていない	544	28.22%	78	19.26%	34	12.59%	656	25.20%
	合計	1928		405		270		2603	

問17 厚生労働省通知「血液製剤の平均的使用量について」（平成16年12月27日付薬食発第1227001号各都道府県知事あて厚生労働省医薬食品局長通知、以下「通知」）について、医療機関管理者にお伺いします。

【17年度】「通知」を知っていますか

番号	項目	1~299床		300~499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
a	はい	2733	78.31%	332	88.30%	206	89.18%	3271	79.84%
b	いいえ	757	21.69%	44	11.70%	25	10.82%	826	20.16%
	合計	3490		376		231		4097	

【17年度】「通知」の周知状況、活用方法について

番号	項目	1~299床		300~499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
a	院内への周知徹底等の特段の対応はせず、個々の医師に任せている。	1109	41.20%	54	16.51%	38	19.00%	1201	37.31%
b	輸血関連部門には配布しているが、院内全体への周知徹底はしていない。	882	32.76%	143	43.73%	79	39.50%	1104	34.30%
c	院内全体での周知徹底はしている。	415	15.42%	60	18.35%	40	20.00%	515	16.00%
d	院内に周知徹底し、輸血療法委員会等で評価・検討するとともに、院内の輸血療法マニュアルに反映させるなど、活用している。	286	10.62%	70	21.41%	43	21.50%	399	12.40%
	合計	2692		327		200		3219	

【2008年該当項目無し】

問18 厚生労働省通知「血液製剤の適正使用推進に係る先進事例等調査結果及び具体的強化方策の提示等について」（平成17年6月6日付各都道府県衛生主管部（局）長あて厚生労働省医薬食品局血液対策課長通知）を知っていますか。（医療機関管理者にお伺いします。）

番号	項目	1~299床		300~499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	はい	2124	60.93%	274	72.68%	180	77.59%	2578	62.95%
2	いいえ	1362	39.07%	103	27.32%	52	22.41%	1517	37.05%
	合計	3486		377		232		4095	

【2008年該当項目無し】